

# 貧困プロフィール

---

## ブルキナファソ

2013 年度版

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

当資料は政府・国際機関の報告書・統計・資料からの抜粋を邦訳し、執務参考資料として取り纏めたものであり、JICA の見解を示すものではありません。転載・引用に際しては、直接、出典元から行い、当資料からの転載・引用は行わないでください。

基盤
JR
14-005



## 目次

I. 貧困状況の概観.....	1
II. ブルキナファソの貧困削減のための政策枠組み.....	4
1. 貧困削減戦略・目標の有無と現状.....	4
III. 所得貧困による分析.....	10
1. 貧困線とデータ.....	10
2. 貧困状況・ブルキナファソの貧困率・貧困ギャップ率・ジニ分析.....	11
IV. 所得貧困以外による分析.....	17
1. 人間開発指数のトレンド、地域・国際比較.....	17
2. MDGs 達成状況（2005 年/2006 年、2008 年/2009 年と目標値の比較）.....	19
3. 食糧安全保障・脆弱性による分析.....	27
V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析.....	31
1. 社会的に排除されているグループの存在と貧困指標との関連.....	31
2. その他の要因と貧困との関連.....	40
VI. 貧困層・社会的弱者に影響を与えている短期的・長期的要因、リスクとショック.....	41
VII. 重点支援分野と貧困との関連性.....	52
1. 農業開発.....	52
2. 教育の質の向上.....	53
3. 域内経済統合.....	58
添付 1. 参考文献リスト.....	67
添付 2. 主要な情報源リスト.....	72

## 図表・地図目次

図表 2	貧困の不平等に関する指数（2003年、2009年）	v
図表 3	貧困率の推移	v
図表 4	貧困ギャップ率の推移	vi
2014年1月6日図表 5	ブルキナファソのHDI指標の推移（1980年 - 2012年）	..vi
図表 6	MDG達成状況	vii
図表 7	ブルキナファソの経済（2009年 - 2012年）	2
図表 8	金の生産量（2009年 - 2012年）	3
図表 9	居住地域別による貧困率の推移（1994年、1998年、2003年、2009年）	.. 7
図表 10	男女別貧困率の状況（2003年）	8
図表 11	世帯主の経済・社会的状況による貧困率（1998年、2003年）	9
図表 12	国家貧困線（1994年/1995年、1998年、2003年、2009年/2010年）	... 10
図表 13	貧困率の推移	12
図表 14	貧困関連データの比較（2003年、2009年）	13
図表 15	地方別貧困率（2003年、2009年）	13
図表 16	貧困ギャップ率の推移	15
図表 17	貧困の不平等に関する指数（2003年、2009年）	16
図表 18	新たな構成指標と算出方法に基づくブルキナファソのHDIの推移	17
図表 19	ブルキナファソのHDI指標の推移（1980年 - 2012年）	18
図表 20	ブルキナファソのHDIの地域・国際比較（2012年）	18
図表 21	ブルキナファソの多次元貧困率と他国との比較（2010年、2010年/2011年）	19
図表 22	MDGs達成状況	20
図表 23	初等教育の純就学率の推移（1990年 - 2008年）	22
図表 24	医療従事者による介助のある出産割合（1993年 - 2006年）	24
図表 25	衛生施設のある世帯割合（1990年 - 2007年）	26
図表 26	世帯の月次支出構成	29
図表 27	所得と食料安全保障（2012年）	30
図表 28	子供の所得貧困率（2003年、2010年）	31
図表 29	子供の貧困関連指数（都市部・地方、2003年・2010年）	32
図表 30	過去7日間に労働した子供（5 - 17歳）の割合（2003年、2010年）	.... 33
図表 31	出生証明書を持たない18歳未満の子供の割合（2010年）	34
図表 32	15-49歳の女性の貧困率（2003年、2010年）	35
図表 33	女性の保健・医療施設へのアクセス	36
図表 34	出生証明書を持たない女性の割合（2010年）	37
図表 35	10代の女子に対する社会的保護の状況（1993年 - 2010年）	38

図表 36	世帯主の婚姻状況による貧困状況（2003年、2009年）	40
図表 37	干ばつによる損害（1908年 - 2004年/2005年）	43
図表 38	洪水による損害（1988年 - 1999年）	44
図表 39	ブルキナファソへの送金国の分類	46
図表 40	ブルキナファソと UEMOA 加盟国間の送金	47
図表 41	ブルキナファソにおける送金機関とカバレッジ状況	48
図表 42	UEMOA 加盟国の実質経済成長予想（%）	51
図表 43	主要な食糧生産量（2009年/2010年 - 2012年/2013年、1,000トン）	52
図表 44	教育・就学率の推移（1993年 - 2010年）	54
図表 45	初等教育及び中等教育の純就学率（2003年、2010年）	55
図表 46	初等教育の進学率・留年率・退学率（2012年/2013年度）	56
図表 47	教室内の座席の不足及び教室の整備状況（2000年度 - 2011年度）	56
図表 48	教師一人に対する児童の割合（2000年度-2011年度）	57
図表 49	世帯主の教育レベルによる貧困率（2003年、2009年）	58
図表 50	ビジネス環境のランク	59
図表 51	国境を越えた取引のランク	60
図表 52	ブルキナファソの道路に関する指数の比較	61
図表 53	電気へのアクセス（2009年）	62
図表 54	女性の調理・照明のためのエネルギーアクセス及び電話非所有率	64
図表 55	女性の金融へのアクセス及び貯蓄（2010年）	66
地図 1	ブルキナファソ全土地図	viii
地図 2	貧困率（2009年）	ix
地図 3	貧困率（2009年）	14
地図 4	食料安全保障に脆弱な世帯の分布	28
地図 5	10代の女子に対する社会保護状況（地方別、2010年）	39
地図 6	ブルキナファソの気候	42
地図 7	マリ難民のブルキナファソへの流入（2013年9月）	50
地図 8	電気インフラ	63

## 貧困関連用語解説<sup>1</sup>

### (1) 貧困指標

用語	解説
絶対的貧困 Absolute Poverty	ある最低必要条件の基準が満たされていない状態を示す。一般的には、人間として生存するために最低限必要とされる食糧と食糧以外のものが購入できるだけの所得または支出水準(=貧困線)に達していない状態を絶対的貧困と定義する。
相対的貧困 Relative Poverty	ある地域社会の大多数よりも貧しい状態を示す。例えば所得が地域内の下位10%に属する人は、衣食住が満たされていても相対的貧困者となる。また中所得国以上では、人間の生存の為に最低限必要な食糧と食糧以外の日常品ではなく、その社会で一般的な生活を送るために必要な収入・支出水準を元に相対的貧困線を設定する国もある。OECD などでは中位可処分所得の50%の水準を高所得国の相対的貧困線と定義している。
貧困線 Poverty Line	所得または支出水準が最低限の必要を満たす水準が貧困線であり、それに達しない層(=貧困者)が全人口に占める割合を貧困率・または指数として示す。これにより表される貧困を経済的貧困、所得貧困とも言う。
国際貧困線 International Poverty Line	MDGsを機に、国際的な絶対的貧困線として「1日1ドル未満」が設定された。国際貧困線以下の人口が世界の絶対的貧困者の数であり、その割合が国際貧困率として算出される。 1993年購買力平価での最貧15か国の貧困線の平均が月32.74米ドル(一日1.08米ドル)であったことから、MDGs指標として一日1ドルの指標が採用された。最貧国の国別貧困線の各国の物価は異なり、同じ1ドルで購入できるものには大差があるため、購買力平価(Purchasing Power Parity: PPP)を用いて、米国での1ドルの購買力に相当するように調整されている。2005年以降の貧困線は物価上昇などを加味し、2008年購買力平価における最貧15か国の貧困線の平均から、一日1.25ドルが国際比較のための絶対貧困線とされている <sup>2</sup> 。
国別貧困線 National Poverty Line	国ごとの実情を反映し、各国政府が家計調査のデータなどに基づいて独自に設定したのが国別貧困線である。国内における物価の差異に対応するため、都市、地方、あるいは地域ごとに設定された異なる貧困線を元に、統計的に国家貧困線を算出する場合もある。多くの発展途上国では、下記のベーシックニーズ貧困線が国別貧困線とされている <sup>3</sup> 。下記の食糧貧困線とベーシックニーズ貧困線は、国によりUpper/Lower Poverty Lineや、Poverty Line/Extreme Poverty Lineなど様々な表現があるため、定義によっていずれであるかを判断する必要がある。
食糧貧困線 Food Poverty Line	人間が生存していく上で、最低限必要なエネルギーを摂取できる支出レベルを算出したもの。摂取エネルギーは、FAOが提唱する成人の一日に必要なカロリー(2100カロリー)を基準に、国ごとに設定される場合が多い。そのカロリーを摂取するための基本的な食糧の種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは

<sup>1</sup> 主に国際協力総合研修所 2008年3月『指標から国を見る～マクロ経済指標、貧困指標、ガバナンス指標の見方～』

([http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC\\_and\\_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200803\\_aid02.pdf](http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/pdf/200803_aid02.pdf))、世界銀行(2009) Measuring Poverty and Inequality (<http://go.worldbank.org/4WJH9JQ350>) を元に作成。

<sup>2</sup> World Bank (2008) Dollar a Day Revisited (<http://go.worldbank.org/SMQ2FCW4J0>)

<sup>3</sup> World Bank (2012) Poverty Measurement Methodology by Country (<http://go.worldbank.org/OP02MEZ880>)

用語	解説
	地域の差異も配慮される場合がある。
ベーシックニーズ貧困線 CBN/Basic Needs Poverty Line	ベーシックニーズ費用手法(The Cost of Basic Needs Method: CBN)を用い、食糧貧困線に非食糧、すなわち衣類、住居、医療などのための最低限の支出金額を足して算出される。
非食糧貧困線 Non Food Poverty Line	非食糧ニーズの種類や構成は国ごとに設定され、都市・地方、あるいは地域の差異も配慮される場合も多い。また、所得貧困(Income Poverty)という表現がされることが多いが、途上国での貧困率の算出に使用されるのはほとんどの場合支出に関するデータである。
貧困ギャップ率・指数 Poverty Gap Ratio・Index、P <sub>1</sub>	貧困率が貧困の発生頻度を表すのに対し、貧困ギャップ率は貧困の平均的「深さ(depth)」を表すために用いられる。通常、国別貧困率を元に算出される。貧困ギャップ率は、国民の収入または支出が貧困線に対して何パーセント下回っているか(乖離しているか)を、貧困線以上の人々の乖離率をゼロとして計算した数値である <sup>4</sup> 。貧困ギャップ率に貧困線と人口を乗じた数字が、貧困削減のための最低限の必要な費用であるとされ、政策上の目安となる。
二乗貧困ギャップ率・指数 Squared Poverty Gap Ratio・Index / Poverty Severity Ratio・Index、P <sub>2</sub>	貧困の極端な「深刻さ(severity)」を表すために用いられる。通常国別貧困率を元に算出される。二乗貧困ギャップ率は、貧困線からの乖離率を二乗したもので、乖離率が高ければ(貧困の深刻度が高い)、より大きく数値に反映される。

## (2) 不平等指数

用語	解説
ジニ係数・指数 Gini Coefficient, Gini Index	国や地域の所得(または消費)の平等・不平等度を示す指標。完全に平等な社会では0になり、完全に不平等な社会では1となる。なお、世界銀行の統計などではパーセンテージ表示のジニ指数(Gini Index)を用いており、完全に不平等な社会を100で表す。通常30から50の範囲になることが多く、40を超えると社会が不安定になると一般的に言われている。
所得階層別の所得シェア Percentage Share of Income or Consumption	ジニ係数を算出する基礎となるもの。人口を所得水準で階層分類し(五分位または十分位)、国全体の所得のうちそれぞれの階層が占める割合を%で表示。一般的に、五分位の最下層20%が全体の6-10%の消費を行い、最上位20%が全体の35-50%の消費を行っている場合が多い。

## (3) 開発指数

用語	解説
人間開発指数 Human Development Index: HDI <sup>5</sup>	人間開発の3つの基本的側面(①寿命、②知識、③生活水準)を総合して、各国の達成度を測定、比較するための指数。経済指標のみでは表せない国の開発の度合いを表す尺度として、UNDPが1990年に刊行した『人間開発報告(Human Development Report)』の中で用い各国のランキングを行ったことに始まる。算出方法は、①平均寿命指数、②教育指数(成人識字率と初等・中等・高等教育総就

<sup>4</sup> World Bank (2009) Handbook on poverty and inequality  
(<http://issuu.com/world.bank.publications/docs/9780821376133>.)

<sup>5</sup> HDIの詳細についてはUNDP HDI公式ウェブサイト(<http://hdr.undp.org/en/data/about/>)はUNDP東京事務所から日本語でも入手可能。  
[http://www.undp.org/content/tokyo/ja/home/library/human\\_development/human\\_development1.html](http://www.undp.org/content/tokyo/ja/home/library/human_development/human_development1.html))

用語	解説
	<p>学率)、③GDP指数(1人当たり実質GDP(PPP))について、それぞれの最大値を1、最小値を0として算出し、3つの平均値をとる。</p> <p>2010年よりHDIの派生指標として不平等調整済みHDI(IHDI)が導入されている。また、それまで発表されていたジェンダー開発指数(GDI)とジェンダーエンパワメント指数(GEM)に代わってジェンダー不平等指数(GII)が、人間貧困指数(HPI)に代わって多次元貧困指数(MPI)が導入された。</p>

#### (4) 他

用語	解説
ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals:MDGs) <sup>6</sup>	<p>2000年9月、ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の国連加盟国代表は、21世紀の国際社会の目標として「国連ミレニアム宣言」を採択した。この宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたものがMDGsである。MDGsは国際社会の課題に対して、2015年までの達成を目指す期限付きの8つの目標、21のターゲット、60の指標を掲げている。貧困に関する様々な経済的・非経済的指標が取り上げられているが、その第1目標が、「一日1.0ドルの未満(2005年以降は1.25ドル)の絶対的貧困線以下の人口を半減する」という目標である。</p>
脆弱度分析と地図化 (Vulnerability Analysis and Mapping: VAM) <sup>7</sup>	<p>食糧安全保障の観点から、「人々が最低限の厚生水準を維持できないほど、食糧へのアクセスや食糧消費が急速に低下する可能性」を「脆弱性」と定義し、地域別の脆弱度を地図化したものがVAMである。WFPが緊急食糧援助を行う際、援助を最も必要とする人々や地域を選定し、効果的な支援を行うために開発した。</p> <p>VAMは、包括的食糧安全保障・脆弱度分析(CFSVA)、食糧安全保障モニタリング・システム、GISデータを用いた空間分析と地図化の3つの活動からなる。CFSVAでは、社会政治環境、地理・気象条件、マクロ経済、教育・保健水準、農業、環境などの観点から食糧安全保障と脆弱性に影響を与える要素を包括的に分析する。既存のデータに加え、家計調査や市場価格調査などを組み合わせ、「どのような社会グループ(生計活動や食糧入手手段)が影響を受けやすいか」などの分析も行う。</p>

<sup>6</sup> MDGについては国連MDG公式ウェブサイト。( <http://unstats.un.org/unsd/mdg/default.aspx> )

<sup>7</sup> VAMに関してはWFP VAMウェブサイト ( <http://www.wfp.org/food-security> )

略語表

略語	正式名称	日本語名
BACB	Banque agricole et commerciale du Burkina	ブルキナ農業・商業銀行
CSLP	Cadre Stratégique de Lutte Contre la Pauvreté	貧困削減戦略
CVECA	Caisses villageoises d'épargne et de crédit autogérées	農業村落貯蓄・管理信用金庫
EICVM	Enquête intégrale sur les conditions de vie des ménages	世帯生活状況調査
FAAR	Fonds d'appui aux activités rémunératrices des femmes	女性所得創出活動支援基金
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国際連合食糧農業機関
FGM	Female Genital Mutilation	女性器切除
HDI	Human Development Indicators	人間開発指数
HIPC	Heavily Indebted Poor Countries	重債務貧困国
HIV/AIDS	Human Immunodeficiency Virus/ Acquired Immunodeficiency Syndrome	ヒト免疫不全ウイルス感染症・後天性免疫不全症候群
INSD	Institut National Statistique et de la Démographique	国立統計人口局
LPDRD	Lettre de politique de développement rural décentralisé	分権化地方開発政策
MDGs	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MNLA	Mouvement national de libération de l'AZAWAD	アザワド地方解放国民運動
MPI	Multidimensional Poverty Index	多次元貧困指数
NGO	Non Governmental Organization	非政府組織
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development	経済協力開発機構
PANA	Programme d'action national d'adaptation aux variabilités et aux changements climatiques	気候変動対策に関わる国家適応行動計画
PNSR	Programme national du secteur rural	地方セクター国家計画

略語	正式名称	日本語名
SCADD	Stratégie de Croissance Accélérée de Développement Durable	持続的な開発及び成長の加速化戦略文書
SDR	Stratégie de développement rural	地方開発政策
SONAPOST	Société nationale des postes	郵便局
UEMOA	Union économique et monétaire ouest africaine	西アフリカ経済通貨同盟
UNDP	United Nations Development Programme	国際連合開発計画
WFP	World Food Programme	国際連合世界食糧計画

図表 1 主要指標一覧 (2001年 - 2011年) <sup>8</sup>

2013年11月版

主要指標一覧 【ブルキナファソ】		2001年	2009年	2010年	2011年	2011年の 地域平均値
社 会 指 標	地表面積(1000km <sup>2</sup> )	274	274	274	274	n.a.
	人口(百万人)	11.9	15.1	15.5	16.0	887.2
	人口増加率(%)	2.9	2.9	2.9	2.9	2.7
	出生時平均余命(歳)	51	55	55	55	56
	妊産婦死亡率(出生10万人当たり)	n.a.	n.a.	300	n.a.	n.a.
	乳児死亡率(出生1000人当たり)	95.2	72.9	70.1	67.7	65.9
	栄養不足人口(%)	27.0	24.2	24.5	25.9	24.5
	一人当たりカロリー摂取量(kcal/1日) <sup>1)</sup>	2,414	2,647	n.a.	n.a.	n.a.
	初等教育総就学率(男)(%)	50.5	79.1	79.1	82.4	103.6
	初等教育総就学率(女)(%)	36.7	70.1	72.0	76.4	96.3
	初等教育修了率(%)	24.9	41.9	45.1	n.a.	69.2
	中等教育総就学率(男)(%)	11.9	21.8	23.4	25.3	44.8
	中等教育総就学率(女)(%)	7.9	16.3	17.9	19.8	37.1
	高等教育総就学率(%)	1.1	3.3	3.3	3.9	7.6
	男性成人識字率(15歳以上の男性人口の内、%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	68.8
	女性成人識字率(15歳以上の女性人口の内、%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	51.3
	女性の国会議員比率(%)	8.1	15.3	15.3	15.3	20.5
	絶対的貧困水準(1日1.25\$以下の人口比、%)	n.a.	44.6	n.a.	n.a.	n.a.
	失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
	軍事費(対GDP比、%)	1.1	1.3	1.3	1.3	1.5
携帯電話契約者数(100人当たり)	0.6	23.9	34.7	45.3	53.3	
人間開発指数 <sup>2)</sup> (2011年ランキング: 181位/187カ国)	0.330	n.a.	0.334	0.340	0.472	
経 済 指 標	GDP(百万USD)	2,813	8,348	9,209	10,396	1,278,135
	一人当たりGNI(USD)	240	550	600	620	1,256
	実質GDP成長率(%)	6.6	3.0	7.9	4.2	4.5
	産業構造(対GDP比、%)					
	農業	37.0	35.6	35.4	33.8	11.6
	工業	19.5	18.1	23.0	24.3	29.7
	サービス業	43.5	46.3	41.7	41.9	58.6
	産業別成長率(%)					
	農業	20.5	-9.3	10.7	-4.8	n.a.
	工業	-10.6	14.7	12.2	11.1	n.a.
	サービス業	2.3	5.7	4.9	5.8	5.3
	総資本形成率(対GDP比、%)	13.8	24.7	25.5	23.6	21.7
	貯蓄率(対GDP比、%)	-0.1	9.5	17.6	16.1	17.7
	消費者物価上昇率(インフレ、%)	5.0	2.6	-0.8	2.8	5.9
	財政収支(対GDP比、%)	n.a.	-4.7	-4.4	-2.4	n.a.
	中央政府債務残高(対GDP比、%)	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
貿易収支(対GDP比、%)	-13.9	-15.2	-7.8	-7.4	-2.7	
経常収支(対GDP比、%)	n.a.	-4.6	-2.0	n.a.	n.a.	
外国直接投資純流入額(百万ドル)	9	56	39	7	42,180	
対外債務残高(対GNI比、%)	53.6	23.0	24.7	23.8	n.a.	
DSR(対外債務返済比率、%)	13.8	3.8	2.5	n.a.	n.a.	
総外貨準備高(百万ドル)	261	1,296	1,068	957	n.a.	
(輸入支払い可能月数)	n.a.	7.6	4.8	n.a.	4.9	
名目対ドル為替レート <sup>3)</sup>	733.04	472.19	495.28	471.67	n.a.	
(CFA Francs per US Dollar; Period Average)						
政 治 指 標	政治体制: 共和制、大統領に実権					
	憲法: 1991年6月2日新憲法承認、11日施行 元首: 大統領、ブーリス・コンパオレ(Blaise Compaore)、直接選挙制、任期5年、1991年12月24日就任。 2010年12月20日4期目就任 議会: 一院制(国民議会)、111議席、比例代表制、任期5年 内閣: 大統領が任免、首相 リュック・アドルフ・ティエオ(Luc Adolphe Tiao)、2011年4月21日発足					

出典: World Development Indicators Online (September 2013) World Bank

\*1: FAO Food Balance Sheets (June 2012) FAOSTAT Homepage

\*2: Human Development Reports (2003/2011) UNDP

\*3: International Financial Statistics Online (October 2013) IMF

\*4: 世界年鑑 2013 共同通信社

注: ●地域平均値はサブサハラ・アフリカの数値(地域分類は別添参照)

●「人口」、「GDP」、「外国直接投資純流入額」及び「総外貨準備高(百万ドル)」の「2011年の地域平均値」においては、地域の総数を示す

●総就学率は、学齢人口に占める就学者総数(年齢を問わない)の割合であるため、数値が100を超えることがある

<sup>8</sup> JICA 研究所にて年 3 回改定。 <https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/shihyo-p.html> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

中央政府歳入・歳出【ブルキナファソ】

	2009年		2010年		2011年		2011年	
	(十億CFAフワン)	(十億CFAフワン)	(十億CFAフワン)	(十億CFAフワン)	(百万US\$)*	対GDP比**		
歳入	772	880	1,047	2,219	21.2%	対ドルレート		
租税収入	495	566	696	1,474	14.1%	471.87		
社会保障	0	0	0	0	0.0%			
贈与受取	232	199	254	538	5.1%			
その他	45	116	98	208	2.0%			
歳出	499	530	628	1,331	12.7%	GDP(現地通貨)		4,937
人件費	228	246	281	596	5.7%			
財貨・サービス	95	91	97	206	2.0%			
固定資本減耗	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.			
利払い	17	21	28	60	0.6%			
補助金	25	29	32	67	0.6%			
贈与支払	31	34	37	78	0.7%			
扶助費	0	0	0	0	0.0%			
その他	103	109	153	324	3.1%			
非金融資産の純増	457	599	535	1,134	10.8%			
財政収支	-185	-249	-116	-246	-2.4%			

総支出内訳(目的別分類)【ブルキナファソ】

	2009年		2010年		2011年		2011年	
	(十億CFAフワン)	(十億CFAフワン)	(十億CFAフワン)	内訳	(百万US\$)*	対GDP比**		
総支出	956	1,129	628	100.0%	1,331	12.7%		
一般サービス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
国防	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
公安	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
経済関連	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
農林水産業	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
エネルギー	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
鉱工業・建設業	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
運輸	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
通信	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
環境保全	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
住宅・生活関連施設	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
保健・医療	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
レクリエーション・文化	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
教育	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		
社会保障・福祉	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.		

注 総支出内訳における総支出には非金融資産の純増を含む。  
 \* 対A換算レートはOFFICIAL Rate、Period Average (出典) IMF, International Financial Statistics (Online), October 2013  
 \*\* GDP (出典) IMF, World Economic Outlook Database, October 2013  
 出典: IMF, Government Finance Statistics (Online), October 2013  
 会計年度は1月～12月

対ブルキナファソ JICA 事業実績

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	累計
円借款(承諾額)	-	-	-	-	-	-
(実行額)	-	-	-	-	-	-
無償資金協力	0.67	40.01	12.71	4.78	29.56	
技術協力	9.57	12.55	14.54	14.11	9.98	127.45
(うち機材供与)	0.21	0.54	0.34	0.43	0.47	4.28

対ブルキナファソ JICA 技術協力人数実績

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	累計
研修員受入	104	91	110	89	87	837
専門家派遣	7	41	78	61	61	273
調査員派遣	32	20	23	40	22	590
協力員派遣	33	69	43	0	10	343
その他ボランティア	0	0	0	0	0	0

注 年の区切りは日本の会計年度(4月～3月)。数値は単年度併当額(派員JICA実施監視案件)  
 出典: JICA事業実績

対ブルキナファソ ODA 実績

《我が国》	支出種別、単位: 百万ドル			
暦年	政府貸付券	無償資金協力	技術協力	合計
2007年	-	14.70	5.73	20.43
2008年	-	11.39	9.58	20.98
2009年	-	37.84	11.93	49.77
2010年	-	25.47	16.11	41.59
2011年	-	24.08	16.22	40.30
累計	-	308.28	112.99	421.29

《D.A.C 諸国・国際機関》

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2009年	フランス 77.42	オランダ 65.98	米国 51.12	日本 49.77	ドイツ 47.50	49.77	452.87
2010年	フランス 63.83	米国 62.11	オランダ 54.36	ドイツ 52.51	日本 41.59	41.59	458.78
2011年	フランス 78.54	米国 67.33	オランダ 53.88	ドイツ 43.78	デンマーク 42.57	40.30	467.08

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2009年	IDA 223.93	EU Inv 165.43	AIDF 82.90	IMF 54.15	GFATM 30.29	71.57	628.27
2010年	IDA 191.23	EU Inv 164.11	AIDF 80.80	GFATM 62.22	Int.Dev Bank 26.13	73.88	598.17
2011年	IDA 219.24	EU Inv 138.11	AIDF 86.83	GFATM 22.95	UNICEF 16.57	37.34	521.04

注 年の区切りは1月～12月の暦年。国際機関の順位は別添参照  
 出典: OECD/DAC

図表 2 貧困の不平等に関する指数（2003 年、2009 年）

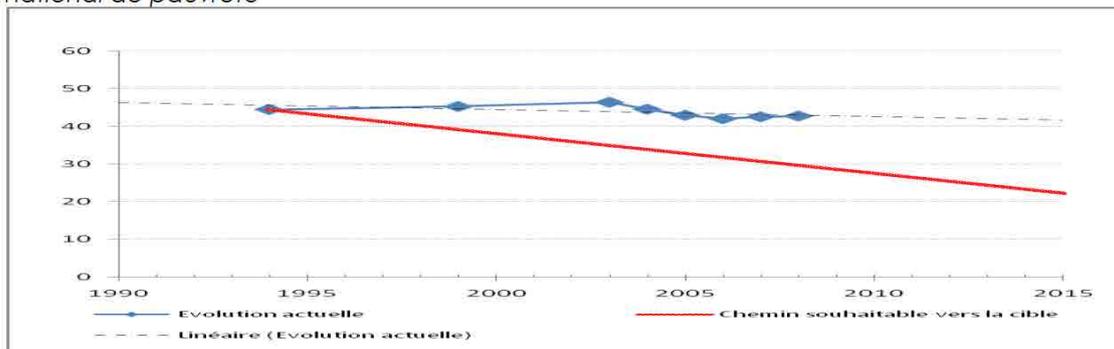
Table 1.5: Inequality indices in 2003 and 2009

	2009				2003 (povmap)				2003 (reweighting)			
	Gini	Theil	q90/10	q90/50	Gini	Theil	q90/10	q90/50	Gini	Theil	q90/10	q90/50
<b>National</b>	<b>0.40</b>	<b>0.31</b>	<b>5.18</b>	<b>2.49</b>	<b>0.43</b>	<b>0.37</b>	<b>6.16</b>	<b>2.70</b>	<b>0.43</b>	<b>0.36</b>	<b>6.40</b>	<b>2.83</b>
<b>Location</b>												
Rural	0.35	0.23	4.43	2.20	0.38	0.27	5.39	2.47	0.36	0.26	4.70	2.31
Urban	0.43	0.37	6.07	2.68	0.49	0.45	8.89	3.40	0.40	0.31	6.08	2.48
<b>Region</b>												
Hauts-Bassins	0.41	0.33	5.26	2.74	0.46	0.42	6.44	2.96	0.40	0.30	5.03	2.27
Boucle du Mouhoun	0.33	0.21	4.11	2.02	0.42	0.37	5.59	2.55	0.38	0.26	5.54	2.85
Sahel	0.44	0.37	6.89	2.73	0.32	0.18	4.22	2.31	0.34	0.20	4.12	2.36
Est	0.37	0.25	4.56	2.33	0.35	0.22	4.33	2.38	0.35	0.24	3.53	1.79
Sud-Ouest	0.37	0.29	4.30	2.12	0.41	0.31	5.88	2.65	0.39	0.29	4.26	2.33
Centre-Nord	0.36	0.26	4.33	2.32	0.39	0.28	5.89	2.49	0.33	0.20	4.66	2.32
Centre-Ouest	0.35	0.23	4.39	2.23	0.41	0.31	6.26	2.61	0.41	0.28	6.83	3.17
Plateau central	0.33	0.23	3.73	1.97	0.39	0.33	5.25	2.17	0.42	0.68	3.82	2.27
Nord	0.38	0.28	4.88	2.47	0.40	0.30	5.90	2.84	0.39	0.30	5.55	2.70
Centre-Est	0.37	0.26	4.59	2.36	0.40	0.29	5.67	2.63	0.35	0.22	4.70	2.46
Centre	0.44	0.39	6.38	2.79	0.52	0.53	11.08	3.87	0.41	0.33	6.59	2.73
Cascades	0.33	0.21	4.10	2.09	0.40	0.31	5.15	2.49	0.49	0.54	10.40	4.36
Centre-Sud	0.31	0.18	3.50	1.93	0.35	0.23	4.32	2.21	0.35	0.21	5.03	2.25

(出所) World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.10  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

図表 3 貧困率の推移

Graphique 1 : Proportion de la population vivant avec un revenu annuel inférieur au seuil national de pauvreté

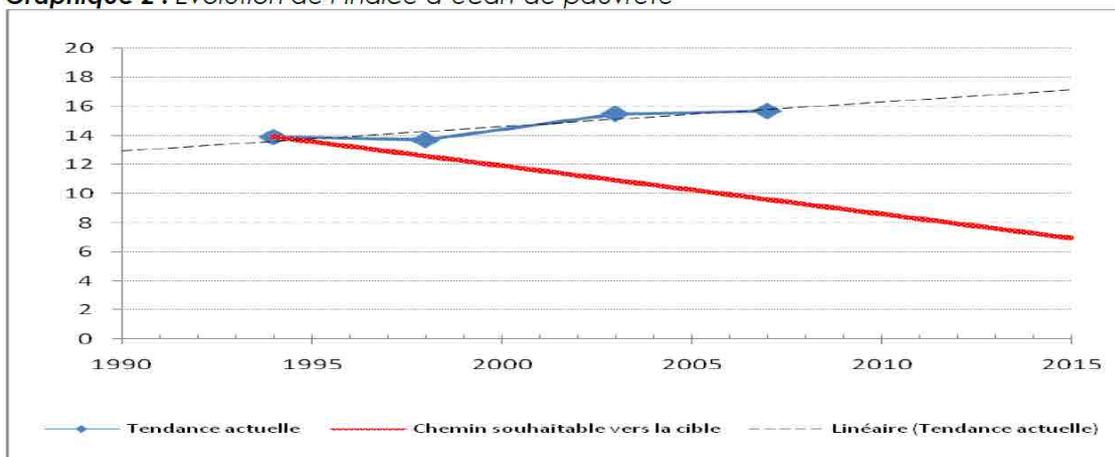


(注) Evolution actuelle : 実際の推移  
 Chemin souhaitable vers la cible : 目標に向けた望ましい推移  
 Linéaire (Evolution actuelle) : 一次線 (実際の推移)

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.8  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

図表 4 貧困ギャップ率の推移

Graphique 2 : Evolution de l'indice d'écart de pauvreté



(注) Tendance actuelle : 実際の傾向

Chemin souhaitable vers la cible : 目標に向けた望ましい推移

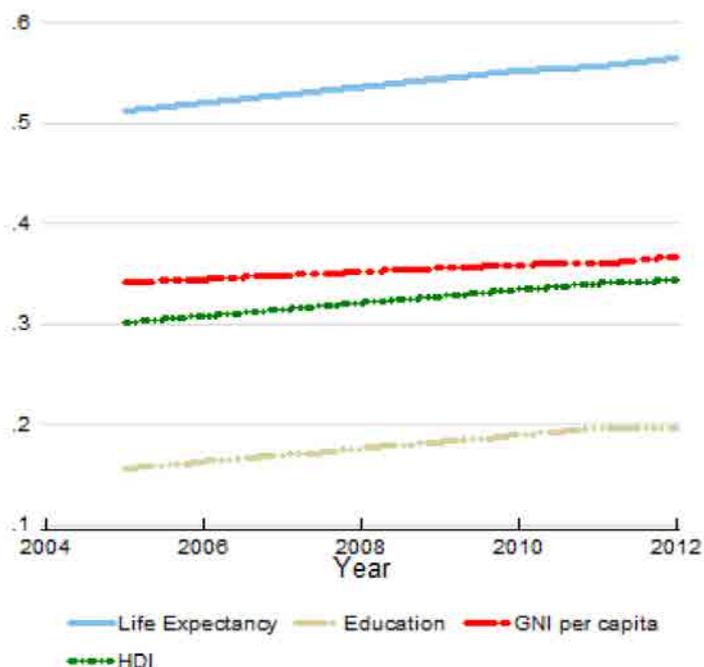
Linéaire (Evolution actuelle) : 一次線 (実際の傾向)

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.9

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

2014年1月6日図表 5 ブルキナファソの HDI 指標の推移 (1980年 - 2012年)

Figure 1: Trends in Burkina Faso's HDI component indices 2005-2012



(出所) UNDP, Explanatory note on 2013 HDR composite indices

<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/BFA.pdf> (2014年1月6日アクセス)

## 図表 6 MDG 達成状況

ANNEXE 1 : Chances de réalisation des cibles OMD

Tableau 17 : Chances de réalisation des cibles OMD

Objectifs et cibles	Indicateurs de suivi des progrès accomplis	Valeur de référence	Valeur à mi-parcours	Chances indicateurs	Chances cibles
<b>Objectif 1: Éliminer l'extrême pauvreté et la faim</b>					
Cible 1A: Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population dont le revenu est inférieur à un dollar par jour	1.1 Proportion de la population disposant de moins d'un dollar par jour en parité du pouvoir d'achat (PPA) <sup>[i]</sup>	44,5% (1994)	43,2 (2005)	Improbable	Improbable
	1.2 Indice d'écart de la pauvreté	13,9% (1994)	14,1% (2005)	Improbable	
	1.3 Part du quintile le plus pauvre de la population dans la consommation nationale	8,8% (1994)	8,4% (2003)	Improbable	
Cible 1B: Assurer le plein-emploi et la possibilité pour chacun, y compris les femmes et les jeunes, de trouver un travail décent et productif	1.4 Taux de croissance du PIB par personne occupée	5,3% (1994)	3,8% (2007)	Potentiellement réalisable	Potentiellement réalisable
	1.5 Ratio emploi/population	84,4% (1994)	86,2% (2003)	Potentiellement réalisable	
Cible 1C: Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population qui souffre de la faim	1.8 Prévalence de l'insuffisance pondérale chez les enfants de moins de 5 ans	29,5% (1993)	31,7% (2007)	Improbable	Improbable
	1.9 Proportion de la population n'atteignant pas le niveau minimal d'apport calorique	46,6% (1990)	32,8% (2006)	Improbable	
<b>Objectif 2: Assurer l'éducation primaire pour tous</b>					
Cible 2A: D'ici à 2015, donner à tous les enfants, garçons et filles, partout dans le monde, les moyens d'achever un cycle complet d'études primaires	2.1 Taux brut de scolarisation dans le primaire (proxy)	30,0% (1990)	72,4 (2008)	Probablement	Improbable
	2.1 Taux net de scolarisation dans le primaire	33,7% (1994)	57,9% (2008)	Potentiellement réalisable	
	2.2 Proportion d'écoliers ayant commencé la première année d'études primaires qui terminent l'école primaire	23,7% (1996)	41,7 (2008)	Improbable	
	2.3 Taux d'alphabétisation des 15-24 ans, femmes et hommes	15,0% (1990)	39,3% (2007)	Improbable	
<b>Objectif 3: Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes</b>					
Cible 3A: Éliminer les disparités entre les sexes dans les enseignements primaire et secondaire d'ici à 2005 si possible, et à tous les niveaux de l'enseignement en 2015 au plus tard	3.1 Rapport filles/garçons dans l'enseignement primaire	0,62% (1990)	0,88 (2009)	Potentiellement réalisable	Improbable
	3.3 Proportion des sièges occupés par les femmes au parlement national	3% (1962)	12,7% (2009)	Improbable	
<b>Objectif 4: Réduire la mortalité des enfants de moins de 5 ans</b>					
Cible 4A: Réduire de deux tiers, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans	4.1 Taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans	204,5% (1993)	142% (2006)	Improbable	Improbable
	4.2 Taux de mortalité infantile	107,6% (1993)	51,7% (2006)	Improbable	
	4.3 Proportion d'enfants d'1 an vaccinés contre la rougeole	49,3% (1990)	87,6% (2006)	Probable	
<b>Objectif 5: Améliorer la santé maternelle</b>					
Cible 5A: Réduire de trois quarts, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité maternelle	5.1 Taux de mortalité maternelle	566/100 000 (1993)	307/100 000 (2005)	Non applicable	Improbable
	5.2 Proportion d'accouchements assistés par du personnel de santé qualifié	41,6% (1993)	62,7% (2006)	Probable	
Cible 5B: Rendre l'accès à la médecine préconceptionnelle universel d'ici à 2015	5.3 Taux de contraception	8% (1993)	27,9% (2006)	Improbable	Improbable
	5.5 Couverture des soins prénatals (au moins une visite)	55,8% (1997)	85,1% (2008)	Probable	
<b>Objectif 6: Combattre le VIH/sida, le paludisme et d'autres maladies</b>					
Cible 6A: D'ici à 2015, avoir enrégulé la propagation du VIH/sida et commencé à inverser la tendance actuelle	6.1 Taux de prévalence du VIH dans la population âgée de 15 à 24 ans	7,17% (1997)	1,3% (2008)	Probable	Probable
	6.2 Utilisation d'un préservatif lors du dernier rapport sexuel à haut risque	66,8% (2005)	69,6% (2009)	Probable	
	6.3 Proportion de la population âgée de 15 à 24 ans ayant des connaissances exactes et complètes au sujet du VIH/sida	2,4% (2004)	24,9% (2009)	Probable	
Cible 6B: D'ici 2010, assurer à tous ceux qui en ont besoin l'accès aux traitements contre le VIH/sida	6.5 Proportion de la population au stade avancé de l'infection par le VIH ayant accès à des médicaments antirétroviraux	1,4% (2003)	47% (2009)	Potentiellement réalisable	Potentiellement réalisable
	Cible 6C: D'ici à 2015, avoir maîtrisé le paludisme et d'autres grandes maladies et commencé à inverser la tendance actuelle	6.7 Proportion d'enfants de moins de 5 ans dormant sous des moustiquaires imprégnées d'insecticide	12,4% (2001)	23,17 (2005)	Improbable
6.9 Incidence, prévalence de la tuberculose et taux de mortalité dus à cette maladie		13,6% (2000)	19,4% (2007)	Improbable	
6.10 Proportion de cas de tuberculose détectés et signalés dans le cadre d'un traitement direct à court terme et sous observation		60,3% (2000)	72,12% (2007)	Improbable	
<b>Objectif 7: Assurer un environnement durable</b>					
Cible 7C: Réduire de moitié, d'ici à 2015, le pourcentage de la population qui n'a pas d'accès de façon durable à un approvisionnement en eau potable ni à des services d'assainissement de base	7.8 Proportion de la population utilisant une source d'eau potable améliorée	18,3% (1993)	66,3% (2007)	Probable	Improbable
	7.9 Proportion de la population utilisant des infrastructures d'assainissement améliorées	20,47% (2000)	39,2% (2007)	Improbable	
<b>Objectif 8: Mettre en place un partenariat mondial pour le développement</b>					
Cible 8D: Trancher globalement le problème de la dette des pays en développement par des mesures d'ordre national et international propres à rendre l'endettement viable à long terme	8.12 Ratio service de la dette en pourcentage des exportations de biens et services	27,8% (1990)	6,6% (2009)	Probable	Probable
	Cible 8F: En coopération avec le secteur privé, faire en sorte que les avantages des nouvelles technologies, en particulier des technologies de l'information et de la communication, soient accordés à tous	8.15 Nombre de lignes de téléphone fixe pour 100 habitants	0,2 (2000)	1 (2009)	
		8.15 Abonnés à un service de téléphonie mobile pour 100 habitants	0,26 (2000)	24,7 (2009)	Probable

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, Annexe I

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

地図 1 ブルキナファソ全土地図

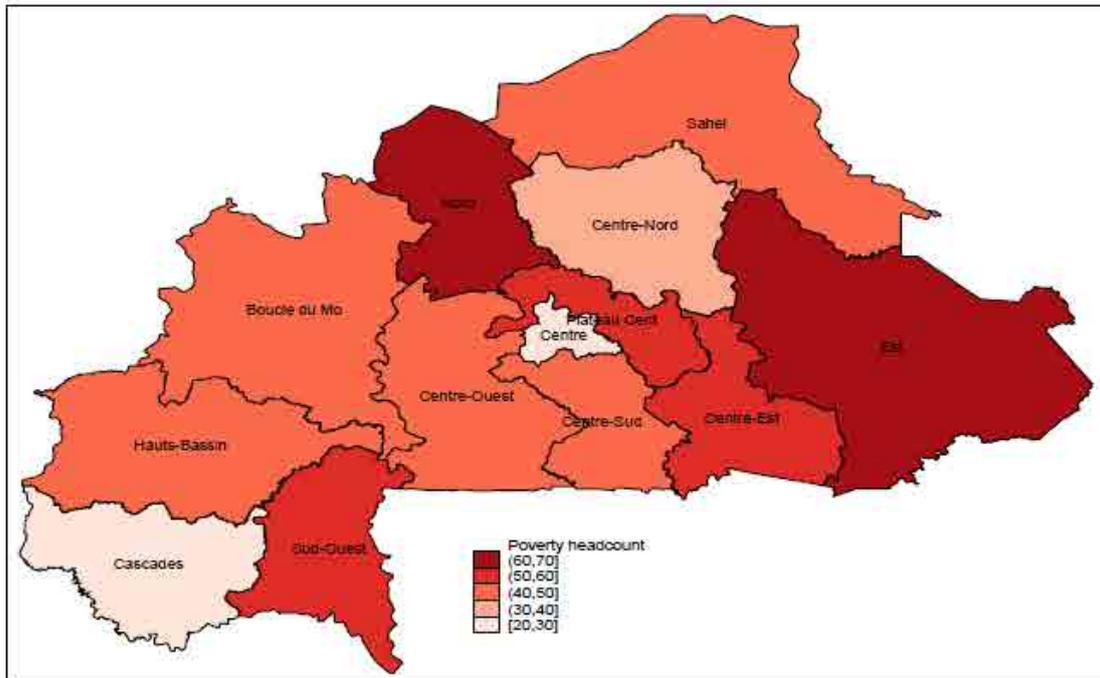


(出所) University of Texas Libraries

[http://www.lib.utexas.edu/maps/cia13/burkina\\_faso\\_sm\\_2013.gif](http://www.lib.utexas.edu/maps/cia13/burkina_faso_sm_2013.gif) (2014年1月6日アクセス)

地図 2 貧困率 (2009 年)

Figure 1.7: Poverty headcount by region in 2009



(出所) World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.13  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

## I. 貧困状況の概観

1960年、フランスからオート・ボルタとして独立したブルキナファソは、面積27万4,200平方キロメートルのサヘル気候地帯に位置する西アフリカの内陸国である。ブルキナファソは、北部及び西部はマリ、南はベナン、トーゴ、ガーナ、東部はニジェール、南西部はコートジボワールと国境を接している。

2006年に実施された国勢調査では、ブルキナファソの人口の約77%が地方に居住し、46.6%が15歳未満という人口構成である。人口増加率は3.1%と高く、これは女性1人当たりの出生率が平均で6.2人と高いことによる。死亡率は、1996年には1,000人当たり14.8であったが、2006年には11.8まで減少した。死亡率が比較的高い背景には、高い妊産婦死亡率（10万出生あたり307）及び高い乳幼児死亡率（1,000出生あたり142）、さらに髄膜炎やマラリアといった病気の流行が挙げられる<sup>9</sup>。

ブルキナファソでは、経済改革により経済成長が進み、2000年から2009年の間に平均経済成長率5%を記録した。しかし、経済構造は多様化されておらず、第一次産業に依存し、綿花の価格、エネルギー価格、ドルの変動、食糧価格、自然災害といった外的要因に経済が大きく左右されている状況にある<sup>10</sup>。2011年は綿花の生産が増加し、鉱業も好調であったが、食糧生産の落ち込み、さらにコートジボワールの紛争及びブルキナファソ国内の社会騒乱を背景に経済成長は鈍化し、経済成長率は5%にとどまったが<sup>11</sup>、2012年は経済成長率9%を記録した<sup>12</sup>。経済成長の背景には、金の生産量の増加が挙げられる。金の生産量は2012年に42トンに達し（図表9）、輸出量も2008年から2012年の間に3倍となった<sup>13</sup>。2011年の金の輸出額は約17億9,000万米ドル<sup>14</sup>となり、全体の輸出額の約77%を占め、輸出第一位となっている<sup>15</sup>。新規雇用創出は5,000人程度と効果は大きくないものの、金の生産・輸出による財政への影響が大きい<sup>16</sup>。

天然資源の開発は人口増加と相まって、土地の劣化、植生への悪影響、水資源の減少を

<sup>9</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.3  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>10</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.4

<sup>11</sup> Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2011, p.130  
[http://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/zonefr/2011/2-Burkina-Faso.pdf](http://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/zonefr/2011/2-Burkina-Faso.pdf)

<sup>12</sup> Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2012, p.134  
[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/2\\_Burkina\\_Faso.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/2_Burkina_Faso.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>13</sup> Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2012, p.135

<sup>14</sup> 1米ドル=94.19円（JICA平成25年度4月精算レート参照）

<sup>15</sup> 分類はHS2007による。金の品目は7108。UN Comtrade, <http://comtrade.un.org/>（2014年1月6日アクセス）

<sup>16</sup> Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2012, p.135

招いている。インフォーマルセクターにおける雇用の状況は、不安定であり、貧困層の金融へのアクセスや生産技術へのアクセスは、未だ限定的なままである<sup>17</sup>。

所得貧困の状況には大きな改善は見られないものの、飲料水へのアクセス、保健、HIV/AIDS等の社会セクターにおいては改善がみられる。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）については、達成可能とされる目標も一部あるものの、現状では達成が難しいと判断されている。また、2012年のブルキナファソの人間開発指数の順位は、0.343であり、187か国中183位と非常に低位である。ブルキナファソの人間開発指数（Human Development Indicators : HDI）は改善傾向にあるものの、サブサハラアフリカ諸国の平均値を下回っている。

図表 7 ブルキナファソの経済（2009年 - 2012年）

### Comptes nationaux du Burkina Faso

(en milliards de francs CFA (XOF) courants ; taux et variations en %)

	2009	2010	2011	2012 (a)
<b>Ressources</b>	<b>4 839,4</b>	<b>5 720,2</b>	<b>6 421,4</b>	<b>7 335,3</b>
<b>PIB nominal</b>	<b>3 941,9</b>	<b>4 453,9</b>	<b>4 793,3</b>	<b>5 404,4</b>
<b>Importations de biens et services</b>	<b>897,6</b>	<b>1 266,3</b>	<b>1 628,1</b>	<b>1 930,9</b>
<b>Emplois</b>	<b>4 839,4</b>	<b>5 720,2</b>	<b>6 421,4</b>	<b>7 335,3</b>
<b>Consommation finale</b>	<b>3 387,5</b>	<b>3 662,2</b>	<b>4 020,3</b>	<b>4 745,9</b>
Publique	854,9	918,0	994,0	1 086,9
Privée	2 532,6	2 744,2	3 026,4	3 658,9
<b>Formation brute de capital fixe (b)</b>	<b>974,0</b>	<b>1 122,3</b>	<b>1 103,6</b>	<b>1 188,6</b>
<b>Exportations de biens et services</b>	<b>477,9</b>	<b>935,6</b>	<b>1 297,5</b>	<b>1 400,9</b>
Épargne intérieure brute	554,4	791,7	773,0	658,5
Capacité (+) ou besoin (-) de financement	- 419,7	- 330,7	- 330,6	- 530,1
<b>Taux d'investissement (en % du PIB)</b>	<b>24,7</b>	<b>25,2</b>	<b>23,0</b>	<b>22,0</b>
Variations				
Taux de croissance du PIB en volume	3,2	7,9	5,0	9,0
Déflateur du PIB (en moyenne annuelle)	2,2	4,7	2,5	3,4
Prix à la consommation (en moyenne annuelle)	0,9	- 0,6	2,8	3,8

(a) Chiffres provisoires

(b) Y compris variation de stocks

Sources : INS, BCEAO

(出所) Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2012, p.134

[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/2\\_Burkina\\_Faso.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/2_Burkina_Faso.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>17</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.4

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

図表 8 金の生産量 (2009年 - 2012年)

Or

(en tonnes)

	2009	2010	2011	2012 (a)
Production	12,5	26,2	38,7	42,4

(a) Chiffres provisoires

Sources : BCEAO, administrations nationales

(注) 2012年は推計値

(出所) Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2012, p.135

[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/2.\\_Burkina\\_Faso.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/2._Burkina_Faso.pdf) (2014年1月6日アクセス)

## II. ブルキナファソの貧困削減のための政策枠組み

### 1. 貧困削減戦略・目標の有無と現状

#### (1) 国家開発計画・戦略の概要と貧困削減の位置づけ

##### (i) 貧困削減戦略文書

ブルキナファソ政府は、2000年に第一次貧困削減戦略文書として、貧困削減戦略(Cadre Stratégique de Lutte Contre la Pauvreté : CSLP)をまとめ、2003年には、第二次CSLPを策定した。CSLPでは、均衡のとれた成長の加速、貧困層への社会サービス・社会保護へのアクセス保障、貧困層の雇用・所得創出活動の拡大、グッドガバナンスの促進を戦略の柱としている<sup>18</sup>。

2010年12月、CSLPに続く貧困削減戦略文書として、持続的な開発及び成長の加速化戦略文書(Stratégie de Croissance Accélérée de Développement Durable : SCADD) 2011-2015を策定した<sup>19</sup>。SCADDでは、2000年から2009年までの10年間の経済・社会開発の総括を行い、特に社会状況の項目で、ブルキナファソの世帯の生活状況について、所得貧困及び非所得貧困の観点から状況を取りまとめている。この分析によると、ブルキナファソでは経済は成長したものの、経済成長の成果を分配するメカニズムが十分ではなく、大幅な貧困率の削減にはつながらず、そのため貧困削減に係るMDGsの達成にも至っていないとの見方が示されている<sup>20</sup>。

2015年までのSCADDのビジョンは、生産性のある経済を実現し、賢明かつ効果的なガバナンスを通して成長を加速し、生活水準を改善し、住環境と生活条件を保護することである<sup>21</sup>。全体的な目標としては、所得創出や人々の生活の質に関して効果を及ぼし、持続可能な発展についても考慮した、強固で、持続した、質の高い経済成長を実現することである。SCADDでは経済成長の実現とMDGsの達成を目指し、以下の8つの目標を掲げている。目標2が、明示的に貧困削減に言及している。

1. 平均実質 GDP 成長率 10%の達成
2. 極度の貧困と飢餓の削減
3. 万人のための教育
4. 男女平等と女性の自立の推進
5. 5歳未満児童死亡率の削減
6. 母子保健の改善

<sup>18</sup> Ministère de l'économie et du développement (2004) Cadre Stratégique de Lutte Contre la Pauvreté, pp.11-12, <http://www.pnud.bf/docs/cslp.pdf> (2014年1月6日アクセス)

<sup>19</sup> Ministère de l'économie et des finances, Stratégie de Croissance Accélérée de Développement Durable (SCADD), [http://www.pnud.bf/DOCS/scadd\\_vfinal.pdf](http://www.pnud.bf/DOCS/scadd_vfinal.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>20</sup> SCADD, p.10

<sup>21</sup> SCADD, p.34

7. HIV/AIDS、マラリア、その他疾病対策
8. 環境の持続性

## (ii) その他の国家戦略・政策

### ① 地方開発政策

2002年12月に、分権化地方開発政策（Lettre de politique de développement rural décentralisé : LPDRD）が策定された。LPDRDは、地方開発における様々な主体やプログラムの間の調整を行い、貧困状況の改善のために相乗効果を発揮するように、政策枠組みを提供することを目的としていた。2004年には、LPDRD及びCSLPを踏まえて、農業、牧畜、環境などの地方開発セクターに関連する主体が依拠する政策文書として、地方開発政策（Stratégie de développement rural : SDR）<sup>22</sup>が2004年にまとめられた。SDR全体の目標は、貧困削減、食料安全保障、持続可能な開発の促進に貢献するために、地方セクターにおける持続した成長を維持することである。具体的な目的として、以下の6つが掲げられている。

1. 生産性の向上を通して、農業、牧畜、森林、畜産、漁業における生産増
2. 地方における経済活動の多様化による所得増
3. 生産と市場の間のつながりを強化すること
4. 天然資源の持続可能な活用を行うこと
5. 地方における女性及び若者の経済状況及び社会的地位を改善すること
6. 地方に居住する人々に対して、開発における主体としての責任を持たせること

貧困層が依然として地方に多いこと、社会サービスのさらなる整備が必要であること、外部要因に対してブルキナファソ経済が脆弱であることなどから、2009年には第二次LPDRDがまとめられている<sup>23</sup>。

2012年に地方セクター国家計画（Programme national du secteur rural : PNSR）2011-2015が採択された。PNSRはSDRの実施及びSCADDの地方開発分野の実施枠組みとして位置づけられ、持続可能な方法で食糧安全保障、栄養状況、経済成長、貧困削減に貢献することが全体の目標とされている。PNSRは5つの戦略軸と13のサブプログラムによって構成されている。5つの戦略軸は以下のとおりである<sup>24</sup>。

<sup>22</sup> Burkina Faso (2004) Stratégie de Développement Rural  
[http://www.inter-reseaux.org/IMG/pdf\\_DSDR\\_definitif.pdf](http://www.inter-reseaux.org/IMG/pdf_DSDR_definitif.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>23</sup> Ministère de l'économie et des finances (2009) Lettre de politique de développement rural décentralisé, 2<sup>ème</sup> édition [http://www.finances.gov.bf/files/LPDRD\\_2e\\_edition-2.pdf](http://www.finances.gov.bf/files/LPDRD_2e_edition-2.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>24</sup> Burkina Faso (2012) Programme nationale du secteur rural (PNSR) 2011-2015  
<http://www.spcpsa.gov.bf/agriculture-burkina-le-pnsr/publications-pnsr> (2014年1月6日アクセス)

1. 食糧安全保障と食糧自給の改善
2. 地方に居住する住民の所得の増加
3. 天然資源の持続可能な開発
4. 飲料水へのアクセスと生活の改善
5. 地方における主体間のパートナーシップの発展

## ② 国家ジェンダー政策

CSLPに基づき、ブルキナファソでは、国家ジェンダー政策（Politique nationale genre : PNG）が 2009 年 7 月に採択されている<sup>25</sup>。PNGでは、男女の間の不平等が開発と貧困削減の障害となっており、男女間の格差を解消することが、持続的な経済成長、貧困削減、MDG達成において必要であると指摘している。

## ③ 気候変動

農業が主要な経済活動であるブルキナファソでは、干ばつや洪水等の農業への影響は大きい。そのため、2007 年 11 月に気候変動対策に関わる国家適応行動計画（Programme d'action national d'adaptation aux variabilités et aux changements climatiques : PANA）が CSLP に適合する形で策定された。PANA は、気候変動による影響に対してコミュニティが対応できるように、ニーズ、活動、プロジェクトを特定することを目的としている。具体的なプロジェクト選定の際の基準としては、気候変動による影響の削減、貧困削減、環境に関連する多数国間条約との相乗効果、費用対効果の 4 点が考慮されることになる。

## (2) 政府による指定貧困地域・集団

### (i) 貧困地域

SCADD では明示的な貧困地域を指定していないが、貧困層の居住地域が地方にあると指摘している。図表 9 が示すように、地方では人口の約半分は貧困層であり、都市部の貧困率を大幅に上回り、国全体の貧困率を押し上げる要因となっている。

<sup>25</sup> Ministère de la promotion de la femme (2009) Document de la politique nationale genre du Burkina Faso, <http://countryoffice.unfpa.org/burkinafaso/drive/PolitiqueNationaleGenre2009.pdf>（2014 年 1 月 6 日アクセス）

**図表 9 居住地域別による貧困率の推移（1994 年、1998 年、2003 年、2009 年）**

Tableau 4 : Evolution de l'incidence de la pauvreté, selon le milieu de résidence

Milieu de résidence	Incidence P <sub>0</sub> (%)				Variation		
	1994	1998	2003	2009	09/94	09/98	09/03
Rural	51	51	52,3	50,7	-0,3	-0,3	-1,6
Urbain	10,4	16,5	19,9	19,9	9,5	3,4	0,0
National	44,5	45,3	46,4	43,9	-0,6	-1,4	-2,5

Source : Données d'enquêtes-INSD

(出所) SCADD, p.10, [http://www.pnud.bf/DOCS/scadd\\_vfinal.pdf](http://www.pnud.bf/DOCS/scadd_vfinal.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

CSLPでは、2003 年の世帯調査による貧困率に基づいて、各地方を以下のように分類している<sup>26</sup>。

1. 平均の貧困率よりも高い地方：北地方、中央南地方、中央プラトー地方、ブクル・ドゥ・ムフン地方、中央東地方、南西地方
2. 平均的な貧困率の地方：中央西地方、東地方、カスカード地方
3. 貧困率が低い地方：オー・バッサン地方、サヘル地方、中央北地方、中央地方

さらに、1998 年の世帯調査の値と比較した分類では以下のとおりである<sup>27</sup>。

1. 1998 年から 2003 年の間に貧困率が減少した地方：中央北地方、東地方、サヘル地方、中央西地方
2. 当該期間の間に、貧困率が 5 ポイント未満増加した地方：オー・バッサン地方、中央東地方、カスカード地方
3. 当該期間の間に、貧困率が 5 ポイント以上増加した地方：中央地方、中央南地方、北地方、中央プラトー地方、ブクル・ドゥ・ムフン地方、南西地方

## (ii) 貧困集団

SCADDは貧困集団を明示的に指定していない。しかし、ブルキナファソの人口の半分が若年層により構成されるため<sup>28</sup>、これらの若年層が中長期的には経済成長の潜在的な力となるとして重要視し、若年層への十分な保護などの配慮を行うことが重要と述べている。また、若年層は短期的には家計の貯蓄を消費する存在であり、特に貧困層世帯では子供の数が多く、家計が圧迫されている状況にある。そのため、若年層への支援を行うことが貧

<sup>26</sup> CSLP, pp.17-18, <http://www.pnud.bf/docs/cslp.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

<sup>27</sup> CSLP, p.19

<sup>28</sup> 15 歳未満が人口の 46.4%を、20 歳未満が人口の 59.1%を構成する (SCADD, p.9, [http://www.pnud.bf/DOCS/scadd\\_vfinal.pdf](http://www.pnud.bf/DOCS/scadd_vfinal.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス))

困削減に貢献すると指摘している<sup>29</sup>。

他方で、CSLPでは貧困をジェンダーの観点からも検討している。女性の貧困率（47.1%、2003年）が男性（45.7%、2003年）よりも高く（図表10）、保健サービス、雇用や金融への女性のアクセスが限定的であり、国政や意思決定への参加も限定的であると指摘している<sup>30</sup>。

図表 10 男女別貧困率の状況（2003年）

**Tableau 4 : Indices de pauvreté selon le genre en 2003**

Indices de pauvreté	Incid. P <sub>0</sub>	Contrib. C <sub>0</sub>	Profond. P <sub>1</sub>	Contrib. C <sub>1</sub>	Sév. P <sub>2</sub>
Sexe					
Femmes	47,1	52	15,9	52,3	7,3
Hommes	45,7	48	15,3	47,7	6,9
Sexe du chef de ménage					
Féminin	36,5	4,1	12,7	4,3	5,7
Masculin	46,9	95,9	15,8	95,7	7,2
National	44,5	45,3	46,4	100	7,1

Source : INSD, Résultats de l'EBCVM, 2003

（出所）CSLP, p.18, <http://www.pnud.bf/docs/cslp.pdf>（2014年1月6日アクセス）

また、CSLPでは世帯主の社会・経済状況も各世帯の貧困に関係すると指摘している。貧困率は、給与所得者の世帯では低く、公務員世帯では、2003年の貧困率は、4.4%のみである。しかし、農家の貧困率は極めて高く、自給自足農家（agriculteurs vivriers）及び商業農家（agriculteurs de rente）の貧困率は、それぞれ2003年には55.5%、45.5%である（図表11）。

<sup>29</sup> SCADD, p.9, [http://www.pnud.bf/DOCS/scadd\\_vfinal.pdf](http://www.pnud.bf/DOCS/scadd_vfinal.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>30</sup> CSLP, p.20, <http://www.pnud.bf/docs/cslp.pdf>（2014年1月6日アクセス）

図表 11 世帯主の経済・社会的状況による貧困率（1998年、2003年）

世帯主の状況（Statut du chef de ménage）	1998	2003
公務員（Salarié public）	5.9	4.4
民間給与所得者：フォーマル（Salarié privé formel）	1.1	11.3
民間給与所得者：インフォーマル（Salarié privé informel）	16.2	14.8
自営業者・非農業従事者（Indépendant/Employés non agricoles）	12.7	21.5
商業農業（Agriculture de rente）	42.4	45.5
自給自足農業（Agriculture vivrière）	53.4	55.5
家族の支援・徒弟（Aide familial et apprenti）	29.3	4.5
失業者（Chômeur）	30.0	28.3
非就業者（Inactif）	41.3	34.5

（出所）CSLP, p.20, <http://www.pnud.bf/docs/cslp.pdf>（2014年1月6日アクセス）

### III. 所得貧困による分析

#### 1. 貧困線とデータ

2003 年のブルキナファソの国立統計人口局 (Institut National Statistique et de la Démographique : INSD) は、必要な食糧及び非食糧から算出した貧困線を、成人 1 人あたり 8 万 2,672FCFA<sup>31</sup>としている。

その後、2010 年 9 月に発表された世帯生活状況調査 (Enquête intégrale sur les conditions de vie des ménages : EICVM) 2009-2010 の暫定レポートによる貧困線は、1 年あたり 10 万 8,454FCFA である。このうち、食糧貧困線は 7 万 5,315FCFA、非食糧貧困線は 3 万 3,139FCFA である。その後、SCADD においては、2009 年の貧困線は 10 万 8,374FCFA に設定されている (図表 12)。

図表 12 国家貧困線 (1994 年/1995 年、1998 年、2003 年、2009 年/2010 年)

Tableau 3 : Evolution des indicateurs de pauvreté, selon les quatre (04) enquêtes

Période d'enquête	Seuil de pauvreté <sup>2</sup> en FCFA	Incidence <sup>3</sup> P <sub>0</sub> (%)	Profondeur <sup>4</sup> P <sub>1</sub> (%)	Sévérité <sup>5</sup> P <sub>2</sub> (%)	Ecart de P <sub>0</sub> par rapport à 2009
1994/1995	41 099	44,5	13,9	6	-0,6
1998	72 690	45,3	13,7	5,9	-1,4
2003	82 672	46,4	15,6	7,1	-2,5
2009/2010	108 374*	43,9	14,4	6,5	

Source : Données d'enquêtes-INSD

\* : hors consommation de biens durables et autoconsommation de logement.

(注) Seuil de pauvreté en FCFA : FCFA の貧困線、Incidence P<sub>0</sub> : 貧困率、Profondeur P<sub>1</sub> : 貧困ギャップ率、Sévérité P<sub>2</sub> : 二乗貧困ギャップ率、Ecart de P<sub>0</sub> par rapport à 2009 : 2009 年貧困率との開き  
(出所) SCADD, p.11, [http://www.pnud.bf/DOCS/scadd\\_vfinal.pdf](http://www.pnud.bf/DOCS/scadd_vfinal.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

その他の貧困線では、世界銀行が 2013 年の報告書の中で、ブルキナファソの 2003 年及び 2009 年の貧困状況を比較するために調整を加えた貧困線として、2003 年では 10 万 6,419FCFA、2009 年では 13 万 735FCFA と設定している<sup>32</sup>。これは、2003 年と 2009 年の世帯調査手法が異なることから、単純な比較が難しいためである。たとえば世帯の支出調査について、2009 年では世帯に対して記録帳が配布され、各世帯が 1 週間頻繁に支出する項目を記入するとともに、過去 3 か月、6 か月、1 年間の支出についての記憶に基づく調査が行われた。他方、2003 年の調査では世帯による支出記録は行われず、過去 15 日間、1 か月、1 年間の支出について記憶に基づく調査が行われており、調査の方法が異なっている。

<sup>31</sup> 1FCFA=655.957 ユーロ (固定レート)。1FCFA=0.183 円 (平成 25 年度 JICA 精算レート 4 月参照、[http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul\\_g/rate.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_g/rate.html) (2014 年 1 月 6 日アクセス))

<sup>32</sup> World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.7  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDS/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDS/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

また、食料バスケットについては、2009年では4品目から33品目に増加していることが大きな変更点である<sup>33</sup>。

ユニセフの報告書では、2003年の貧困線は、8万2,672FCFAとしているが、2009年のEICVMの結果から、2010年の貧困線を12万5,949FCFAと算出している<sup>34</sup>。

## 2. 貧困状況・ブルキナファソの貧困率・貧困ギャップ率・ジニ分析

EICVM2009-2010を基に設定された貧困線（1年あたり10万8,454FCFA）未満で生活する世帯の割合は、43.9%である<sup>35</sup>。

MDG報告書によると、1994年における貧困率は44.5%、1998年は44.3%、2003年は46.4%であり、国民の約半分が貧困線未満で生活している状況が続いている<sup>36</sup>（図表13）。貧困率は、全体として減少傾向にはあるものの、貧困削減のMDG目標達成は、困難な見通しとなっている。

---

<sup>33</sup> World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, pp.5-6.  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSPContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSPContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf)（2014年1月6日アクセス）

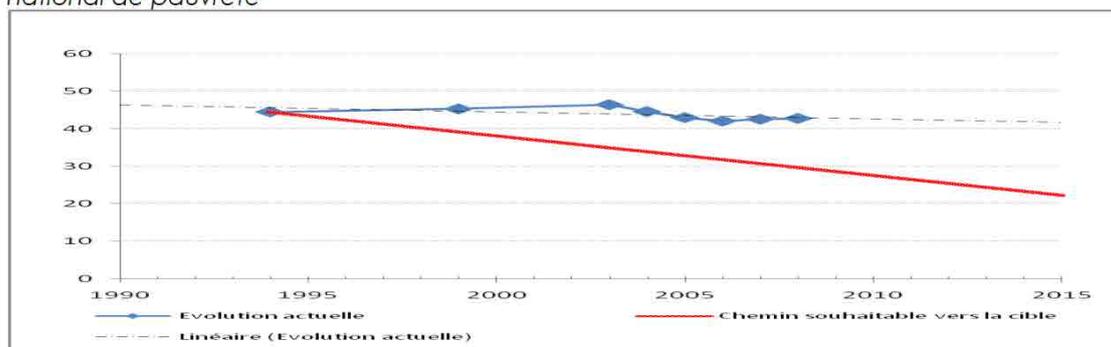
<sup>34</sup> Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010  
[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf)

<sup>35</sup> Ministère de l'économie et des finances/Institut National de la statistique et de la démographie (2010) Analyse de quelques résultats des données de la phase principale de l'enquête intégrale sur les conditions de vie des ménages, EICVM 2009  
[http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes\\_recensements/enq\\_cond\\_vie\\_menages/resultats\\_provisoires\\_eicvm.pdf](http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes_recensements/enq_cond_vie_menages/resultats_provisoires_eicvm.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>36</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.8  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf)（2014年1月6日アクセス）

図表 13 貧困率の推移

Graphique 1 : Proportion de la population vivant avec un revenu annuel inférieur au seuil national de pauvreté



(注) Evolution actuelle : 実際の推移

Chemin souhaitable vers la cible : 目標に向けた望ましい推移

Linéaire (Evolution actuelle) : 一次線 (実際の推移)

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.8

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

世界銀行の2013年の報告書は、ブルキナファソの2003年の貧困率は54.5%であり、2009年の貧困率は46.7%に減少していると分析している。また、貧困の深刻度や重度の観点からも、2003年から2009年までの間にブルキナファソの貧困状況は改善している(図表 14)。

図表 14 貧困関連データの比較 (2003 年、2009 年)

Table 1.4: Comparisons of poverty estimates according to various approaches

	Povmap approach (estimates for 2003)	Re-weighting of consumption in 2003 (estimates for 2003) Poverty Line = 106419	Poverty estimates in 2009 Poverty Line=130735
<b>National</b>			
P0	54.46%	51.11%	46.70%
P1	20.82%	18.97%	15.12%
P2	10.32%	9.21%	6.71%
<b>Rural</b>			
P0	58.88%	65.76%	52.81%
P1	22.77%	25.41%	17.50%
P2	11.35%	12.66%	7.87%
<b>Urban</b>			
P0	34.57%	22.17%	25.18%
P1	12.05%	6.24%	6.77%
P2	5.71%	2.39%	2.64%

(注) P0 : 貧困率、P1 : 貧困ギャップ率、P2 : 二乗貧困ギャップ率

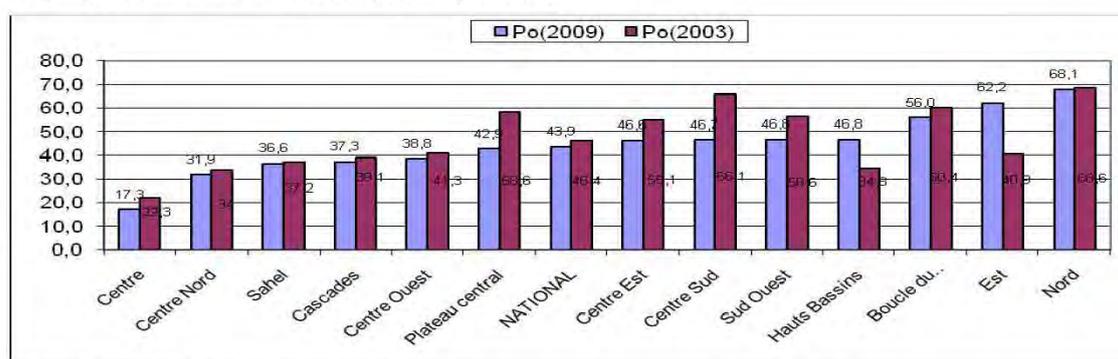
(出所) World Bank(2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.8.

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

EICVM2009-2010 によると、最も貧困率が低い地方は中央地方の 17.3%である。最も貧困率が高い地方は、北地方 (68.1%)、東地方 (62.2%)、ブクル・ドゥ・ムフン地方 (56%) である (図表 15)。

図表 15 地方別貧困率 (2003 年、2009 年)

Graphique 1 : L'incidence de la pauvreté par région (en%)

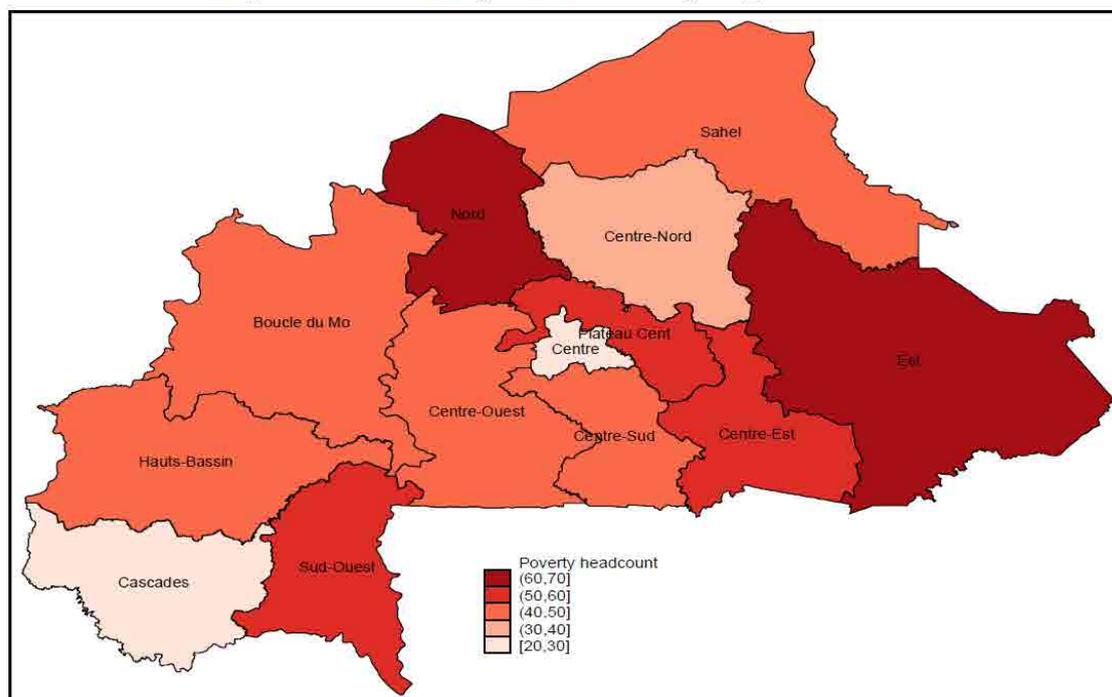


Source : Résultats EICVM 2009-2010, INSD

(出所) SCADD, p.11, [http://www.pnud.bf/DOCS/scadd\\_vfinal.pdf](http://www.pnud.bf/DOCS/scadd_vfinal.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

地図 3 貧困率 (2009 年)

Figure 1.7: Poverty headcount by region in 2009



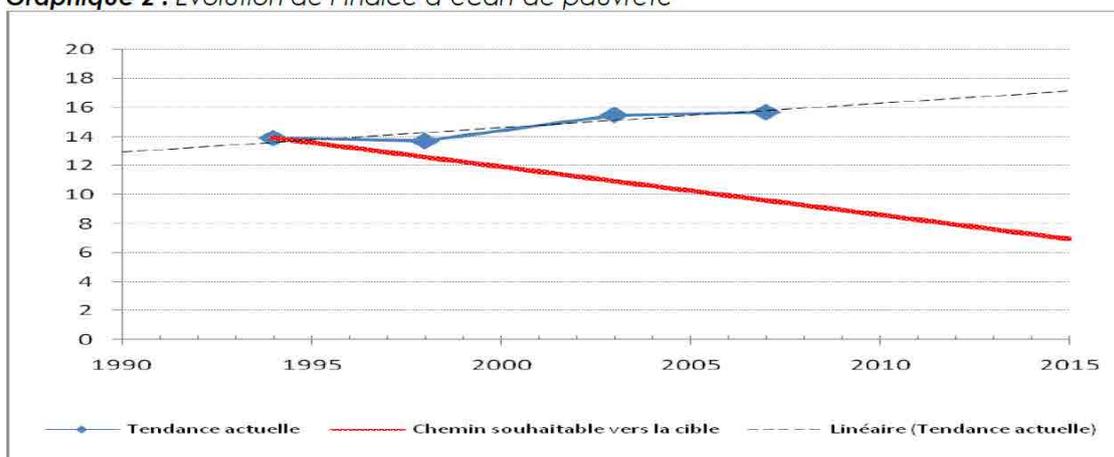
(出所) World Bank(2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.13  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDS/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDS/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

貧困ギャップ率は、1994年に13.9%、1998年では13.7%と若干減少したものの、2003年には15.5%、2004年は15.7%と上昇した後、減少傾向となり、2008年には14.1%を記録している(図表16)。MDG報告書では、貧困ギャップ率の状況から、経済成長の成果が国内で配分されていないことを懸念している。さらに、2015年の貧困ギャップ率の当初目標は6.95%であるところ、この傾向が継続された場合貧困ギャップ率は15.6%になると予測されており、目標を大幅に上回る見込みである<sup>37</sup>。

<sup>37</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.9  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

図表 16 貧困ギャップ率の推移

Graphique 2 : Evolution de l'indice d'écart de pauvreté



(注) Tendance actuelle : 実際の傾向

Chemin souhaitable vers la cible : 目標に向けた望ましい推移

Linéaire (Evolution actuelle) : 一次線 (実際の傾向)

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.9

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

世界銀行は、貧困率の低下は2003年から2009年間に所得格差が減少したことが要因であると指摘している。2003年から2009年間にジニ係数は改善し、国レベルでは、2003年のジニ係数は0.43であったが、2009年には0.40となっている(図表17)。これは、2003年の消費を加味した場合の分析においても同様である。

また、一般にブルキナファソでは、都市部における格差の方が地方よりも顕著である。ジニ係数は、地方では0.38から0.35、都市部では0.49から0.43に改善している。最も格差が大きい地方は、貧困率が最も少ない地方である中央地方と、貧困地域のサヘル地方である。

図表 17 貧困の不平等に関する指数 (2003 年、2009 年)

Table 1.5: Inequality indices in 2003 and 2009

	2009				2003 (povmap)				2003 (reweighting)			
	<i>Gini</i>	<i>Theil</i>	<i>q90/10</i>	<i>q90/50</i>	<i>Gini</i>	<i>Theil</i>	<i>q90/10</i>	<i>q90/50</i>	<i>Gini</i>	<i>Theil</i>	<i>q90/10</i>	<i>q90/50</i>
<b>National</b>	<b>0.40</b>	<b>0.31</b>	<b>5.18</b>	<b>2.49</b>	<b>0.43</b>	<b>0.37</b>	<b>6.16</b>	<b>2.70</b>	<b>0.43</b>	<b>0.36</b>	<b>6.40</b>	<b>2.83</b>
<b>Location</b>												
Rural	0.35	0.23	4.43	2.20	0.38	0.27	5.39	2.47	0.36	0.26	4.70	2.31
Urban	0.43	0.37	6.07	2.68	0.49	0.45	8.89	3.40	0.40	0.31	6.08	2.48
<b>Region</b>												
Hauts-Bassins	0.41	0.33	5.26	2.74	0.46	0.42	6.44	2.96	0.40	0.30	5.03	2.27
Boucle du Mouhoun	0.33	0.21	4.11	2.02	0.42	0.37	5.59	2.55	0.38	0.26	5.54	2.85
Sahel	0.44	0.37	6.89	2.73	0.32	0.18	4.22	2.31	0.34	0.20	4.12	2.36
Est	0.37	0.25	4.56	2.33	0.35	0.22	4.33	2.38	0.35	0.24	3.53	1.79
Sud-Ouest	0.37	0.29	4.30	2.12	0.41	0.31	5.88	2.65	0.39	0.29	4.26	2.33
Centre-Nord	0.36	0.26	4.33	2.32	0.39	0.28	5.89	2.49	0.33	0.20	4.66	2.32
Centre-Ouest	0.35	0.23	4.39	2.23	0.41	0.31	6.26	2.61	0.41	0.28	6.83	3.17
Plateau central	0.33	0.23	3.73	1.97	0.39	0.33	5.25	2.17	0.42	0.68	3.82	2.27
Nord	0.38	0.28	4.88	2.47	0.40	0.30	5.90	2.84	0.39	0.30	5.55	2.70
Centre-Est	0.37	0.26	4.59	2.36	0.40	0.29	5.67	2.63	0.35	0.22	4.70	2.46
Centre	0.44	0.39	6.38	2.79	0.52	0.53	11.08	3.87	0.41	0.33	6.59	2.73
Cascades	0.33	0.21	4.10	2.09	0.40	0.31	5.15	2.49	0.49	0.54	10.40	4.36
Centre-Sud	0.31	0.18	3.50	1.93	0.35	0.23	4.32	2.21	0.35	0.21	5.03	2.25

(出所) World Bank(2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.10  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

## IV. 所得貧困以外による分析

### 1. 人間開発指数のトレンド、地域・国際比較

2012年のブルキナファソの人間開発指数（Human Development Indicators : HDI）は、0.343であり、187か国中183位と非常に低位に位置している。ブルキナファソのHDIは改善傾向にあるものの、人間開発低位諸国及びサブサハラアフリカのHDIの平均値はそれぞれ、0.466、0.475であり、大きく開きがある<sup>38</sup>。

HDIの各指標については、まず出生時平均余命では、1980年には46.4歳であったが、2012年には55.9歳となり、9.5年伸長した。予測就学年数（Expected years of schooling）<sup>39</sup>は、1980年の1.1年から2012年には6.9年までとなり、5.8年伸びた。平均就学年数（Mean years of schooling）<sup>40</sup>については2005年から2012年まで、1.3年で変化がない。さらに、1人当たりGNI（2005年の米ドル建てPPP換算）は、1980年から増加し、2012年は1,202米ドルとなった（図表18）。

図表 18 新たな構成指標と算出方法に基づくブルキナファソのHDIの推移

Table A: Burkina Faso's HDI trends based on consistent time series data, new component indicators and new methodology

	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Mean years of schooling	GNI per capita (2005 PPP\$)	HDI value
1980	46.4	1.1		0.607	
1985	48.1	1.7		0.666	
1990	48.5	2.3		0.665	
1995	49.1	2.7		0.701	
2000	50.3	3.3		0.857	
2005	52.5	4.4	1.3	1,010	0.301
2010	55	6.4	1.3	1,135	0.334
2011	55.4	6.9	1.3	1,149	0.340
2012	55.9	6.9	1.3	1,202	0.343

（出所）UNDP, Explanatory note on 2013 HDR composite indices

<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/BFA.pdf>（2014年1月6日アクセス）

<sup>38</sup> UNDP, Explanatory note on 2013 HDR composite indices

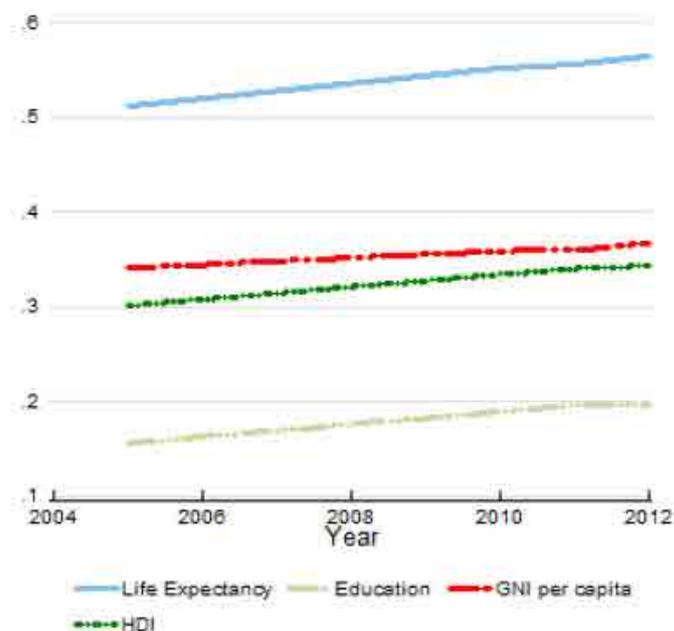
<http://hdrstats.undp.org/en/countries/profiles/BFA.html>（2014年1月6日アクセス）

<sup>39</sup> 予測就学年数とは、現在の各年齢層の就学率がこれから就学する児童の生涯において変わらないものとして、当該児童に見込まれる学校教育の総年数。UNDP (2013) Human Development Report 2013, p.147, [http://hdr.undp.org/sites/default/files/reports/14/hdr2013\\_en\\_complete.pdf](http://hdr.undp.org/sites/default/files/reports/14/hdr2013_en_complete.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>40</sup> 平均就学年数とは、25歳以上の国民がそれまでに受けた教育の平均年数。UNDP (2013) Human Development Report 2013, p.147, [http://hdr.undp.org/sites/default/files/reports/14/hdr2013\\_en\\_complete.pdf](http://hdr.undp.org/sites/default/files/reports/14/hdr2013_en_complete.pdf)（2014年1月6日アクセス）

図表 19 ブルキナファソの HDI 指標の推移 (1980 年 - 2012 年)

Figure 1: Trends in Burkina Faso's HDI component indices 2005-2012



(出所) UNDP, Explanatory note on 2013 HDR composite indices

<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/BFA.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

サブサハラアフリカ諸国で、2012 年の HDI の順位、人口規模の観点からブルキナファソと同程度の国としては、マリ (182 位)、チャド (184 位) が挙げられる (図表 20)。

図表 20 ブルキナファソの HDI の地域・国際比較 (2012 年)

Table B: Burkina Faso's HDI indicators for 2012 relative to selected countries and groups

	HDI value	HDI rank	Life expectancy at birth	Expected years of schooling	Mean years of schooling	GNI per capita (PPP US\$)
Burkina Faso	0.343	183	55.9	6.9	1.3	1,202
Mali	0.344	182	51.9	7.5	2	0,853
Chad	0.34	184	49.9	7.4	1.5	1,258
Sub-Saharan Africa	0.475	—	54.9	9.3	4.7	2,010
Low HDI	0.466	—	59.1	8.5	4.2	1,633

(出所) UNDP, Explanatory note on 2013 HDR composite indices

<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/BFA.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

健康、教育、生活水準の面での深刻な貧困の度合いを数値化した多次元貧困指数 (Multidimensional Poverty Index : MPI) は、貧困状態にある人の数と貧困の程度の両方を考慮に入れた指数である。2010 年度の MPI によるとブルキナファソでは、人口の 84% が多次元貧困の状況にある。図表 21 によると、ブルキナファソの所得貧困状況にある人口割合は 44.6% であり、多次元貧困率を 39.4 ポイント下回っている。したがって、ブルキナファソでは所得貧困の観点では貧困層に分類されないものの、教育、健康やその他の生活条件において欠乏状況にある人口が多いことが推定できる。

図表 21 ブルキナファソの多次元貧困率と他国との比較（2010 年、2010 年/2011 年）

Table E: The most recent MPI figures for Burkina Faso relative to selected countries

	Survey year	MPI value	Headcount (%)	Intensity of deprivation (%)	Population			Contribution to overall poverty of deprivations in		
					Vulnerable to poverty (%)	In severe poverty (%)	Below income poverty line (%)	Health	Education	Living Standards
Burkina Faso	2010	0.535	84	63.7	7.1	65.7	44.6	27.9	36.2	35.9
Mali	2006	0.558	86.6	64.4	7.6	68.4	50.4	26.2	34.5	39.3
Chad	2003	0.344	62.9	54.7	28.2	44.1	61.9	4.6	40.9	54.5

(出所) UNDP, Explanatory note on 2013 HDR composite indices

<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/BFA.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

## 2. MDGs 達成状況（2005 年/2006 年、2008 年/2009 年と目標値の比較）

2010 年に発表されたブルキナファソの MDG 報告書時点では、いくつかの指標については、2015 年の達成目標を実現することは可能という見通しであるものの、全体としては MDGs のいずれの目標も達成することは困難という見込みである（図表 22）。

## 図表 22 MDGs 達成状況

ANNEXE 1 : Chances de réalisation des cibles OMD

Tableau 17 : Chances de réalisation des cibles OMD

Objectifs et cibles	Indicateurs de suivi des progrès accomplis	Valeur de référence	Valeur à atteindre	Chances indicateurs	Chances cibles
<b>Objectif 1: Éliminer l'extrême pauvreté et la faim</b>					
Cible 1A: Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population dont le revenu est inférieur à un dollar par jour	1.1 Proportion de la population disposant de moins d'un dollar par jour en parité du pouvoir d'achat (PPA)[i]	44,5% (1994)	43,2 (2008)	Improbable	Improbable
	1.2 Indice d'écart de la pauvreté	13,9% (1994)	14,1% (2008)	Improbable	Improbable
	1.3 Part du quartile le plus pauvre de la population dans la consommation nationale	8,8% (1994)	8,4% (2003)	Improbable	Improbable
Cible 1B: Assurer le plein-emploi et la possibilité pour chacun, y compris les femmes et les jeunes, de trouver un travail décent et productif	1.4 Taux de croissance du PIB par personne occupée	5,3% (1994)	3,8% (2007)	Potentiellement réalisable	Potentiellement réalisable
	1.5 Ratio emploi/population	84,4% (1994)	86,2% (2003)	Potentiellement réalisable	Potentiellement réalisable
Cible 1C: Réduire de moitié, entre 1990 et 2015, la proportion de la population qui souffre de la faim	1.6 Prévalence de l'insécurité pondérale chez les enfants de moins de 5 ans	29,5% (1993)	31,7% (2007)	Improbable	Improbable
	1.9 Proportion de la population n'atteignant pas le niveau minimal d'apport calorique	46,6% (1990)	32,8% (2006)	Improbable	Improbable
<b>Objectif 2: Assurer l'éducation primaire pour tous</b>					
Cible 2A: D'ici à 2015, donner à tous les enfants, garçons et filles, partout dans le monde, les moyens d'achever un cycle complet d'études primaires	2.1 Taux brut de scolarisation dans le primaire (proxy)	30,0% (1990)	72,4 (2008)	Probablement	Improbable
	2.1 Taux net de scolarisation dans le primaire	33,7% (1994)	57,9% (2008)	Potentiellement réalisable	Improbable
	2.2 Proportion d'élèves ayant commencé la première année d'études primaires qui terminent l'école primaire	23,7% (1996)	41,7 (2008)	Improbable	Improbable
	2.3 Taux d'alphabétisation des 15-24 ans, femmes et hommes	15,0% (1990)	39,3% (2007)	Improbable	Improbable
<b>Objectif 3: Promouvoir l'égalité des sexes et l'autonomisation des femmes</b>					
Cible 3A: Éliminer les disparités entre les sexes dans les enseignements primaire et secondaire d'ici à 2015 si possible, et à tous les niveaux de l'enseignement en 2015 au plus tard	3.1 Rapport filles/garçons dans l'enseignement primaire	0,62% (1990)	0,88 (2009)	Potentiellement réalisable	Improbable
	3.3 Proportion des sièges occupés par les femmes au parlement national	3% (1992)	12,7% (2009)	Improbable	Improbable
<b>Objectif 4: Réduire la mortalité des enfants de moins de 5 ans</b>					
Cible 4A: Réduire de deux tiers, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans	4.1 Taux de mortalité des enfants de moins de 5 ans	204,6% (1993)	142% (2006)	Improbable	Improbable
	4.2 Taux de mortalité infantile	107,6% (1993)	91,7% (2006)	Improbable	Improbable
	4.3 Proportion d'enfants d'1 an vaccinés contre la rougeole	49,3% (1990)	97,6% (2008)	Probable	Improbable
<b>Objectif 5: Améliorer la santé maternelle</b>					
Cible 5A: Réduire de trois quarts, entre 1990 et 2015, le taux de mortalité maternelle	5.1 Taux de mortalité maternelle	566/100 000 (1993)	307/100 000 (2006)	Improbable	Improbable
	5.2 Proportion d'accouchements assistés par du personnel de santé qualifié	41,5% (1993)	62,7% (2006)	Probable	Improbable
Cible 5B: Rendre l'accès à la médecine reproductive universel d'ici à 2015	5.3 Taux de contraception	8% (1993)	27,9% (2006)	Improbable	Improbable
	5.5 Couverture des soins prénatals (au moins une visite)	55,8% (1997)	85,1% (2008)	Probable	Improbable
<b>Objectif 6: Combattre le VIH/sida, le paludisme et d'autres maladies</b>					
Cible 6A: D'ici à 2015, avoir enrégulé la propagation du VIH/sida et commencé à inverser la tendance actuelle	6.1 Taux de prévalence du VIH dans la population âgée de 15 à 24 ans	7,17% (1997)	1,3% (2008)	Probable	Probable
	6.2 Utilisation d'un préservatif lors du dernier rapport sexuel à haut risque	66,8% (2005)	69,6% (2009)	Probable	
	6.3 Proportion de la population âgée de 15 à 24 ans ayant des connaissances exactes et complètes au sujet du VIH/sida	2,4% (2004)	24,9% (2009)	Probable	
Cible 6B: D'ici 2010, assurer à tous ceux qui en ont besoin l'accès aux traitements contre le VIH/sida	6.5 Proportion de la population au stade avancé de l'infection par le VIH ayant accès à des médicaments antirétroviraux	1,4% (2003)	47% (2009)	Potentiellement réalisable	Potentiellement réalisable
	6.7 Proportion d'enfants de moins de 5 ans dormant sous des moustiquaires imprégnées d'insecticide	12,4% (2001)	23,17 (2005)	Improbable	Improbable
Cible 6C: D'ici à 2015, avoir maîtrisé le paludisme et d'autres grandes maladies et commencé à inverser la tendance actuelle	6.9 Incidence, prévalence de la tuberculose et taux de mortalité dus à cette maladie	13,6% (2000)	19,4% (2007)	Improbable	
	6.10 Proportion de cas de tuberculose détectés et soignés dans le cadre d'un traitement direct à court terme et sous observation	60,3% (2000)	72,12% (2007)	Improbable	
<b>Objectif 7: Assurer un environnement durable</b>					
Cible 7C: Réduire de moitié, d'ici à 2015, le pourcentage de la population qui n'a pas accès de façon durable à un approvisionnement en eau potable ni à des services d'assainissement de base	7.8 Proportion de la population utilisant une source d'eau potable améliorée	18,3% (1993)	66,3% (2007)	Probable	Improbable
	7.9 Proportion de la population utilisant des infrastructures d'assainissement améliorées	20,47% (2000)	39,2% (2007)	Improbable	
<b>Objectif 8: Mettre en place un partenariat mondial pour le développement</b>					
Cible 8D: Traiter globalement le problème de la dette des pays en développement par des mesures d'octroi national et international propres à rendre l'endettement viable à long terme	8.12 Ratio service de la dette en pourcentage des exportations de biens et services	27,8% (1990)	6,6% (2009)	Probable	Probable
	8.15 Nombre de ligne de téléphone fixe pour 100 habitants	0,2 (2000)	1 (2009)	Improbable	Improbable
Cible 8F: En coopération avec le secteur privé, faire en sorte que les avantages des nouvelles technologies, en particulier des technologies de l'information et de la communication, soient accordés à tous	8.15 Abonnés à un service de téléphonie mobile pour 100 habitants	0,26 (2000)	24,7 (2009)	Probable	

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p. I-II

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

### (1) 目標 1 : 極度の貧困と飢餓の撲滅

2015年までにブルキナファソの就業者1人当たりのGDP成長率が10.6%となることが目

標とされている。1994年では当該指標は、3.8%であったが、2004年に3%に低下、その後2007年に3.8%となり、2015年の見込みは2.20%とされている。2007年に就業者1人当たりのGDPが上昇した理由は、生産性の向上ではなく、鉱業開発によるものと推測されている<sup>41</sup>。他方で、都市における労働人口に占める就業者人口の割合は、1994年の84.4%から、2003年は86.2%に増加し、2015年には88.58%と予測されている。2015年の目標は、100%であるため、11.42ポイント下回っている。ターゲット1.B「女性、若者を含むすべての人々に、完全かつ生産的な雇用、そしてディーセント・ワークの提供を実現する」については、達成可能性はあると判断されている。

ターゲット1.Cの飢餓人口半減については、達成不可能と判断されている。低体重の5歳未満児の割合は、1998年の34.3%から上昇傾向にあり、2003年は38%、2005年には46.1%、2007年には31.7%を記録している。2015年の低体重の5歳児未満の割合の予測値は、43.65%であり、目標値の28.65%を大きく上回っている。カロリー消費が必要最低限のレベル未満の人口の割合は減少傾向にあるものの、2008年の食糧危機のために減少率が鈍化している。そのため、2015年の飢餓人口の割合は36.64%と予測されており、目標の13.34%を大きく上回っている<sup>42</sup>。

## (2) 目標2：初等教育の完全普及の達成

目標2は、全体として達成困難と判断されている。しかし、改善がみられる指標もあり、初等教育における純就学率は1997年から大幅な改善がみられ、34.9%から57.9%に改善した。しかし、初等教育における純就学率は地方によって大きな差がある。純就学率が高い地方（中央地方、中央西地方）では、教育関係のインフラが整備されており、世帯の収入も比較的高い都市部であるということが、その理由として指摘されている<sup>43</sup>。しかし、全体としては、2015年の純就学率の目標は70%であるものの、MDG報告書時点の2015年の予測値は63.8%であり、目標を下回る予測値となっている（図表23）。

---

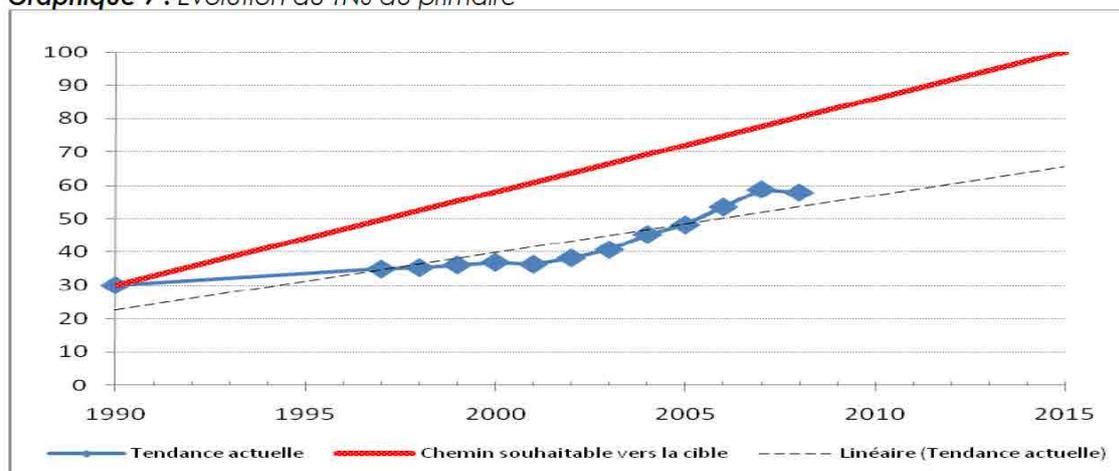
<sup>41</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.10  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>42</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.11

<sup>43</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.12

図表 23 初等教育の純就学率の推移（1990年 - 2008年）

Graphique 7 : Evolution du TNS au primaire



(注) Tendance actuelle : 実際の傾向

Chemin souhaitable vers la cible : 目標に向けた望ましい推移

Linéaire (Evolution actuelle) : 一次線 (実際の傾向)

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.12

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

また、第1学年に就学した生徒のうち初等教育の最終学年まで到達する生徒の割合については、2008年/2009年の時点で41.7%であり、2015年の予測値は48.66%であるため、2015年の目標(100%)は達成できないと判断されている<sup>44</sup>。

15 - 24歳の男女の識字率も上昇傾向にあるが、2007年時点で39.3%と低く、2015年時点では48.08%と予測され、目標の100%からは、51.92ポイント下回っている<sup>45</sup>。

### (3) 目標3 : 男女平等推進と女性の地位向上

初等教育における男子に対する女子の割合は1990年の0.62から2008年には0.88と大きく改善した。しかし、中等教育、高等教育と進むに従って、女子生徒の占める割合は少なくなり、2006年の指標によると中等教育では0.7、高等教育では0.6である。非農業部門における女性賃金労働者の割合は、2006年の調査によると40.8%であり、大部分の職種は男性によって占められているとの結果が示されている。女性の割合が多い職種は、ホテ

<sup>44</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, pp.13-14.  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>45</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, pp.14-15.

ル・レストラン業であり、性別による分業の傾向が表れている<sup>46</sup>。国会における女性議員の割合は、低位で推移しており、2015年には18%と予測されている。2015年までの目標は50%であり、大きく下回っている。しかし、選挙候補者のリストに、30%の性別によるクォータを導入するという法律が起用された場合には、状況が改善する可能性はある。

#### **(4) 目標4：乳幼児死亡率の削減**

5歳児未満の死亡率は1993年の204.5（1,000出生あたり）から、2006年には142まで減少している。2015年までの目標は62.3であるが、MDG報告書の時点での予測値は115.7であり、大きな乖離がある。

乳幼児死亡率は、1993年の107.6（1,000出生あたり）から、2006年には91.7まで減少した。2015年の目標が35.8であるものの、現在の2015年の予測値は70.4であり、現在1.2%の減少率であるが、目標達成するためには10%の減少率を維持しなければならない。ブルキナファソにおける乳幼児の死因は、出生後の感染症、早産、破傷風、低体重、マラリア、はしか、栄養不足、下痢、呼吸器系感染症、HIV/AIDSが挙げられる。また、はしかの予防接種を受けた1歳児の割合は大きく増加しており、2015年までに達成見込みとなっている<sup>47</sup>。

#### **(5) 目標5：妊産婦の健康の改善**

2015年までの目標は、妊産婦死亡率を141.5（10万出生あたり）とすることである。1993年の妊産婦死亡率は566であり、2006年は307.3である。2015年の予測値は190.6であり、MDG達成は、3年遅れた2018年と予想されている。

医療従事者による介助のある出産割合は、2015年までに100%が目指されている。1993年には41.5%であったが、2008年には62.7%と改善した。しかし、指標の推移を考慮した2015年の予測値は58.3%であり、目標達成は2045年と予測されている（図表24図表1）。また、都市部と地方の格差が大きく、2007年都市部では94.5%を達成しているものの、地方では51.4%と非常に低い割合である。地方別にみると、中央プラトー地方では80.2%、中央東地方では74.7%であるが、サヘル地方では36.8%、南西地方では51.8%となっている。また、社会経済状況も大きく影響しており、一般に給与所得者の世帯においては、助産師等の介助を受ける傾向がある。民間の給与所得者世帯の場合は73%、公務員の場合は65.2%、インフォーマルな民間の給与所得者の場合は48.1%である。しかし、綿花栽培者

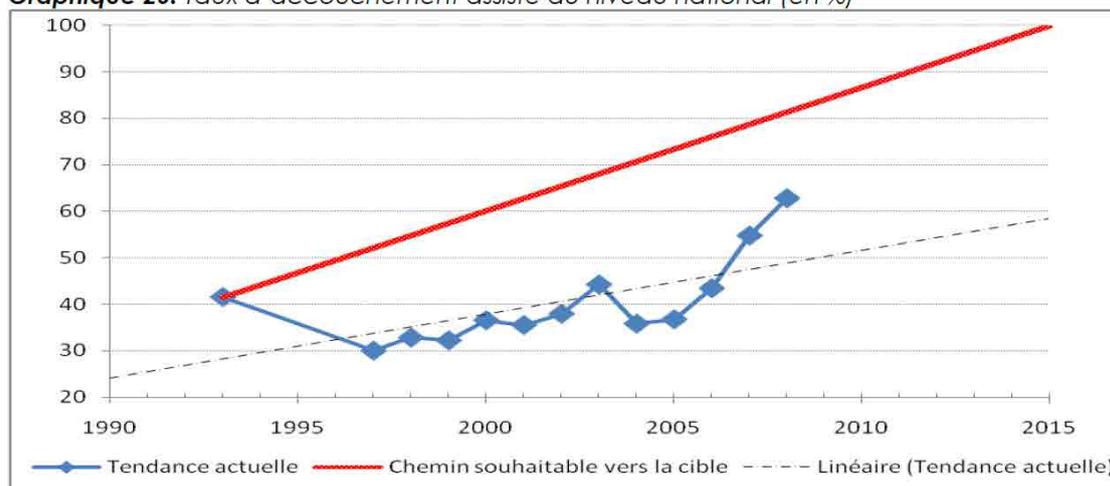
<sup>46</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.18.  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>47</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, pp.17-21.

の世帯の場合は 12.6%、その他の農業従事者の場合も 16.8%と低い割合である<sup>48</sup>。

**図表 24 医療従事者による介助のある出産割合（1993年 - 2006年）**

**Graphique 20: Taux d'accouchement assisté au niveau national (en %)**



Sources : EDS\_1993, 1998, 2003 et RGPH\_2006

(注) Tendance actuelle : 実際の傾向

Chemin souhaitable vers la cible : 目標に向けた望ましい推移

Linéaire (Evolution actuelle) : 一次線 (実際の傾向)

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.12

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

2015年までの普遍的なリプロダクティブ・ヘルスへのアクセス実現に関しては、保健省のデータによれば、避妊具普及率は2008年には27.9%であり、2015年の目標45%は達成可能と判断されている<sup>49</sup>。

## (6) 目標6 : HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延阻止

ターゲット6.A「HIV/AIDSの蔓延を2015年までに食い止め、減少させる」という目標は達成可能と判断されている。15 - 24歳のHIV感染率は、2003年の1.9%から、2008年には1.3%まで減少し、2015年には0.77%となることが予想されており、MDGの目標は達成可能と判断されている<sup>50</sup>。また、UNAIDSによるさらに、ブルキナファソでは、コンドームの

<sup>48</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, pp.22-23.

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>49</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, pp.23-24.

<sup>50</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, pp. I-II. MDG報告書の中で、UNAIDSによる数値として、1997年に7.17%、

配布や啓蒙活動が行われており、HIV/AIDS感染予防に関する指標である「最後のハイリスクな性交渉におけるコンドーム使用率」については、2005年には56.8%、2009年には69.6%となり、状況は改善している。同使用率を押し下げている要因として、女性の男性に対する交渉力がないこと、さらに女性用避妊具が普及していないことが指摘されている<sup>51</sup>。

ターゲット 6.B「2010年までにHIV/AIDSの治療への普遍的アクセスを実現する」は、達成可能と判定されている。治療を必要とするHIV感染者に対する医療施設数は増加しており、抗レトロウィルス薬へのアクセスも改善されてきた。抗レトロウィルス薬へのアクセスのある患者数割合は、2003年の1.4%から2005年には24.7%に増加し、2009年は47%となった。この改善は、月当たりの治療費が補助金込みで、5,000FCFAであったものが、1,500FCFAに引き下げられ、さらに2010年1月からは無料化されたことが背景にある<sup>52</sup>。

ターゲット 6.C「マラリア及びその他の主要な疾病の発生を2015年までに食い止め、発生率を減少させる」については達成困難と判断されている。マラリア及びその他の主要な疾病の発生については、5歳未満児と妊婦に対して優先的に殺虫剤処理済みの蚊帳の配布が行われた。また、全国規模で800万以上の殺虫剤処理済みの蚊帳が配布されるキャンペーンが実施された。これらの取り組みから、少なくとも80%の対象者に対して殺虫剤処理済みの蚊帳が配布されている。結核の有病率は2000年の13.6%から、2007年には19.4%と増加しており、2015年の目標である6.8%を達成することは困難な見込みである。MDGsの結核に関する指標である「短期化学療法を用いた直接監視下治療の下で発見され、治療された結核患者の割合」については、結核の診療治療施設が80か所に設立されたり、医療関係者の能力強化や設備の配置が行われたりするなど、各種の取り組みが進められ、2015年までに目標は達成可能という見込みである。

## (7) 目標7：環境の持続可能性の確保

2015年までに、安全な飲料水及び衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減するという目標は、全体としては達成不可能と予測されている。

まず安全な飲料水源を継続して利用できる人口の割合は国全体では改善されており、この改善傾向が維持されれば2015年には100%近くなると予測されている。しかし、地域差が依然として大きいことが課題である。国全体で飲料水へのアクセスは1993年は18.3%

---

2008年に1.6%、他方で保健センターによるデータでは、2003年に1.9%、2006年に1.3%となっており、ばらつきがみられる。(Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p. 26)

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>51</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, pp.26-27.

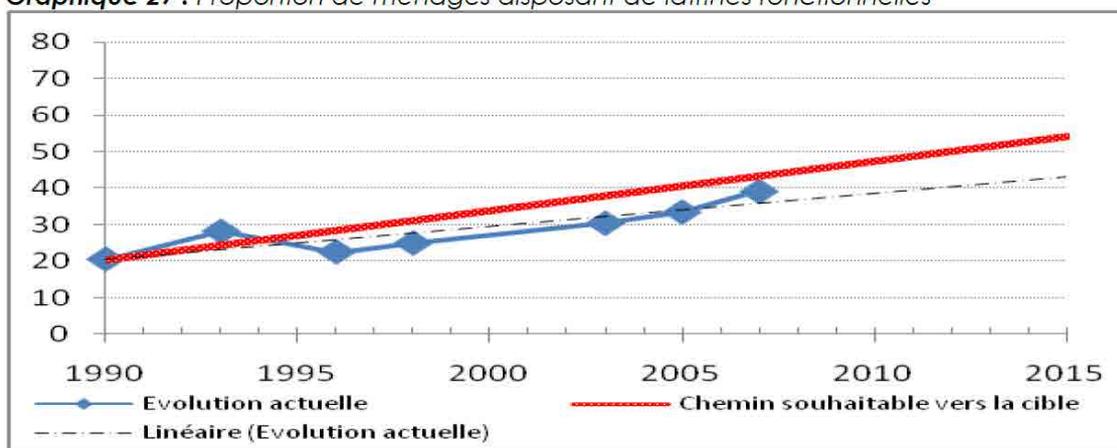
<sup>52</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.27, p.l.

であったが、2007年には66.3%に改善している。地方別にみると、ブルク・ドゥ・ムフン地方では26.7%と低い一方で、中央地方では98.2%である<sup>53</sup>。

衛生施設を利用できる人口の割合は、1996年には22.5%であったところ、2000年には20.47%、2007年には39.2%に増加した。都市と地方の格差も大きく、都市部では衛生施設の使用は85.5%にのぼるが、地方では26.7%にとどまっている。2015年までの目標は、56.4%であるが、現在の改善傾向からの予測値は43%とされており、目標を下回っている<sup>54</sup>。

図表 25 衛生施設のある世帯割合（1990年 - 2007年）

Graphique 27 : Proportion de ménages disposant de latrines fonctionnelles



(注) Evolution actuelle : 実際の推移

Chemin souhaitable vers la cible : 目標に向けた望ましい推移

Linéaire (Evolution actuelle) : 一次線 (実際の推移)

(出所) Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.31

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

## (8) 目標 8 : 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

商品及びサービスの輸出額に対する債務返済額の割合は、1990年以降減少傾向にある。これは、重債務貧困国 (Heavily Indebted Poor Countries : HIPC) イニシアティブによる債務削減の成果である。しかし、金融危機を背景とした綿花の価格の下落、綿花栽培者の栽培意欲減退などのために、債務返済額の割合は今後上昇する可能性も否定できない。

<sup>53</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.30.

[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>54</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.31, p.II

人口 100 人当たりの電話回線加入者数は、1990 年の 0.20 人から 2009 年には 1.0 人に増加したが、目標は 5 人であり、目標を大きく下回っている。他方で、人口 100 人当たりの携帯電話加入者数は、2000 年の 0.26 人から 2008 年には 13.57 人、2009 年には 24.7 人と大幅に増加している<sup>55</sup>。

### 3. 食糧安全保障・脆弱性による分析

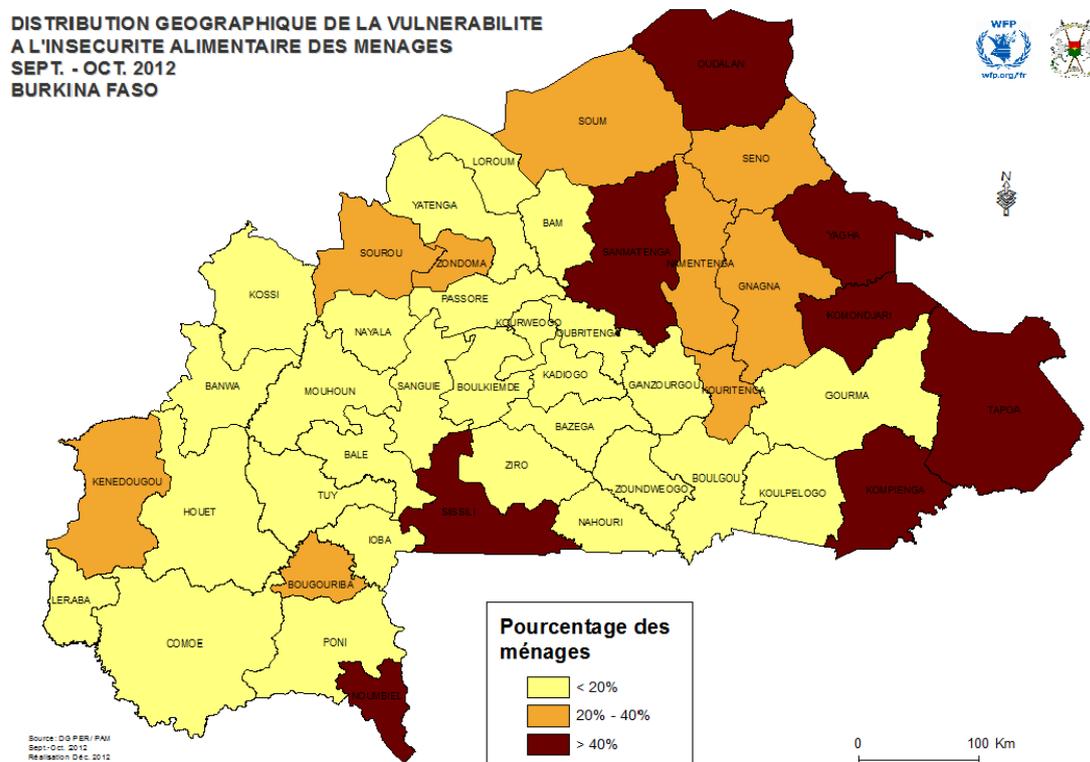
2012 年に実施されたブルキナファソ政府と世界食糧計画（World Food Programme : WFP）評価では食料安全保障が脅かされている世帯が地方に多く居住し、地図 4 が示すように特に東地方とサヘル地方、北地方とサヘル地方の軸において食料安全保障に脆弱な状況であると判断されている。これらの地域では 2011 年及び 2012 年の食糧危機の影響が、当該調査時点でも残っていることが確認されている<sup>56</sup>。

---

<sup>55</sup> Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010, p.33, p.II  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf)（2014 年 1 月 6 日アクセス）

<sup>56</sup> WFP/PAM (2012) Résumé exécutif évaluation approfondie post-sécheresse de la sécurité alimentaire des ménages, Burkina Faso pp.2-3.  
<http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/wfp254718.pdf>（2014 年 1 月 6 日アクセス）

地図 4 食料安全保障に脆弱な世帯の分布



(出所) WFP/PAM (2012) Résumé exécutif évaluation approfondie post-sécheresse de la sécurité alimentaire des ménages, Burkina Faso, p.3.  
<http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/wfp254718.pdf> (2014年1月6日アクセス)

食料安全保障が脅かされる状況となる場合には、複数の要因が重なっていることが多い。例えば、不十分な農業生産、不安定・不十分な所得、債務、限定的な設備・器具、限定的な人道支援、基礎社会サービスへの不十分なアクセス、気候変動や経済危機などの影響などが挙げられている<sup>57</sup>。

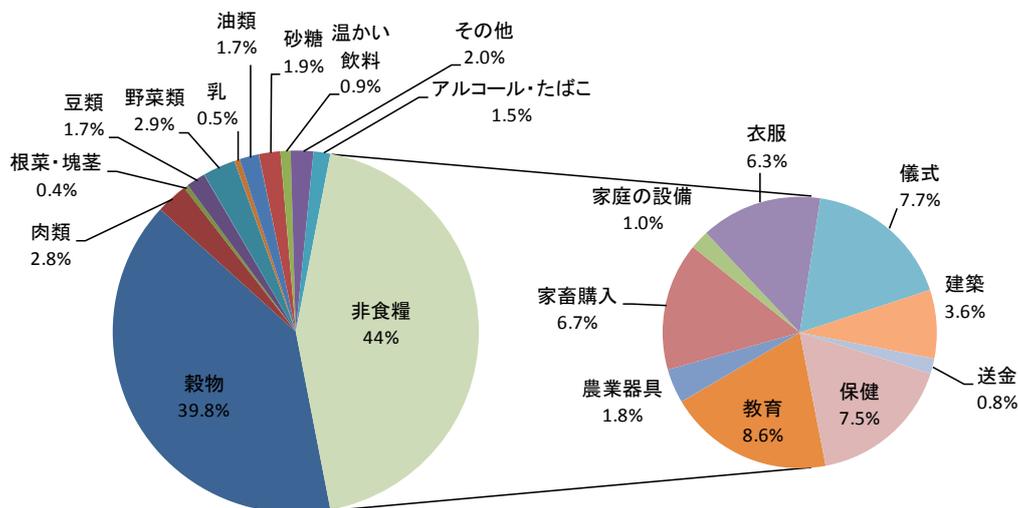
2012年にブルキナファソ政府とWFPにより実施された調査によると<sup>58</sup>、調査対象の世帯において家計の56%の支出は食料品購入に充てられ、40%は穀物の購入であった(図表 26)。また、肉・乳製品等の蛋白源の購入は少ない。加えて、食料の購入が多い理由の一つは、各世帯が保存用の食料を長期間持たないことにある。一般に、保存される食料は主にキビ、モロコシ類といった穀類である。これらの食の保存の期間は平均で2.6か月であるが、サヘル地方(2か月)、中央南地方(2か月)、中央地方(1.7か月)などでは平均を下回っている。

<sup>57</sup> WFP/PAM (2012) Résumé exécutif évaluation approfondie post-sécheresse de la sécurité alimentaire des ménages, Burkina Faso, p.3.  
<http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/wfp254718.pdf> (2014年1月6日アクセス)

<sup>58</sup> 当該調査では2012年の2月から3月にかけてアンケートデータが収集され、全国238の村の2,514世帯から回答を得ている。

る。次の収穫まで必要な食料がある世帯は、全体の8.2%に過ぎず、大半の世帯（89.1%）では、次の収穫より前に保存用食料が尽きてしまう<sup>59</sup>。さらに食料を購入することは、世帯が債務を負う原因にもなっている。

図表 26 世帯の月次支出構成



(出所) WFP (2012) Rapport d'évaluation approfondie sur la sécurité alimentaire des ménages en situation d'urgence (EFSA) dans 170 communes déclarées à risque d'insécurité alimentaire au Burkina Faso, p.26 <http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp249892.pdf> (2014年1月6日アクセス)

また、支出が最も少ない世帯層では、食料安全保障状況が深刻な割合が40%であり、他の世帯における割合よりも高い。また食糧安全保障の状況が深刻な世帯においては、所得の81%を食糧購入に充てているが、食糧安全状況が不安定な世帯では69%となっている(図表27)。

<sup>59</sup> WFP (2012) Rapport d'évaluation approfondie sur la sécurité alimentaire des ménages en situation d'urgence (EFSA) dans 170 communes déclarées à risque d'insécurité alimentaire au Burkina Faso, pp.26-29. <http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp249892.pdf> (2014年1月6日アクセス)

図表 27 所得と食料安全保障（2012年）

		食糧安全保障が確保 (Sécurité alimentaire)	食糧安全保障が不安定 (Insécurité alimentaire modérée)	食糧安全保障状況が 深刻 (Insécurité alimentaire sévère)
家計支出 五分位	最も低い	28%	<b>32%</b>	<b>40%</b>
	低い	34%	39%	27%
	中程度	50%	31%	19%
	高い	49%	32%	19%
	非常に高い	<b>66%</b>	23%	11%
一人当たり月収平均 (FCFA)		9,153	7,131	5,847
食糧支出の割合		46%	69%	81%
全体に占める割合		46%	31%	23%

(出所) WFP, Rapport d'évaluation approfondie sur la sécurité alimentaire des ménages en situation d'urgence (EFSA) dans 170 communes déclarées à risque d'insécurité alimentaire au Burkina Faso, Avril 2012, p.43

<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp249892.pdf> (2014年1月6日アクセス)

## V. 社会的属性・特性と貧困との関連の分析

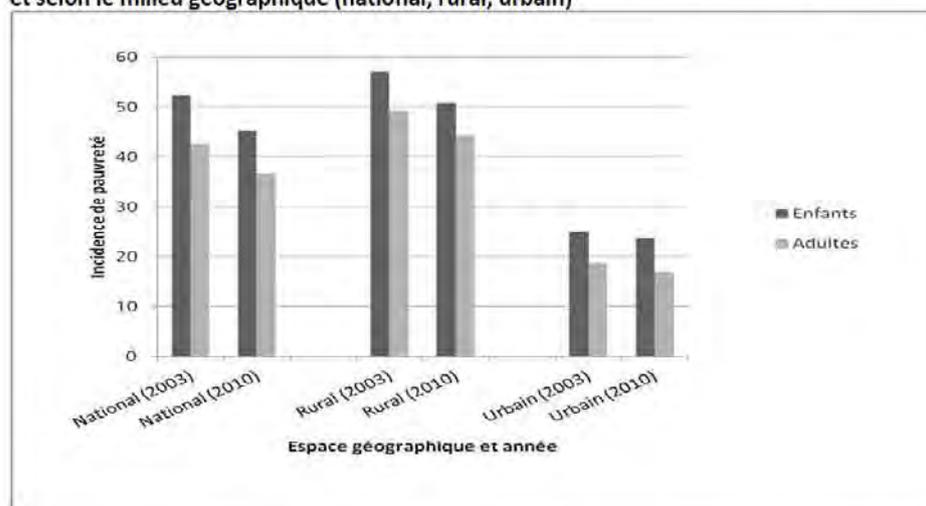
### 1. 社会的に排除されているグループの存在と貧困指標との関連

#### (1) 子供

子供の貧困率は 2003 年から 2010 年の間に減少し、2003 年では 52.2%、2010 年では 45.3%であったが、成人の貧困率より高くなっている（図表 28）。ユニセフの報告書は、子供の貧困率が減少した背景には、貧困ギャップ率が改善したことを挙げている。しかし、二乗貧困ギャップ率は 2003 年から 2010 年の間に若干悪化している。このことから、極度の貧困層の状況が悪化していることが示唆される。また、地方における貧困率が高く、2010 年では都市の 23.8%に対して、地方では 50.8%と高い値である<sup>60</sup>（図表 29）。

図表 28 子供の所得貧困率（2003 年、2010 年）

Graphique 1: Comparaisons de la pauvreté monétaire des enfants et des adultes selon l'année (2003, 2010) et selon le milieu géographique (national, rural, urbain)



(注) 2003 年の貧困線 : 8 万 2,672FCFA、2010 年の貧困線 : 12 万 5,949FCFA

(出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.15

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

<sup>60</sup> Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.14

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

図表 29 子供の貧困関連指数（都市部・地方、2003年・2010年）

	2003			2010		
	貧困率	貧困ギャップ率	二乗貧困ギャップ率	貧困率	貧困ギャップ率	二乗貧困ギャップ率
国全体	52.2	17.6	8.0	45.3	16.6	8.5
地域別						
地方	57.2	19.6	9.0	50.8	18.9	9.8
都市部	25.0	6.7	2.6	23.8	7.6	3.6

（出所）Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.15

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf)（2014年1月6日アクセス）

児童労働の状況は、2003年から2010年の間に50.7%から65.5%に大幅に増加した（図表30）。世帯の支出五分位（Quintile des dépenses）で見ると、児童労働の割合が最も低い、最も裕福な層（Quintile5）においても、2人に1人の割合で児童労働が行われている。さらに、より貧困層になるに従って児童労働の割合が増加し、最貧困層（Quintile 1）では、74.8%の子供が労働している<sup>61</sup>。

児童労働が行われる背景には、様々な要因が指摘されている。例えば、世帯主と子供の関係という観点からは、世帯主の実子の場合、実子でない子の場合よりも児童労働に従事する率が低くなるという。また、児童労働による収入が世帯の所得源であるため、貧困世帯では児童労働の割合が高くなることも指摘されている。その他、世帯の構成人数も要因の一つとして指摘されており、世帯の構成人数が多くなると児童労働の割合が減少する傾向にあるが、逆に5-17歳の子供の数が多いと児童労働の割合は増加する。また、世帯主の年齢や性別、教育レベルも関係しており、世帯主が男性の場合は児童労働の割合は増加し、世帯主の教育レベルが上がるほど児童労働の割合は少なくなるという。通学との関係という観点からは、通学距離が長いと児童労働の割合が高くなる傾向がある。地方の世帯においては、農業機具の不足を子供の労働力で補っている場合もあるとされる<sup>62</sup>。

<sup>61</sup> Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.39  
[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>62</sup> UNICEF (2010) Analyse de la situation de la pauvreté et de la vulnérabilité de l'enfant et de la femme au Burkina Faso, pp.42-44.  
[http://www.unicef.org/bfa/english/bf\\_analyse-de-la-pauvrete-de-l-enfant-2010\\_UNICEF\\_final.pdf](http://www.unicef.org/bfa/english/bf_analyse-de-la-pauvrete-de-l-enfant-2010_UNICEF_final.pdf)（2014年1月6日アクセス）

図表 30 過去 7 日間に労働した子供（5 - 17 歳）の割合（2003 年、2010 年）

Tableau 13: Proportions d'enfants de 5 à 17 ans ayant travaillé au cours de 7 jours précédents.

	2003	2010
<b>National</b>	50,7	65,5
<b>Région</b>		
Hauts Bassins	40,6	56,6
Boucle du Mouhoun	49,4	66,5
Sahel	42,1	68,7
Est	37,5	79,5
Sud-ouest	69,7	65,5
Centre Nord	76,4	89,2
Centre Ouest	56,4	72,7
Plateau Central	45,8	61,0
Nord	64,8	72,3
Centre Est	52,6	64,1
Centre	19,0	25,4
Cascades	44,0	71,0
Centre Sud	80,5	71,7
<b>Milieu de résidence</b>		
Rural	57,7	75,0
Urbain	14,9	29,8
<b>Quintile des dépenses</b>		
Quintile 1	65,5	74,8
Quintile 2	57,0	70,7
Quintile 3	51,1	70,3
Quintile 4	46,7	62,3
Quintile 5	32,3	48,6
<b>Sexe de l'enfant</b>		
Garçon	50,7	68,3
Fille	50,7	62,6
<b>Age de l'enfant</b>		
Age préscolaire (moins de 6 ans)	36,9	46,5
Age du primaire (6 à 12 ans)	45,5	59,2
Age du secondaire (13 à 17 ans)	64,9	77,9

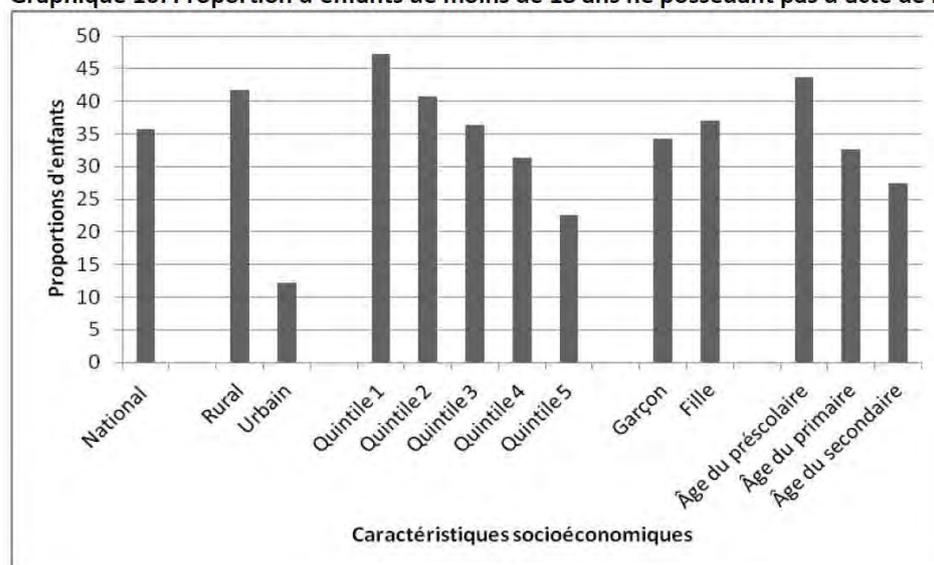
(出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.40, [http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014年1月6日アクセス)

2010年、ブルキナファソにおいて出生証明書を持たない18歳未満の子供の割合はおよそ35%であった。地方では出生証明書を持たない子供の割合が42%であり、都市部の12.5%を大幅に上回っている。また、世帯の支出状況を見ると、世帯の生活状況が向上するに従って、出生証明書を持つ子供の割合が高くなっている。また、教育レベルが上がるにつれて所有率も増加している(図表31)。ただし、この割合は2011年出生証明書登録の全国キャンペーンが実施されたことから、現在は改善がみられていると考えられる<sup>63</sup>。

<sup>63</sup> Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.40 [http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014年1月6日)

図表 31 出生証明書を持たない 18 歳未満の子供の割合（2010 年）

Graphique 10: Proportion d'enfants de moins de 18 ans ne possédant pas d'acte de naissance en 2010



(注) National : 国全体、Rural : 地方、Urbain : 都市部、Quintile : 支出五分位、Garçon : 男子、Fille : 女子、Age du préscolaire : 就学前、Age du primaire : 初等教育、Age du secondaire : 中等教育  
 (出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.41  
[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014年1月6日アクセス)

## (2) 女子・女性

### (i) 貧困率

15 - 49 歳の女性の貧困率は、2003 年から 2010 年の間に 44.6%から 38.4%へと減少した。また、貧困ギャップ率は 14.7%から 13.9%に減少したが、二乗貧困率は 6.6 から 7.1 に増加している (図表 32)。また、女性の貧困率を成人の貧困率と比較すると、女性の貧困率は、都市部及び地方において成人の貧困率を若干上回っている<sup>64</sup>。

アクセス)

<sup>64</sup> Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, pp.43-45  
[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014年1月6日アクセス)

図表 32 15-49 歳の女性の貧困率 (2003 年、2010 年)

	2003			2010		
	貧困率	貧困ギャップ率	二乗貧困ギャップ率	貧困率	貧困ギャップ率	二乗貧困ギャップ率
国全体	44.6	14.7	6.6	38.4	13.9	7.1
地域別						
地方	51.2	17.3	7.8	46.3	17.0	8.8
都市部	19.5	5.1	1.9	17.5	5.6	2.6

(注) 2003 年の貧困線 : 8 万 2,672FCFA、2010 年の貧困線 : 12 万 5,949FCFA

(出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.43

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

## (ii) 保健

保健関係のインフラは整備されてきているものの、経済的、社会的な理由などから女性の保健や医療へのアクセス状況が課題である。コミュニティから保健医療施設へのアクセスが 30 分未満であることが重要である。ただし、実際には施設への距離だけではなく、医療費用や社会文化的な要因もアクセスを妨げる要因となっている。図表 33 によると、2010 年、54.8%の女性が医療施設にアクセスするために 30 分以上の時間がかかっている。都市の場合は、当該割合は 31.3%であり、地方の 63.7%よりアクセスがよい。地方ごとでは、中央地方のみが 25.6%であり、他の地方よりもアクセス状況がよい。また富裕層になるほど、保健・医療施設へのアクセス状況が改善している。

図表 33 女性の保健・医療施設へのアクセス

Tableau 20: Accès à la santé : proportion de femmes résidant à 30 minutes et plus ou à 60 minutes et plus du centre hospitalier le plus proche.

	A 30 minutes et plus		A 60 minutes et plus	
	2003	2010	2003	2010
<b>National</b>	62,9	54,8	35,3	26,5
<b>Région</b>				
Hauts Bassins	50,9	52,4	31,8	27,3
Boucle du Mouhoun	66,8	35,5	31,7	16,2
Sahel	77,2	83,6	62,2	54,3
Est	69,6	62,8	34,2	38,1
Sud-ouest	94,1	80,2	59,0	50,7
Centre Nord	77,8	81,1	39,8	44,7
Centre Ouest	68,5	55,8	34,6	19,8
Plateau Central	78,4	47,3	49,3	15,8
Nord	54,6	56,2	21,1	27,5
Centre Est	66,5	72,1	38,9	29,3
Centre	19,2	25,6	4,8	5,2
Cascades	77,4	51,1	45,2	26,7
Centre Sud	72,9	55,6	62,9	25,3
<b>Milieu de résidence</b>				
Rural	73,3	63,7	43,4	34,3
Urbain	23,7	31,3	5,0	6,1
<b>Quintile des dépenses</b>				
Quintile 1	72,2	63,8	40,8	32,4
Quintile 2	70,0	61,9	41,8	31,3
Quintile 3	67,9	59,4	39,1	28,1
Quintile 4	60,6	51,8	32,5	24,5
Quintile 5	43,8	36,8	22,5	16,2

(注) A 30 minutes et plus : 30 分以上、A plus 60 minute et plus : 60 分以上、National : 国全体、Région : 地方、Milieu de résidence : 居住地域、Rural : 地方、Urbain : 都市部、Quintile des dépenses : 所得五分位

(出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.57

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

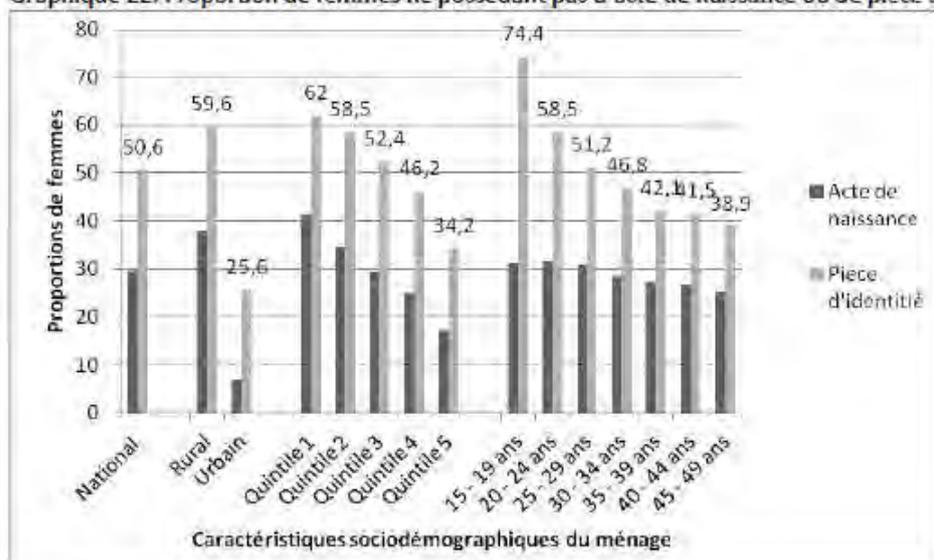
### (iii) 身分証明書・出生証明書

2010 年の調査では、15 - 49 歳の女性の半数が身分証明書を所有しておらず、3 人に 1 人の女性が出生証明書を保有していない。年齢別に見てみると、特に 15 - 19 歳の女性の非保有率が高くなっている。非保有率は地方において高く、また生活水準が下がるほど高くなっている<sup>65</sup> (図表 34)。

<sup>65</sup> Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.64  
[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

図表 34 出生証明書を持たない女性の割合（2010年）

Graphique 22: Proportion de femmes ne possédant pas d'acte de naissance ou de pièce d'identité en 2010



(注) Acte de Naissance : 出生証明書、Pièce d'identité : 身分証明書、National : 国全体、Rural : 地方、Urbain : 都市部、Quintile : 支出五分位、15-19 ans : 15-19 歳、20-24 ans : 20-24 歳、25-29 ans : 25-29 歳、30-34 ans : 30-34 歳、40-44 ans : 40-44 歳、45-49ans : 45-49 歳

(出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.65

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014年1月6日アクセス)

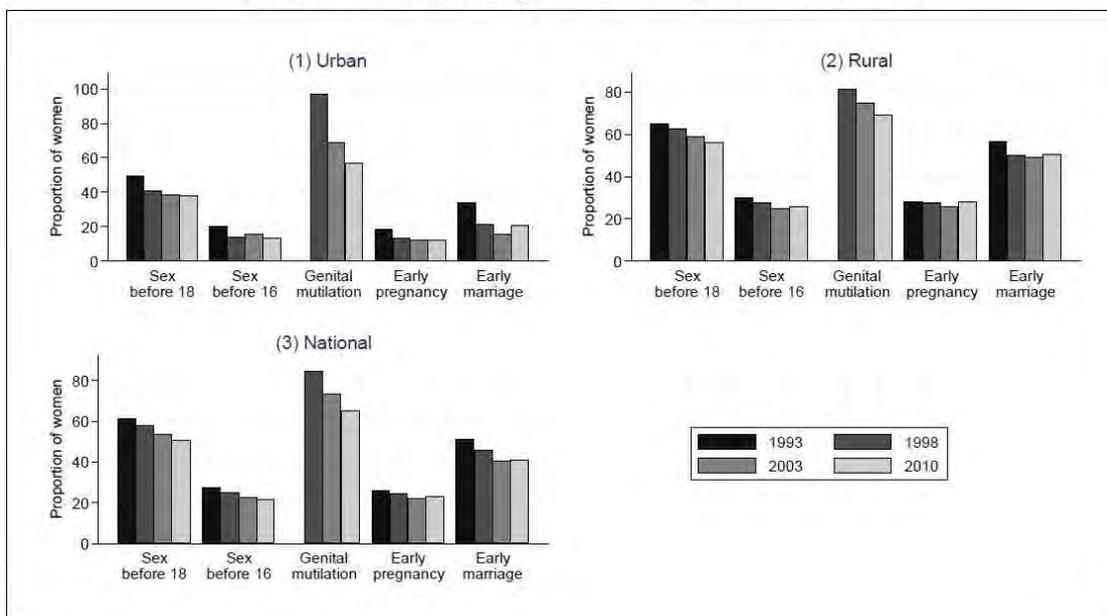
#### (iv) 社会的保護

女性器切除 (Female Genital Mutilation : FGM) 及び早期結婚は 1990 年代から改善はみられるものの、依然としてブルキナファソにおいて重要な問題である。15 - 24 歳の女性が FGM を受けた割合は 1998 年には 85% であったが、2010 年には 65% に減少した。都市部では 97% から 56% に減少し、地方では 82% から 69% に減少している。また、性交経験がある 16 歳未満の割合は 1993 年から減少し、2010 年には 20% となった (都市部 : 13%、地方 : 26%)。また、早期の妊娠も減少傾向にあるものの、地方では 28% と都市部の 12% を上回っている。早期結婚率も地方では 50% (2010 年) (57%、1993 年) と高いが、都市部においても 2010 年において 21% (34%、1993 年) と無視できない割合である<sup>66</sup> (図表 35)。

<sup>66</sup> World Bank (2013) Burkina Faso Non-Monetary Poverty and Gender Inequalities 1993-2010 Trends, Policy Note 5, pp.15-16  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037\\_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

図表 35 10代の女子に対する社会的保護の状況（1993年 - 2010年）

Figure 1.21: Teenagers and social protection  
(cohort of women aged 15 to 24 years - 1993-2010)



(出所) World Bank (2013) Burkina Faso Non-Monetary Poverty and Gender Inequalities 1993-2010 Trends, Policy Note 5, p.16

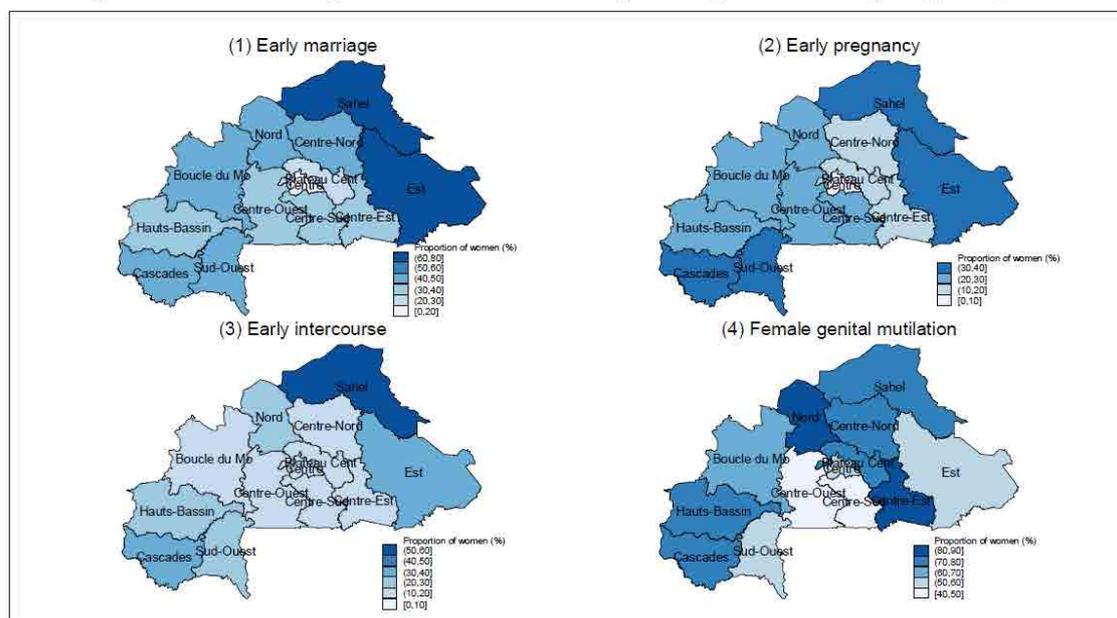
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037\\_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf)

(2014年1月6日アクセス)

地図 5 は、10代の女子に対する社会的な保護状況を表しており、早期の結婚、早期の妊娠、早期の性交経験、FGM に関して、該当する女性の割合が高いほど色が濃く示されている。全体としてサヘル地方、東地方ではこれらが実施されている割合が高く、中央地方における割合は少ない。たとえば、中央地方においては早期結婚を行う女性は 20%未満であるが、サヘル地方及び東地方では 60%以上となっている。

地図 5 10代の女子に対する社会保護状況（地方別、2010年）

Figure 1.22: Social protection and teenagers deprivation by regions, 2010



(出所) World Bank (2013) Burkina Faso Non-Monetary Poverty and Gender Inequalities 1993-2010 Trends, Policy Note 5, p.17

[http://www.wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037\\_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www.wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf)

(2014年1月6日アクセス)

### (3) 障がい者

サブサハラアフリカ諸国においては、障がいは貧困と深く関わっており、極度の貧困の原因となる。これは、保健、栄養、労働環境が劣悪であることが関係している。2006年の政府調査によると、ブルキナファソでは、人口の1.2%（16万8,094人）が何らかの障がいを持っているとされる。しかし、WHOの推計では人口の10%（140万1,726人）が障がいがあるとされ、子供の障がい者数は、約73万人と推計されている。障がい者の66%は何の教育も受けず、初等教育を受けている割合は16.5%にとどまる。また、60-80%は、保健サービスへのアクセスに困難を抱えている。さらに、76.8%の障がい者は失業状況にある。社会から疎外される割合も高く、43.7%は社会的疎外状況にあるという<sup>67</sup>。

<sup>67</sup> UNICEF (2010) Analyse de la situation de la pauvreté et de la vulnérabilité de l'enfant et de la femme au Burkina Faso, pp.26-27

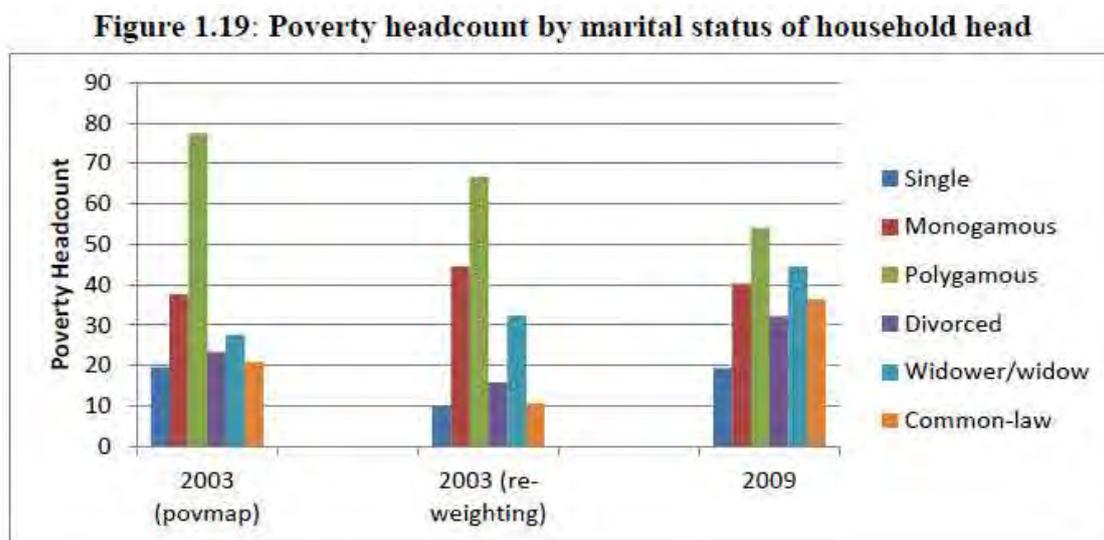
[http://www.unicef.org/bfa/english/bf\\_analyse-de-la-pauvrete-de-l-enfant-2010\\_UNICEF\\_final.pdf](http://www.unicef.org/bfa/english/bf_analyse-de-la-pauvrete-de-l-enfant-2010_UNICEF_final.pdf) (2014年1月6日アクセス)

## 2. その他の要因と貧困との関連

### (1) 世帯主の婚姻状況

ブルキナファソにおいては、一夫多妻制が法的に認められている。世界銀行の報告書では、調査におけるサンプル数の規模に留意する必要があるとしているが、一夫多妻制の世帯における貧困率が、いずれの婚姻状況の世帯よりも高くなっていると指摘している（図表 36）。一夫多妻制の世帯の 20%は、一夫多妻制の婚姻関係を結んでいる女性が世帯主となっている世帯である。一般に一夫多妻制は富裕の象徴とされることがあるものの、一夫多妻制の場合は世帯の人数が大きくなる傾向があることなどから、この調査からは一夫多妻制は貧困状況に対して負の影響があることが示唆される。

図表 36 世帯主の婚姻状況による貧困状況（2003 年、2009 年）



(出所) World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.23.  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf)  
(2014 年 1 月 6 日アクセス)

## VI. 貧困層・社会的弱者に影響を与えている短期的・長期的要因、リスクとシヨック

### (1) 気候変動

ブルキナファソの主たる産業は農業であるが、自給自足の粗放農業が主体であり、降雨量は農業生産に大きな影響を及ぼす。そのため、気候変動はブルキナファソにとって重要な問題となっている。

ブルキナファソの気候は地域によって異なり、主に、南部スーダン地域（北緯 11 度 30 以南）、北部スーダン地域（北緯 11 度 30 - 14 度）、サヘル地域（北緯 14 度以北）の三種類に分類される。南部スーダン地域の年間平均降雨量は 900 - 1,200mm である。北部スーダン地域は年間平均降雨量が 600 - 900mm であり、4 - 5 か月の降雨期間がある。サヘル地域は、年間平均降雨量が 300 - 600mm と少なく、降雨がある期間は 1 年のうち 3 か月程度である<sup>68</sup>。

PANAによると、ブルキナファソの気候は温度の上昇傾向、さらに降水量の減少傾向が確認されている。2025 年には平均 0.8 度の気温の上昇、2050 年には 1.7 度の上昇が見込まれ、降水量については 2025 年にはマイナス 3.4%、2050 年にはマイナス 7.3% となることが予想されている<sup>69</sup>。

---

<sup>68</sup> FAO ウェブサイト : [http://www.fao.org/nr/water/aquastat/countries\\_regions/burkina\\_faso/indexfra.stm](http://www.fao.org/nr/water/aquastat/countries_regions/burkina_faso/indexfra.stm) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

<sup>69</sup> Ministère de l'Environnement et du Cadre de vie (2007) Programme d'action national d'adaptation à la variabilité et aux changements climatiques, p.14, <http://unfccc.int/resource/docs/napa/bfa01f.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

地図 6 ブルキナファソの気候

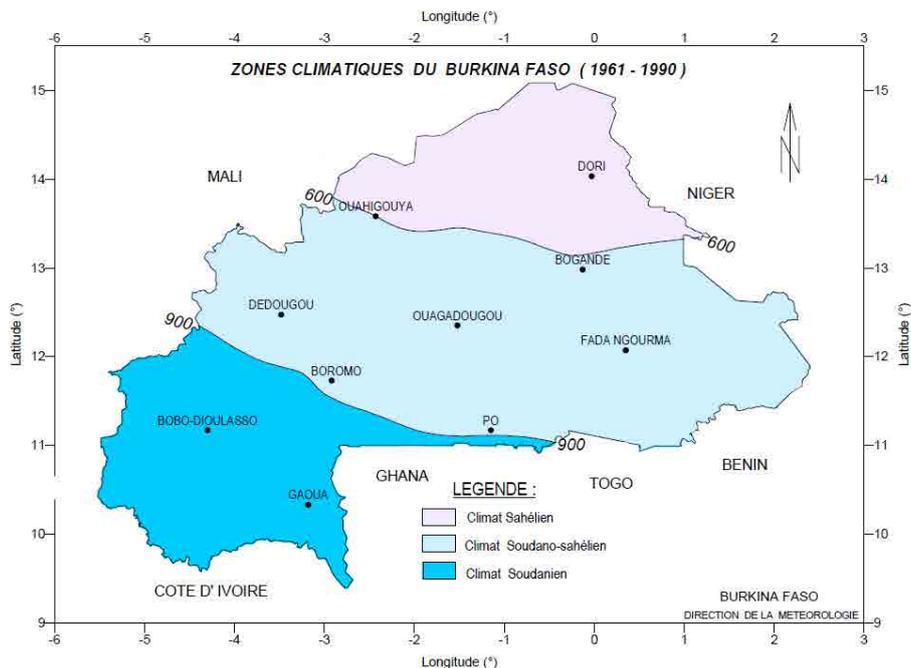


Figure 3 : Les zones climatiques du Burkina Faso (Direction de la Météorologie, 1998)  
 (出所) Ministère de l'Environnement et du Cadre de vie (2007) Programme d'action national d'adaptation à la variabilité et aux changements climatiques, p.8  
<http://unfccc.int/resource/docs/napa/bfa01f.pdf> (2014年1月6日アクセス)

ブルキナファソでは、干ばつ、洪水、砂嵐、高温などの極端な気候現象が農業や人々の生活に大きな影響を与えている。たとえば、干ばつは砂漠化を進行させてしまい、さらに人々が移住し、移住先の地域の環境悪化にもつながっている。また、干ばつのために、それまで移牧を行っていなかった地域でも移牧を行うようになってきている。さらに、干ばつは食糧生産にも悪影響を及ぼし、飢饉の原因にもなっている(図表 37)<sup>70</sup>。2011年には深刻な干ばつが発生し、2011年の食糧生産高は前年比21%減少した。特にサヘル地方、中央北地方、中央西地方、東地方、北地方、ブクル・ドゥ・ムフン地方が影響を受けた<sup>71</sup>。

洪水による損害も大きく、1994年の洪水による農産物の損害は639億3,768万FCFAと推計されている<sup>72</sup>。また、2009年9月に12時間の間に降雨量263.4ミリメートルを記録する過去105年以來の記録的豪雨により、洪水が発生した。13地方のうち11地方が影響

<sup>70</sup> Ministère de l'Environnement et du Cadre de vie (2007) Programme d'action national d'adaptation à la variabilité et aux changements climatiques, p.4. <http://unfccc.int/resource/docs/napa/bfa01f.pdf> (2014年1月6日アクセス)

<sup>71</sup> International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies (2012) Revised Emergency Appeal, Burkina Faso : Complex emergency (Formerly food insecurity), p.1 <http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/Revised%20Emergency%20Appeal%20Burkina%20Faso.pdf> (2014年1月6日アクセス)

<sup>72</sup> Ministère de l'Environnement et du Cadre de vie (2007) Programme d'action national d'adaptation à la variabilité et aux changements climatiques, p.5. (2014年1月6日アクセス)

を受け、特に中央地方、中央プラトー地方、ブウクル・ド・ムフン地方、中央北地方、東地方、中央南地方における損害が大きかった。被災者数は 1 万 9,356 人に上り、死亡者数は 46 人、怪我人数 63 名、行方不明者 1 名に上った<sup>73</sup>。2011 年の干ばつ後、雨不足が心配されていたが、2012 年 6 月から 7 月にかけては豪雨となり、洪水が発生した。この洪水によって、4 万 7,671 人が影響を受け、18 名の死亡者が発生している<sup>74</sup>。

図表 37 干ばつによる損害 (1908 年 - 2004 年/2005 年)

気候変動 (Crise climatique)	損害を受けた人口 (Population touchée)		死者数 (Nombre de morts)	穀物不足量割合 (Déficit céréaliier en pourcentage)	穀物不足 量 (トン) (Déficit céréaliier en tonnes)	地方数 (Nombre de provinces)
	総人数 (Total touché)	脆弱層 (Groupe vulnérable)				
1908	-	-	50,000	-	-	-
1921	-	-	-	20	-	-
1972/1973	-	325,000	-	80	-	-
1983/1984	2,500,000	500,000	-	-	163,000	10/30
1990/1991	2,500,000	-	-	-	127,250	24/30
1995/1996	692,000	-	-	-	24,000	14/45
1997/1998	910,000	-	-	14	160,000	17/45
2000/2001	1,000,000	-	-	-	-	25/45
2004/2005	-	-	-	-	436,013	15/45

(注) 1993 年に地方の数は 30 から 45 に増加した。

(出所) Ministère de l'Environnement et du Cadre de vie (2007) Programme d'action national d'adaptation à la variabilité et aux changements climatiques, p.4

<http://unfccc.int/resource/docs/napa/bfa01f.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

<sup>73</sup> Inondations du 1er Septembre 2009 au Burkina Faso, Evaluation des dommages, pertes et besoin de construction, de reconstruction et de relèvement, pp.30-31

[http://www.gfdr.org/sites/gfdr.org/files/documents/PDNA\\_BurkinaFaso\\_Sept-09\\_Rapport\\_FR.pdf](http://www.gfdr.org/sites/gfdr.org/files/documents/PDNA_BurkinaFaso_Sept-09_Rapport_FR.pdf)

(2014 年 1 月 6 日アクセス)

<sup>74</sup> International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies (2012) Revised Emergency Appeal, Burkina Faso : Complex emergency (Formerly food insecurity), p.4

<http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/Revised%20Emergency%20Appeal%20Burkina%20Faso.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

図表 38 洪水による損害（1988年 - 1999年）

年	住居をなくした人数 (Nombre de sans abri)	死亡者数 (Nombre de décès)	けが人数 (Nombre de blessés)	住居倒壊数 (Nombre maisons ébouleées)	洪水面積 (ha) (Superficie inondée)	損害堰数 (Nombre de barrages détruits)
1988	23,324	16	-	1,144	-	不明
1992	5,485	6	-	3,133	-	14
1994	74,080	22	4	21,000	106,164	18
1999	51,342	6	18	2,188	-	不明
総計	154,231	50	>22	37,465	-	>32

(出所) Ministère de l'Environnement et du Cadre de vie (2007) Programme d'action national d'adaptation à la variabilité et aux changements climatiques, p.5

<http://unfccc.int/resource/docs/napa/bfa01f.pdf> (2014年1月6日アクセス)

## (2) 出稼ぎ・送金

### (i) 出稼ぎ

2011年、海外で労働するブルキナファソ人は、人口の9.7%に相当し、海外からブルキナファソへの労働者は人口の6.4%を占めると推計されている。ブルキナファソ人の主要な出稼ぎ先は、コートジボワールであり、コートジボワール国内の移民労働者の50%はブルキナファソ人が占めている<sup>75</sup>。ブルキナファソとコートジボワール間の移民労働者数は、サブサハラアフリカ全体を見ても、極めて大きい<sup>76</sup>。コートジボワールからのブルキナファソの移民もあるが、コートジボワールの移民先としてはフランスやアメリカ、マリ、イタリアなどが多い<sup>77</sup>。

また、ブルキナファソには、ニジェールからの移民労働者も多く、2007年のニジェールの移民労働者の出稼ぎ先としてブルキナファソは1位(27.84%)であり、コートジボワール(26.25%)が続いている<sup>78</sup>。

### (ii) 送金

コートジボワールからブルキナファソへの送金は、ブルキナファソ経済に大きな位置を

<sup>75</sup> Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" Sanket Mohapatra and Dilip Ratha ed., Remittance Markets in Africa, p.75  
[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>76</sup> Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" p.75

<sup>77</sup> Omar Merabet (2006) Termes de Référence pour une étude sur le profil migratoire de la Côte d'Ivoire, Rapport Final, pp.20-21  
[http://eeas.europa.eu/delegations/cote\\_ivoire/documents/more\\_info/7\\_doc\\_fr.pdf](http://eeas.europa.eu/delegations/cote_ivoire/documents/more_info/7_doc_fr.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>78</sup> IOM, Migration en Niger : Document thématique 2009, p.26  
[http://www.iomdakar.org/profiles/sites/default/files/migrations\\_enjeux\\_perspectives\\_niger\\_2009.pdf](http://www.iomdakar.org/profiles/sites/default/files/migrations_enjeux_perspectives_niger_2009.pdf) (2014年1月6日アクセス)

占めており、1990年代にはGDPの約6%を占めていた。1999年のコートジボワールの政変の影響で、多くのブルキナファソ人労働者がコートジボワールから出国したことにより、ブルキナファソへの送金は激減し、約6,700万米ドル（GDPの約2.5%）になった<sup>79</sup>。2002年もコートジボワールで勃発した内戦のために、コートジボワールからブルキナファソへの送金が減少している<sup>80</sup>。

ブルキナファソへの送金額の内訳をみると、ブルキナファソへの送金額の69%は西アフリカ経済通貨同盟（Union économique et monétaire ouest africaine : UEMOA）外からの送金となっている。また、ブルキナファソからの送金の割合でみると、非 UEMOA 加盟国への送金が UEMOA 加盟国の送金を上回っている（60%）ことが分かる（図表 39）。

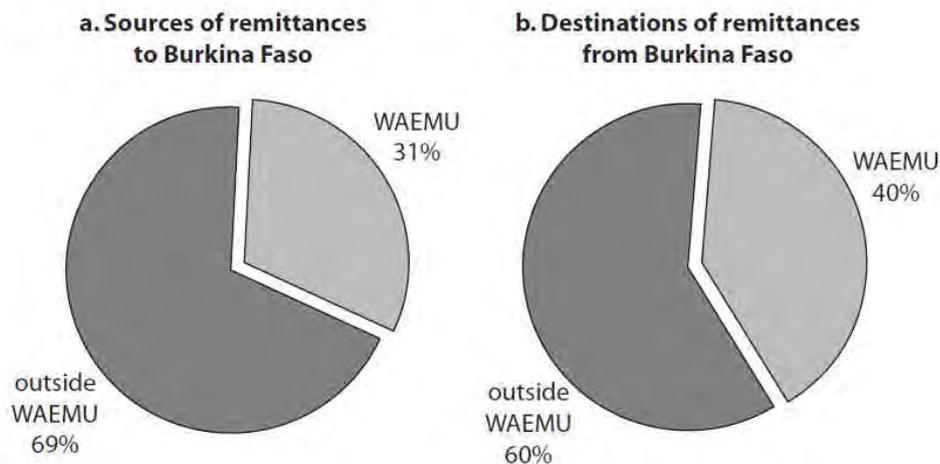
---

<sup>79</sup> Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" p.77  
[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf)（2014年1月6日アクセス）（2014年1月6日アクセス）

<sup>80</sup> Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" p.74

図表 39 ブルキナファソへの送金国の分類

Figure 2.A.1 Remittance Sources and Destinations, WAEMU vs. Non-WAEMU Countries



Source: WAEMU.

Note: WAEMU = West African Economic and Monetary Union; Non-WAEMU = worldwide.

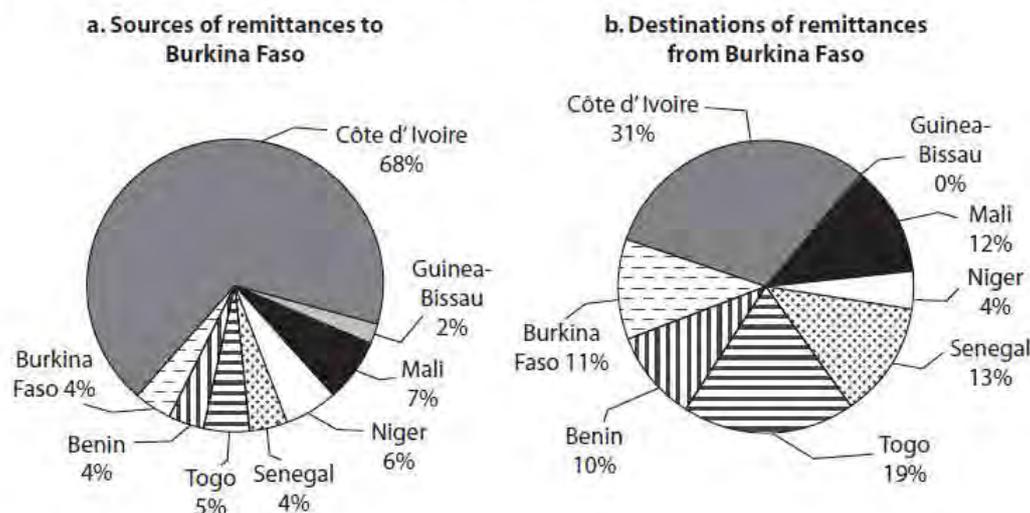
(出所) Yi Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" Sanket Mohapatra and Dilip Ratha ed., Remittance Markets in Africa, p.87

[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf) (2014年1月6日アクセス)

UEMOA とブルキファソとの送金額をみると、ブルキナファソへの送金が最も大きい国はコートジボワール (68%) であり、ブルキナファソからの送金が最大の国もコートジボワール (31%) となっている (図表 40)。

図表 40 ブルキナファソと UEMOA 加盟国間の送金

Figure 2.A.2 Inward and Outward Remittances among WAEMU Countries



Source: WAEMU.

(出所) Yiriybin Bambio (2011) "Burkina Faso" Sanket Mohapatra and Dilip Ratha ed., Remittance Markets in Africa, p.88

[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf) (2014年1月6日アクセス)

ブルキナファソへの送金額は多いものの、必ずしもブルキナファソにおいて送金が長期的な投資に充てられているわけではない。また、長期投資を行う傾向は民族によって異なり、送金を長期投資に充てる民族の例としては、フラニ (Fulani) による家畜購入、ロビ (Lobi) による商業用の家畜購入が挙げられる。他方で、ブルキナファソの主要な民族であるモシ (Mossi) は、送金を奢侈品購入に充てる傾向がある<sup>81</sup>。ブルキナファソ国内における送金手段には、国営サービスとして、郵便局 (Société nationale des postes : SONAPOST) による送金がある。民間の主要な送金事業者であるウェスタン・ユニオンは、電信振替を開始している。その他の民間送金事業者としては、Money GramやMoney Expressがあり、現在認可されている送金事業者は約 100 にのぼる。フォーマルセクターの送金事業者は、11 の銀行と 60 のノンバンクがある。ほとんどのフォーマルセクターの事業者は、都市や準都市地域で事業を展開している。インフォーマルセクターには、約 30 の事業者がおり、多くが交通セクターの事業者である。インフォーマルセクターの送金事業者は、地方で人や物の移動を担ってきた事業者であることが多い。国内での送金に、インフォーマルセクター

<sup>81</sup> Yiriybin Bambio (2011) "Burkina Faso" Sanket Mohapatra and Dilip Ratha ed., Remittance Markets in Africa, p.77  
[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf) (2014年1月6日アクセス)

が活用されている<sup>82</sup>。

図表 41 ブルキナファソにおける送金機関とカバレッジ状況

Table 2.1 RSP Types and Coverage in Burkina Faso

RSP type	Interviewed firms					
	Total number of RSPs	Number of RSP survey respondents	Average number of branches <sup>a</sup>	Average number of rural branches <sup>a</sup>	Share of branches in rural areas(%) <sup>a</sup>	Market share (%) <sup>b</sup>
Firms specializing in money transfers	11	7	5.6	0.7	13	32
Currency exchanges	7	5	1	0	0	—
Private commercial banks	11	1	4	0	0	20
SONAPOST	1	1	89	64	72	—
Other nonfinancial institutions	37	10	1.4	0	0	12
Savings and loans	2	0	—	—	—	—
Courier, bus, and other transport services	34	8	4.3	0.6	15	1
Microfinance institutions	1	0	—	—	—	—
<b>Total</b>	<b>104</b>	<b>32</b>	<b>3.1</b>	<b>0.3</b>	<b>11</b>	<b>45</b>

Source: Author's compilation from 2008 RSP survey in Burkina Faso.

Note: Data are from 32 RSP survey respondents.

a. Among survey respondents.

b. Market share of each RSP type extrapolated from survey responses.

— = not available.

(出所) Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" Sanket Mohapatra and Dilip Ratha ed., Remittance Markets in Africa, p.79

[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>82</sup> Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" p.78,

[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf) (2014年1月6日アクセス)

### (3) 近隣国の紛争

#### (i) マリ

マリでは 2011 年の終わり頃より、政治・軍事的に政情が不安定化し、2012 年 1 月には分離主義のトゥアレグを主体とするアザワド地方解放国民運動（Mouvement national de libération de l'AZAWAD : MNLA）がマリ北部の都市を襲撃するなど戦闘が発生した。同年 3 月には、首都バマコで発生した一部の国軍兵士による騒乱に乗じて、北部地方は独立を宣言したものの、MNLA に取って代わる形でイスラム系勢力が、トンブクトゥを含む北部地方を制圧した。2013 年にフランスが軍事介入を実施し、北部地方を攻撃、現在平和維持活動設置に向けた調整が進められている。マリにおける紛争を逃れて、2012 年 1 月からマリ北部からブルキナファソへ難民が流入した<sup>83</sup>。2013 年 3 月現在でブルキナファソ内のマリ難民は 4 万 9,975 人（1 万 3,577 世帯）にのぼる<sup>84</sup>。

難民が受入社会に与える影響の中には、食糧安全保障の問題が挙げられる。ブルキナファソは 2011 年の干ばつの影響もあり、食糧安全保障が危うい状況にあったため、マリからの難民の流入は大きな負荷を与えることとなった。難民として流入したマリ人たちはもともと牧畜や商業を職業としていたが、難民となってからは、44%の世帯は牧畜、19%は人道支援、6%が商業を主たる生計の糧とするようになった。しかし、移動の安全の問題や、特にサヘル地方では家畜のための水の確保が困難という課題があるため、難民世帯の生計は圧迫されている状況にある。難民世帯では家畜を監督する人手が不足しているため、難民の保有する家畜が放牧された状態となり、ブルキナファソ人の畑を荒らすといった問題も生じている。サヘル地方は、もともとブルキナファソの脆弱層が多く居住している地帯であるが、難民数が急増し、難民数がブルキナファソ人数を上回る地域も生じている。そのため、水、牧草、薪といった資源をめぐる対立が発生することが懸念されている<sup>85</sup>。

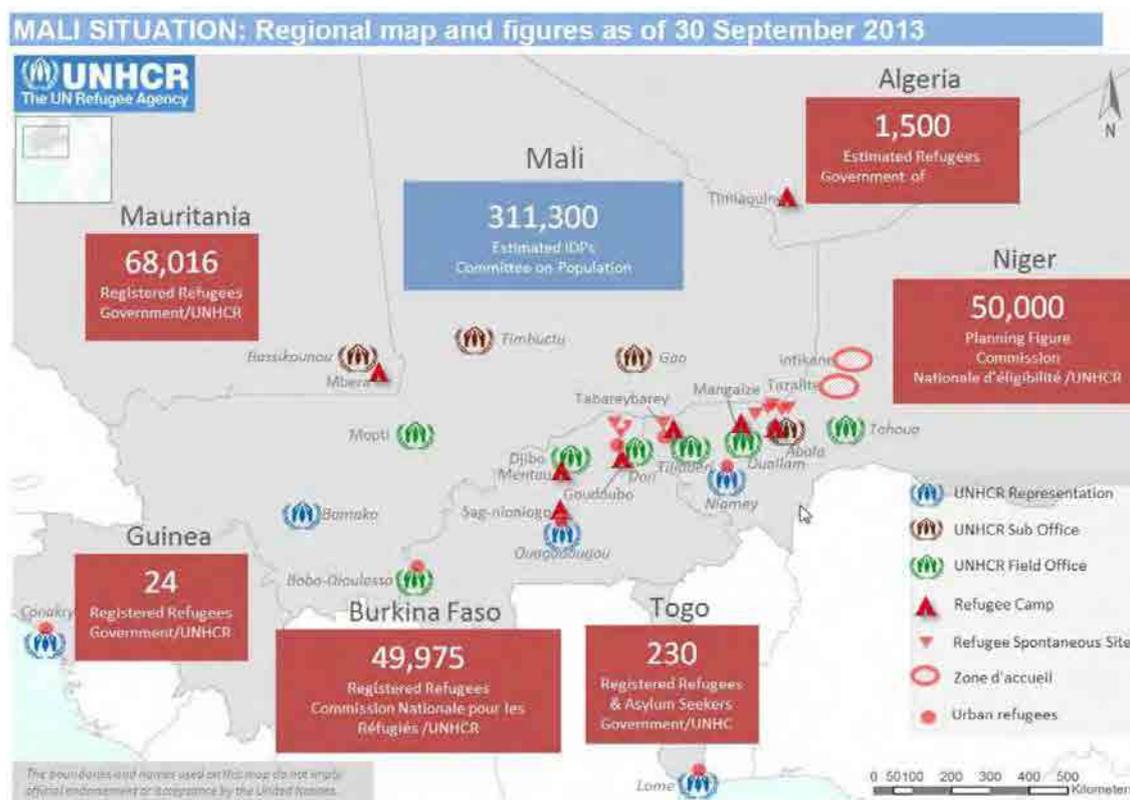
---

<sup>83</sup> WFP/PAM (2013) Evaluation approfondie sur la sécurité alimentaire en situation d'urgence dans les camps de réfugiés maliens et villages hôtes au Burkina Faso, p.7  
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp256916.pdf>（2014 年 1 月 6 日アクセス）

<sup>84</sup> UNHCR (2013) Fact Sheet, 30 September 2013, <http://www.unhcr.org/4d919f369.html>（2014 年 1 月 6 日アクセス）

<sup>85</sup> WFP/PAM (2013) Evaluation approfondie sur la sécurité alimentaire en situation d'urgence dans les camps de réfugiés maliens et villages hôtes au Burkina Faso, pp.40-41

地図 7 マリ難民のブルキナファソへの流入 (2013 年 9 月)



(出所) UNHCR (2013) Mali Situation Update No. 21, August & September 2013  
<http://www.unhcr.org/5269310d9.html> (2014 年 1 月 6 日アクセス)

(ii) コートジボワール

コートジボワールにおける 1999 年の政変及び 2002 年の内戦の際には、コートジボワール内のブルキナファソ人労働者が出国したこと等により、コートジボワールからブルキナファソへの送金額が減少している（「VI. 貧困層・社会的弱者に影響を与えている短期的・長期的要因、リスクとショック (2) 出稼ぎ・送金」参照)

また、2010 年の選挙後に発生した紛争はコートジボワール近隣諸国に様々な影響をもたらした。ブルキナファソ、マリ、ニジェールは、特に当該紛争により経済的な影響を受け、ブルキナファソ、マリにおいては経済成長予測が引き下げられた。ニジェールの経済成長率予測は引き下げられなかった理由としては、ニジェールでは鉱業投資が進んだことや政府による経済社会政策の実施等の要素があったためと分析されている。

図表 42 UEMOA 加盟国の実質経済成長予想 (%)

Tableau 1 Perspectives de croissance économique des États membres de l'UEMOA en 2011  
(taux de croissance réel en %)

	Bénin	Burkina Faso	Côte d'Ivoire	Guinée-Bissau	Mali	Niger	Sénégal	Togo	UEMOA
Prévisions initiales (1)	3,5	5,5	4,0	4,3	5,4	5,2	4,4	3,9	4,5
Prévisions révisées (2)	3,8	5,2	- 6,3	4,3	5,3	5,2	4,5	3,9	1,0
Écart : (2) - (1)	0,3	- 0,3	- 10,3	0,0	- 0,1	0,0	0,1	0,0	- 3,5

Sources : INS, BCEAO

(出所) Banque de France, Rapport annuels de la Zone francs 2010, p.46

[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/zonefr/Impact-de-la-crise-en-RCI-sur-les-perspectives-economiques-de-l-UEMOA-en-2011.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/zonefr/Impact-de-la-crise-en-RCI-sur-les-perspectives-economiques-de-l-UEMOA-en-2011.pdf) (2014年1月6日アクセス)

ブルキナファソ、マリ、ニジェールでは、コートジボワールの紛争により特に農業セクターに影響が生じ、コートジボワール向けの家畜、家禽類、玉ねぎの輸出が減少した。また、国内市場で調達できない建築資材などの輸入が、紛争による輸送路の乱れにより滞り、第二次、第三次産業ともに影響があった。コートジボワールから輸入される油や石鹼といった生活必需品の価格に上昇がみられた<sup>86</sup>。

<sup>86</sup> Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2010, p.46  
[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/zonefr/Impact-de-la-crise-en-RCI-sur-les-perspectives-economiques-de-l-UEMOA-en-2011.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/zonefr/Impact-de-la-crise-en-RCI-sur-les-perspectives-economiques-de-l-UEMOA-en-2011.pdf) (2014年1月6日アクセス)

## VII. 重点支援分野と貧困との関連性

### 1. 農業開発

#### (1) インフラやサービスへのアクセスの現状

ブルキナファソの経済を支える農業は粗放農業が主体であり、小規模自営農家が多い。耕作可能面積は、900万ヘクタール（全国土30%）であるが、耕作が行われている地域は350万 - 400万ヘクタール程度にとどまる。耕作面積の約88%は穀物（モロコシ類、ミレット、メイズ、コメ、フォニオ）、豆類・イモ類は2%程度、商品作物（綿花、ゴマ、グラウンドナッツ、大豆、サトウキビ）は9%であり、その他野菜（トマト、タマネギ、インゲン等）や果物（マンゴー等）がある。灌漑可能な土地は、23万3,500ヘクタールとされるが、そのうち灌漑が行われている土地面積は2万4,000ヘクタールにとどまる。

図表 43 主要な食糧生産量（2009年/2010年 - 2012年/2013年、1,000トン）

#### Principales productions vivrières

(en milliers de tonnes)

	2009-2010	2010-2011	2011-2012	2012-2013 (a)
Mil et sorgho	2 492,4	3 138,1	2 334,3	3 002,2
Maïs	893,6	1 133,5	1 076,8	1 556,3
Riz paddy	213,6	232,9	240,9	319,4
Fonio	26,1	18,3	14,5	20,7
Arachides	330,6	340,3	265,3	310,7

(a) Chiffres provisoires

Sources : BCEAO, administrations nationales

(出所) Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2012, p.134

[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/2\\_Burkina\\_Faso.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/2_Burkina_Faso.pdf)（2014年1月6日アクセス）

#### (i) 肥料

ブルキナファソの穀物栽培においては、肥料の使用は少なく一定していない。2002年では1ヘクタール当たり、0.03キログラム、2005年では98.2キログラム、2007年では27.3キログラムである<sup>87</sup>。ブルキナファソの綿花生産は、2002年から2007年の期間で拡大したが、世界銀行の報告書による分析では、これは肥料等の効果というよりは、主に耕作面積の増加に起因すると推定されている。当該期間の肥料の使用量は、1ヘクタール当たり

<sup>87</sup> World Bank, Burkina Faso, Determinants of Cereal Production, Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3b, June 2013, p.17

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729\\_20130801151139/Rendered/PDF/691160v400ESW0000PUBLIC00Box3797940.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729_20130801151139/Rendered/PDF/691160v400ESW0000PUBLIC00Box3797940.pdf)（2014年1月6日アクセス）

125 キログラムであり、ブラジルの 1 ヘクタール当たり 335 キログラムと比較しても非常に少ない<sup>88</sup>。

ブルキナファソで肥料の使用が少ない理由として、価格が高いこと、道路のインフラが整備されていないこと、天気が不安定であること<sup>89</sup>、肥料に関する知識の不足、肥料や種など農業資材の販売者までの距離が遠いことが指摘されている<sup>90</sup>。また、農業投入材購入には資金調達が必要であるが、小規模農家の金融へのアクセス率が低いことも挙げられる<sup>91</sup>。

## (ii) 灌漑施設

ブルキナファソでは、収穫高に大きな影響を与える要素は降雨量である。降雨量が増えれば、収穫も増加するが、近年は干ばつが多く、農業全体にマイナス影響を与えている。綿花の収穫高を増やすためには、降雨量への依存を減らし、効率的な灌漑施設を設置したり、干ばつに強い品種を導入したりすることが必要である<sup>92</sup>。

(干ばつの影響については、「VI. 貧困層・社会的弱者に影響を与えている短期的・長期的要因、リスクとショック」参照)

## 2. 教育の質の向上

### (1) インフラやサービスへのアクセスの現状

ブルキナファソにおいては、「IV.2. MDGs達成状況」で述べたように初等教育の純就学率は大きく改善しており、女子の初等教育への就学状況も向上した。しかし、成人の教育レベルは低く、純就学率も相対的に低い状況にある<sup>93</sup>。図表 44 が示すように、初等教育及び

<sup>88</sup> World Bank (2013) Burkina Faso What is Driving Cotton Production Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3a, p.13, p.16  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729\\_20130801150801/Rendered/PDF/691160v30ESW0P0n00PUBLIC0Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729_20130801150801/Rendered/PDF/691160v30ESW0P0n00PUBLIC0Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>89</sup> World Bank (2013) Burkina Faso What is Driving Cotton Production Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3a, p.13, p.16, World Bank (2013) Burkina Faso, Determinants of Cereal Production, Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3b, p.17  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729\\_20130801151139/Rendered/PDF/691160v400ESW0000PUBLIC0Box3797940.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729_20130801151139/Rendered/PDF/691160v400ESW0000PUBLIC0Box3797940.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>90</sup> AH Consulting (2010) Baseline Survey AGRA Interventions in Burkina Faso, pp. 69-73.  
<http://www.agra.org/silo/files/final-report-for-baseline-survey-in-burkina-faso.pdf> (2014年1月6日アクセス)

<sup>91</sup> AH Consulting (2010) Baseline Survey AGRA Interventions in Burkina Faso, pp. 74-75.

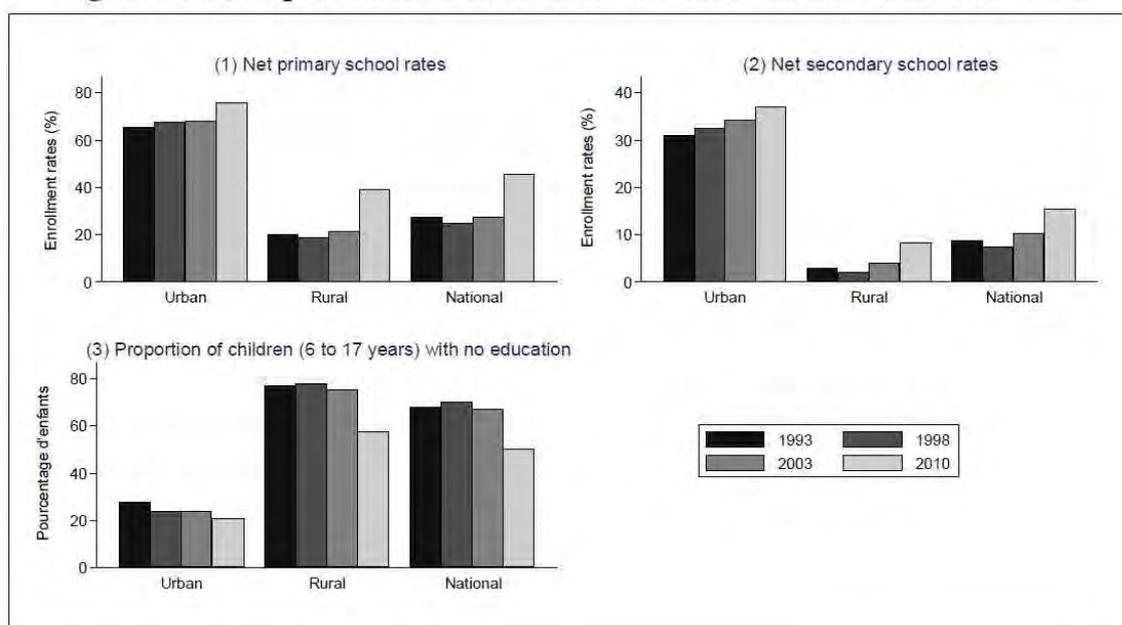
<sup>92</sup> World Bank (2013) Burkina Faso What is Driving Cotton Production Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3a, p.13, World Bank (2013) Burkina Faso, Determinants of Cereal Production, Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3b, p.17

<sup>93</sup> World Bank (2013) Burkina Faso Non-Monetary Poverty and Gender Inequalities 1993-2010 Trends, Policy Note 5, p.14,  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037\\_20](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037_20)

中等教育ともに都市部の就学率が高いが、地方の就学率は低い。また、初等教育と比較して、中等教育の就学率が低く、2010年では国レベルでは約15%であったが、都市部では37%、地方では8%と地方における純就学率が極めて低い。さらに6歳から17歳までの教育を全く受けていない子供の割合は2003年から2010年の間に減少し、改善はみられるものの、依然として地方での割合は高い。

図表 44 教育・就学率の推移 (1993年 - 2010年)

Figure 1.18: Deprivation in education and enrollment rates, 1993-2010



(出所) World Bank (2013) Burkina Faso Non-Monetary Poverty and Gender Inequalities 1993-2010 Trends, Policy Note 5, p.14

[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037\\_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

初等教育、中等教育ともに純就学率は向上した。初等教育及び中等教育への通学状況を見ると、通学にかかる時間が短い程、就学率が高くなっている。また、世帯の支出層でみると、初等教育の就学率は2003年から2010年の間に大幅に向上している。しかし、裕福な層になるほど、初等・中等教育ともに純就学率が高い傾向にあり、特に中等教育については、富裕層(30%)と貧困層(9%)との間に大きな格差がある。

[130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

図表 45 初等教育及び中等教育の純就学率（2003 年、2010 年）

Tableau 4: Taux de scolarisation nets du primaire et du secondaire selon différentes caractéristiques sociodémographiques

	Taux de scolarisation net du primaire		Taux de scolarisation net du secondaire	
	2003	2010	2003	2010
<b>National</b>	29,7	46,1	12,0	15,5
<b>Région</b>				
Hauts Bassins	37,0	49,3	20,9	18,2
Boucle du Mouhoun	28,1	46,2	8,3	11,4
Sahel	13,1	29,0	4,5	4,5
Est	16,8	29,1	3,2	7,7
Sud-Ouest	21,4	39,8	9,0	10,1
Centre Nord	19,3	38,8	5,4	8,7
Centre Ouest	38,4	55,4	11,9	14,1
Plateau Central	25,0	52,3	5,5	17,2
Nord	29,3	44,4	8,4	12,4
Centre Est	27,0	42,5	8,9	13,2
Centre	67,2	71,8	35,6	37,4
Cascades	23,3	46,5	8,4	14,1
Centre Sud	24,1	48,5	5,5	14,3
<b>Milieu de résidence</b>				
Rural	23,0	41,1	5,3	9,3
Urbain	69,2	66,3	37,9	33,8
<b>Sexe de l'enfant</b>				
Garçon	33,4	47,3	12,5	17,1
Fille	25,8	44,9	11,4	13,8
<b>Quintile des dépenses</b>				
Quintile 1	18,5	36,9	4,4	9,0
Quintile 2	25,9	38,7	6,4	7,8
Quintile 3	28,8	45,4	7,7	12,7
Quintile 4	32,0	51,6	11,8	15,5
Quintile 5	45,7	59,8	27,2	30,0
<b>Accès à l'éducation (primaire ou secondaire selon le cas)</b>				
0-14 minutes	43,9	52,8	36,5	32,2
15-29 minutes	33,5	48,0	26,2	28,2
30-44 minutes	20,7	39,7	18,4	16,7
45-59 minutes	14,7	32,6	6,7	11,4
60 minutes et plus	9,9	24,6	3,1	6,5
<b>Lien de parenté avec le chef de ménage</b>				
Fils ou fille	29,8	46,4	12,1	17,2
Autres parents proches	30,5	44,7	12,2	11,3
Parents éloignés et autres	24,0	45,3	9,7	10,9
<b>Quartile de la part budgétaire des dépenses d'éducation</b>				
Quartile 1	1,6	9,4	0,3	2,2
Quartile 2	-	47,2	-	1,3
Quartile 3	46,3	58,5	2,7	7,4
Quartile 4	64,5	66,2	33,4	38,7

(出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.43  
[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014 年 1 月 6 日 アクセス)

ブルキナファソの初等教育における留年率及び退学率は、小学校 1 年 (CP1) (7.1%)、3 年生 (CE1) (8.5%)、5 年生 (CM1) (13.7%) で割合が非常に高くなっている。また、留

年率については6年生（CM2）で25.9%と極めて高い。

図表 46 初等教育の進学率・留年率・退学率（2012年/2013年度）

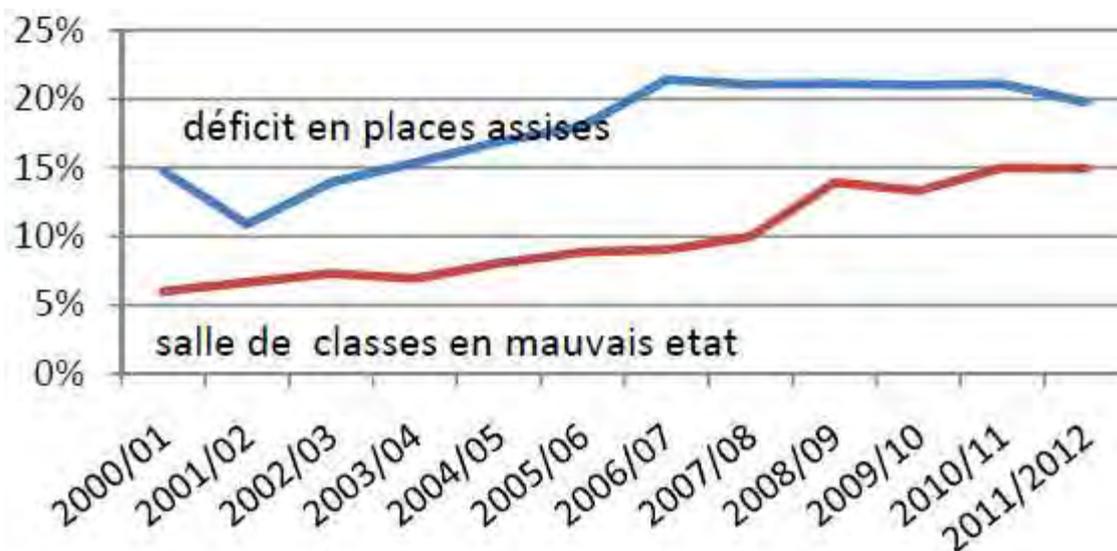
	1年生 (CP1)			2年生 (CP2)			3年生 (CE1)			4年生 (CE2)			5年生 (CM1)			6年生 (CM2)		
	男子	女子	全体															
進学率	91.0	92.0	91.5	91.5	93.2	92.3	85.8	89.5	87.6	86.6	91.8	89.0	79.6	82.8	81.1	—	—	—
留年率	1.6	1.3	1.5	6.4	5.5	6.0	4.2	3.6	3.9	8.7	8.0	8.4	5.0	5.4	5.2	23.6	28.2	25.9
退学率	7.4	6.7	7.1	2.1	1.3	1.7	10.0	6.9	8.5	4.8	0.2	2.6	15.4	22.8	13.7	—	—	—

（出所）Ministère de l'éducation et de l'alphabétisation (2013) Annuaire statistique de l'éducation nationale 2012/2013, p.35

[http://www.cns.bf/IMG/pdf/annuaire\\_du\\_primaire\\_2012-2013.pdf](http://www.cns.bf/IMG/pdf/annuaire_du_primaire_2012-2013.pdf)（2014年1月6日アクセス）

2011年度では、ブルキナファソ全土の1万1,545の小学校のうち、52%の小学校に飲料水の設備がない。また、教室の状況（教室数：4万3,661）についても、教室内で児童が座る設備が不足している教室は、19.77%、整備状況が悪い教室の割合は14.94%である<sup>94</sup>。

図表 47 教室内の座席の不足及び教室の整備状況（2000年度 - 2011年度）



（注）déficit en places assises：座席の不足

salle de classes en mauvais état：整備されていない教室

（出所）Ministère de l'éducation et de l'alphabétisation (2012) Tableau de bord de l'éducation de base, Année scolaire 2011/2012, p.35,

[http://cns.bf/IMG/pdf/tbe\\_national\\_2011\\_2012\\_f.pdf](http://cns.bf/IMG/pdf/tbe_national_2011_2012_f.pdf)（2014年1月6日アクセス）

教師と児童数の割合の目標は、教師一人に対して児童50人であるが、2011年度では教師一人当たり児童54.1人であり、目標を達成できていない。都市部では、教師一人当たり児童58.9人であり、都市部の方が地方よりも教師一人当たりの児童数が多い<sup>95</sup>。また、教

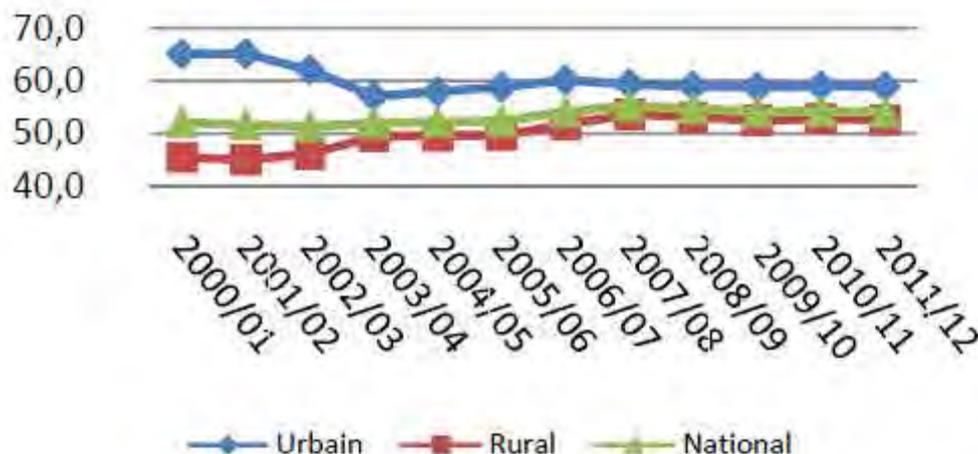
<sup>94</sup> Ministère de l'éducation et de l'alphabétisation (2012) Tableau de bord de l'éducation de base, Année scolaire 2011/2012, pp.34-35

[http://cns.bf/IMG/pdf/tbe\\_national\\_2011\\_2012\\_f.pdf](http://cns.bf/IMG/pdf/tbe_national_2011_2012_f.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>95</sup> Ministère de l'éducation et de l'alphabétisation, Tableau de bord de l'éducation de base, Année scolaire

員については、資格を保有している教員数は増えているが、資格を保有している教員は全体（4万8,592名）のうち、85.8%であり、約14%は資格を持っていない。女性の教員数も少なく、全体の教員数に占める女性の割合は、38%である。

図表 48 教師一人に対する児童の割合（2000年度-2011年度）



(出所) Ministère de l'éducation et de l'alphabétisation (2012) Tableau de bord de l'éducation de base, Année scolaire 2011/2012, p.42

[http://cns.bf/IMG/pdf/tbe\\_national\\_2011\\_2012\\_f.pdf](http://cns.bf/IMG/pdf/tbe_national_2011_2012_f.pdf) (2014年1月6日アクセス)

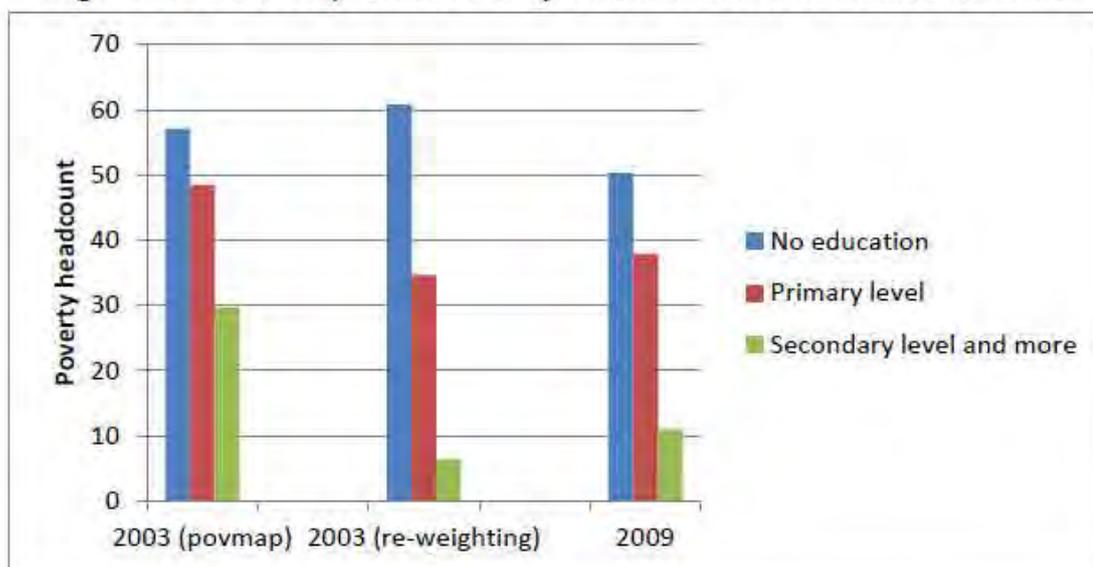
教育と貧困との関係については、世帯主の教育レベルが向上するに従って、貧困率が減少することが示されている(図表 49)。教育を受けていない世帯主の世帯は、貧困率が50%であるが、初等教育までを受けている場合は、38%、中等教育を受けている場合は11%に減少している。これらの結果から、普遍的初等教育は重要な目標であるが、初等教育後の教育を促進することも重要であるといえる<sup>96</sup>。

2011/2012, p.41

<sup>96</sup> World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.21.  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDS/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDS/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

図表 49 世帯主の教育レベルによる貧困率（2003 年、2009 年）

Figure 1.17: Poverty headcount by education level of household head



(出所) World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1, p.22.  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)

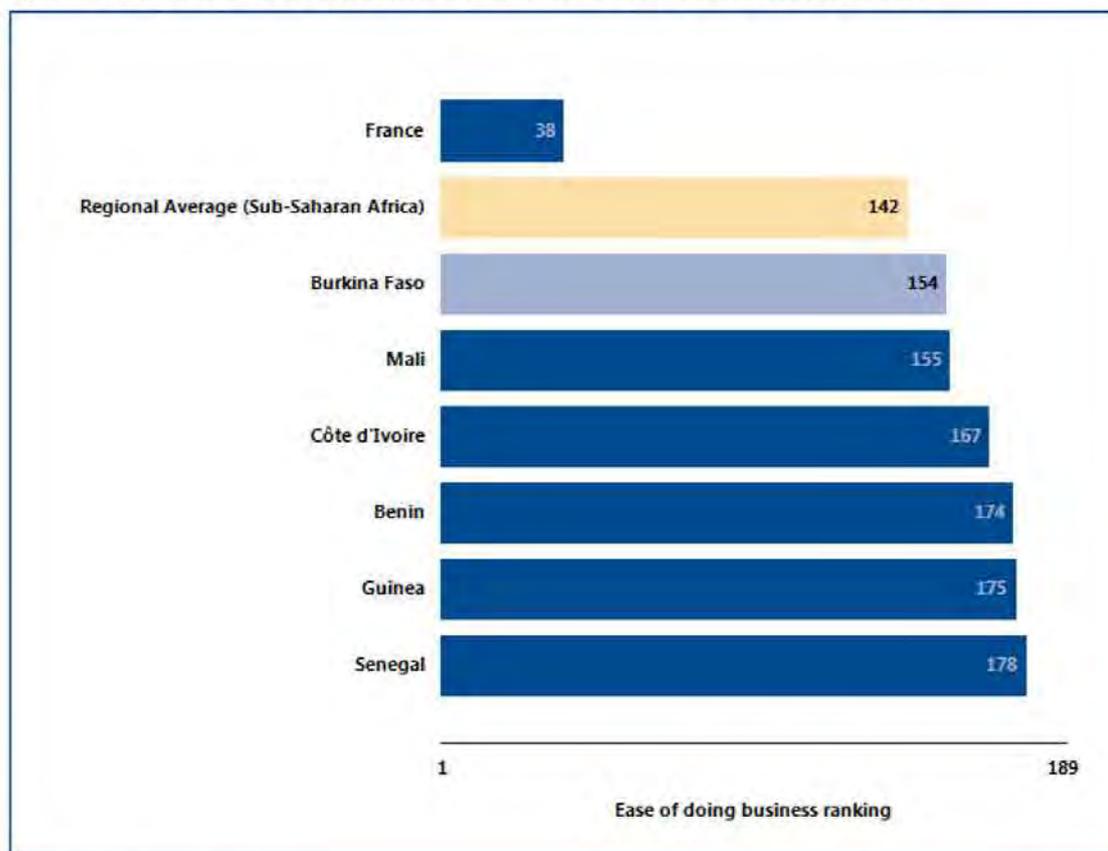
### 3. 域内経済統合

#### (1) ビジネスの環境

世界銀行の Doing Business レポート (2014 年) によると、ビジネス環境全般としてブルキナファソのランクは 189 개국・地域のうち 154 位である。サブサハラアフリカの平均は下回っているが、マリ (155 位)、コートジボワール (167 位)、ベナン (174 位)、セネガル (178 位) を上回っている。

図表 50 ビジネス環境のランク

Figure 1.2 How Burkina Faso and comparator economies rank on the ease of doing business



Source: Doing Business database.

(出所) World Bank (2013) Doing Business 2014 Burkina Faso , p.7

<http://www.doingbusiness.org/~media/giawb/doing%20business/documents/profiles/country/BFA.pdf>

(2014年1月6日アクセス)

しかし、ブルキナファソの「国境を越えた取引」のランクは、189 개국・地域中 174 位である。Doing Businessの指標の中で、当該項目のランクが最も低く、ブルキナファソのDoing Business全体のランクを押し下げる要因となっている。国境を越えた取引については、他の近隣諸国と比較してもコートジボワールが 163 位、マリ 152 位、ギニア 133 位、ベナン 130 位であることから、非常に低い<sup>97</sup>。

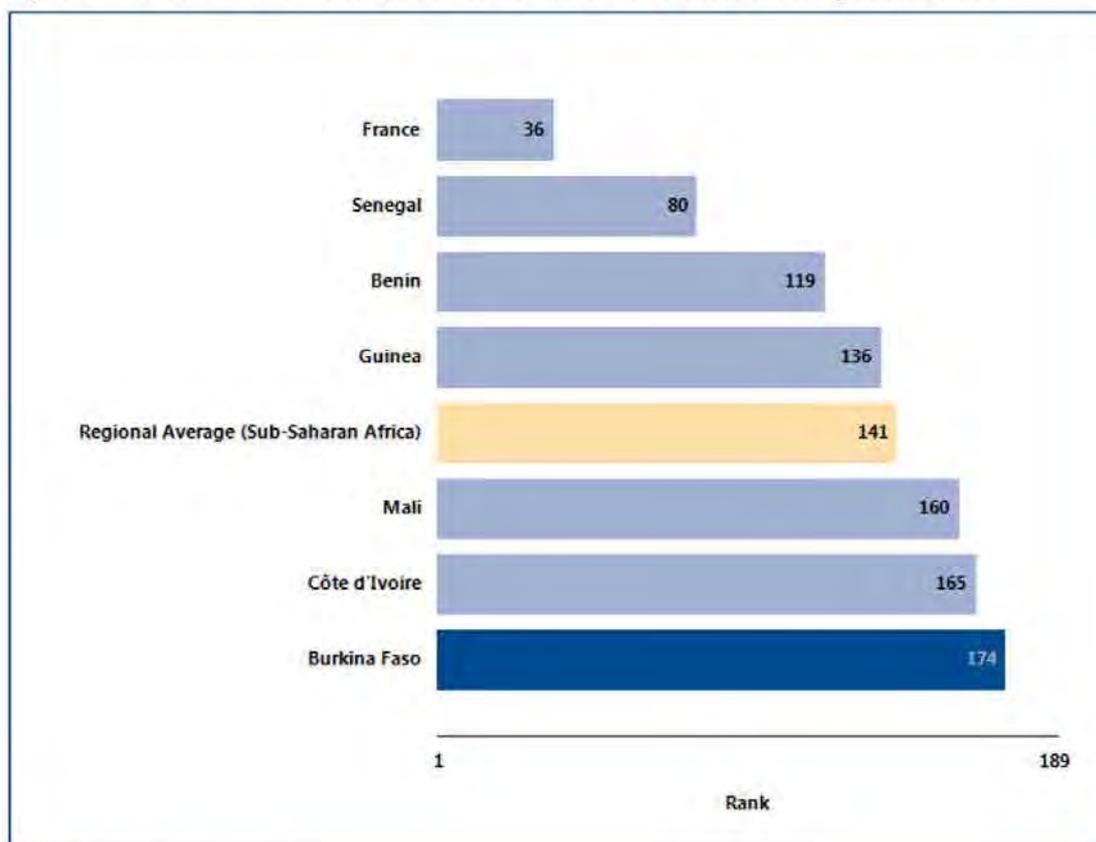
<sup>97</sup> World Bank (2013) Doing Business 2014 Burkina Faso, p.7

<http://www.doingbusiness.org/~media/giawb/doing%20business/documents/profiles/country/BFA.pdf>

(2014年1月6日アクセス)

図表 51 国境を越えた取引のランク

Figure 9.1 How Burkina Faso and comparator economies rank on the ease of trading across borders



Source: Doing Business database.

(出所) World Bank (2013) Doing Business 2014 Burkina Faso, p.71

<http://www.doingbusiness.org/~media/giawb/doing%20business/documents/profiles/country/BFA.pdf>

(2014年1月6日アクセス)

## (2) インフラやサービスへのアクセスの現状

### (i) 道路

内陸国であるブルキナファソは、運送費が高く、さらに主要な港などへの距離も遠いという不利な地理的条件にある。他方で、ブルキナファソは、マリ、ニジェール、コートジボワール北部の交通の要所という重要な役割もある<sup>98</sup>。

ブルキナファソの道路インフラでは、メンテナンスが課題である。第一の理由はコートジボワールの政情不安定により、ブルキナファソからアビジャン港への道路が使えなくなったという外的要因によるものである。運送経路がアビジャン港ではなく、ワガドゥグカ

<sup>98</sup> Cecilia Briceño-Garmendia and Carolina Dominguez-Torres (2011) Burkina Faso's Infrastructure, A Continental Perspective, Policy Research Working Paper, 5818, p.11

<http://elibrary.worldbank.org/doi/pdf/10.1596/1813-9450-5818> (2014年1月6日アクセス)

らロメ、コトヌーへの回廊へシフトしたものの、これらの回廊は交通量の増加に耐えうるように設計されておらず、道路の劣化を加速させてしまったのである。第二の理由は、トラックへの過剰な積載による道路への負荷が指摘されている<sup>99</sup>。

図表 52 ブルキナファソの道路に関する指数の比較

Table 5. Burkina Faso's road indicators benchmarked against Africa's low- and middle-income countries

	Unit	Low-income countries	Burkina Faso	Middle-income countries
Total road density	km/1,000 km <sup>2</sup> of arable land	132.1	81.5	318.4
Classified road density	km/1,000 km <sup>2</sup> of arable land	88.2	55.6	278.4
Rural accessibility index—household survey	% of rural population within 2 km of all-season road	34.1	25.0	62.7
GIS rural accessibility	% of rural population within 2 km of all-season road	23.1	23.7	31.5
Paved road traffic	Average annual daily traffic	1,341.1	867.7	3,797.7
Unpaved road traffic	Average annual daily traffic	38.5	35.8	74.7
Paved classified network condition	% in good or fair condition	86.2	96.1	82.0
Unpaved classified network condition	% in good or fair condition	55.8	90.3	57.6
Perceived transport quality	% firms identifying roads as major business constraint	27.6	55.8	18.2
Overengineering	% of main road network paved relative to low traffic	29.6	25.9	18.4
Underengineering	% of main road network paved relative to high traffic	13.5	1.0	20.0

Source: Gwilliam and others 2008. Derived from the AICD national database (<http://www.infrastructureafrica.org/aicd/tools/data>).

Note: GIS = geographic information system.

(出所) Cecilia Briceño-Garmendia and Carolina Dominguez-Torres (2011) Burkina Faso's Infrastructure, A Continental Perspective, Policy Research Working Paper, 5818, p.12  
<http://elibrary.worldbank.org/doi/pdf/10.1596/1813-9450-5818> (2014年1月6日アクセス)

## (ii) 電気・エネルギー

電気へのアクセスは、都市部では電気のアクセスがある住居の割合は46%であるが、地方では3%と極めて低い割合である<sup>100</sup>。さらに、電力供給そのものが国内の需要に追いついていない状況であることも指摘されている。ブルキナファソの発電能力は、100万人に対して13メガワットであり、アフリカの中所得国の平均のわずか2%である<sup>101</sup>。

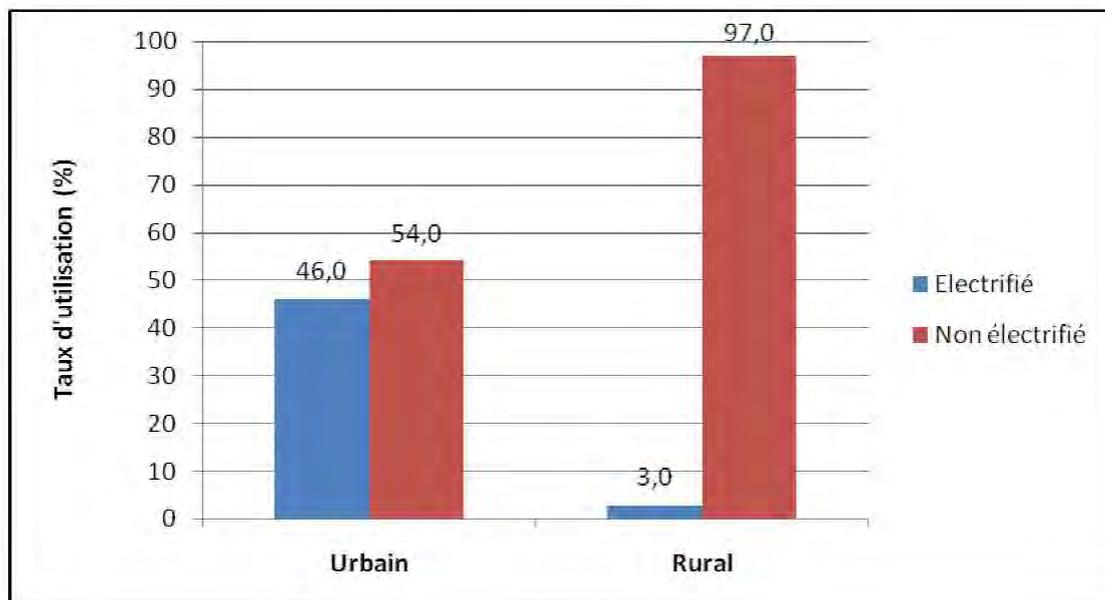
<sup>99</sup> Cecilia Briceño-Garmendia and Carolina Dominguez-Torres (2011) Burkina Faso's Infrastructure, A Continental Perspective, Policy Research Working Paper, 5818, p.16  
<http://elibrary.worldbank.org/doi/pdf/10.1596/1813-9450-5818> (2014年1月6日アクセス)

<sup>100</sup> Ministère de l'économie et des finances/Institut National de la statistique et de la démographie (2010) Analyse de quelques résultats des données de la phase principale de l'enquête intégrale sur les conditions de vie des ménages, EICVM 2009, p.12  
[http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes\\_recensements/enq\\_cond\\_vie\\_menages/resultats\\_provisoires\\_eicvm.pdf](http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes_recensements/enq_cond_vie_menages/resultats_provisoires_eicvm.pdf) (2014年1月6日アクセス)

<sup>101</sup> Cecilia Briceño-Garmendia, Carolina Dominguez-Torres (2011) Burkina Faso's Infrastructure, A Continental Perspective, Policy Research Working Paper, 5818, p.29

図表 53 電気へのアクセス (2009 年)

Figure : Taux d'électrification par milieu de résidence

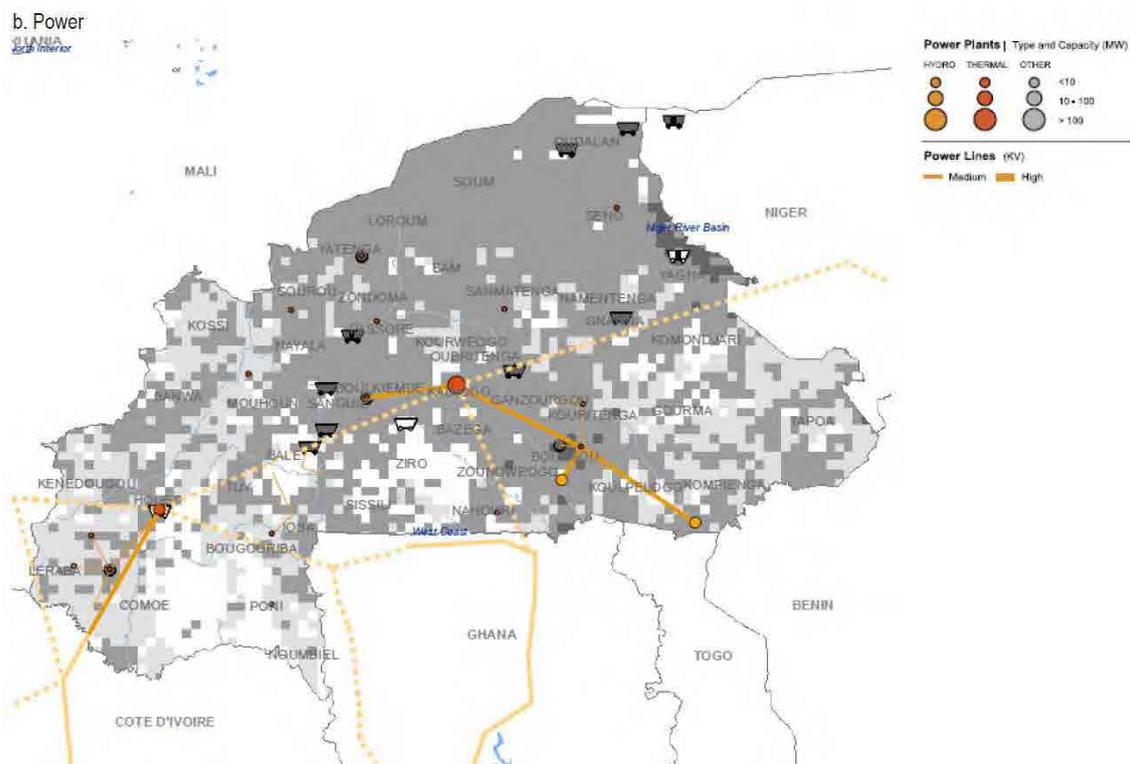


Source : Résultats provisoires EICVM 2009-2010

(出所) Ministère de l'économie et des finances/Institut National de la statistique et de la démographie (2010) Analyse de quelques résultats des données de la phase principale de l'enquête intégrale sur les conditions de vie des ménages, EICVM 2009, p.12

[http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes\\_recensements/eng\\_cond\\_vie\\_menages/resultats\\_provisoires\\_eicvm.pdf](http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes_recensements/eng_cond_vie_menages/resultats_provisoires_eicvm.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

地図 8 電気インフラ



(出所) Cecilia Briceño-Garmendia, Carolina Dominguez-Torres (2011) Burkina Faso's Infrastructure, A Continental Perspective, Policy Research Working Paper, 5818, p.9  
<http://elibrary.worldbank.org/doi/pdf/10.1596/1813-9450-5818> (2014年1月6日アクセス)

エネルギーのアクセス状況では、女性が調理の際に使用するエネルギー源として木やごみを使っている割合（世帯数）は、2010年に国全体で89.1%にのぼり、とりわけ地方では96.8%と極めて高い割合である。また、支出五分位で見ると、富裕層（Quintile 5）では木やごみを使う割合が減少している。さらに、電気へのアクセスがない女性の割合（世帯数）については2010年で85.2%である。しかし、都市ではアクセスのない割合は54.1%となり、地方の97%と比較すると、電化が進んでいるのは都市部のみであることがわかる（図表54）。

図表 54 女性の調理・照明のためのエネルギーアクセス及び電話非所有率

Tableau 24: Proportions de femmes vivant dans des ménages n'ayant pas de source d'énergie améliorée pour la cuisson ou l'éclairage et ne possédant pas un téléphone.

	Utilisation de bois et déchets comme source d'énergie pour la cuisson		Non accès à l'électricité ou à l'énergie solaire		Non possession d'un téléphone	
	2003	2010	2003	2010	2003	2010
<b>National</b>	94,9	89,1	88,7	85,2	93,9	48,3
<b>Milieu de résidence</b>						
Rural	98,0	96,8	98,9	97,0	99,1	56,6
Urbain	83,4	68,9	50,4	54,1	74,5	26,5
<b>Région</b>						
Hauts Bassins	92,2	81,4	76,5	72,3	91,7	35,3
Boucle du Mouhoun	98,2	94,5	95,5	93,9	97,6	49,5
Sahel	98,2	96,3	98,2	97,9	99,0	69,8
Est	97,3	95,8	95,9	94,7	97,6	58,3
Sud-ouest	97,6	94,3	98,0	91,6	98,9	57,7
Centre Nord	97,6	97,7	96,3	96,4	97,7	59,0
Centre Ouest	97,0	95,2	94,1	92,9	96,6	57,8
Plateau Central	98,6	96,6	98,8	94,8	99,4	50,2
Nord	98,4	95,7	93,8	93,0	98,8	54,4
Centre Est	95,3	93,3	94,5	95,0	96,6	53,6
Centre	80,2	64,9	52,7	54,6	70,5	22,0
Cascades	98,0	94,8	94,7	76,3	96,6	44,6
Centre Sud	98,3	96,6	100,0	96,5	98,1	57,5
<b>Quintile des dépenses</b>						
Quintile 1	98,5	96,7	99,7	98,2	99,6	64,1
Quintile 2	98,9	96,5	97,8	96,3	99,6	57,2
Quintile 3	98,0	94,3	95,2	93,3	98,0	50,7
Quintile 4	97,1	90,6	87,9	85,1	95,9	43,0
Quintile 5	82,2	67,6	62,8	52,9	76,6	26,3
<b>Sexe du chef de ménage</b>						
Masculin	95,6	90,0	90,0	86,0	94,4	47,8
Féminin	85,5	81,7	70,2	77,7	86,8	52,3

(出所) Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.62

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf) (2014年1月6日アクセス)

### (iii) 金融

ブルキナファソでは、国際的な銀行、汎アフリカの銀行によって金融市場の65%以上が占められている(2010年)。銀行サービスへのアクセスは低く、国全体で約7%である<sup>102</sup>。

ブルキナファソの銀行サービスの特徴は、基本的に都市で展開され、特に綿花などの商品作物のためのファイナンスに充てられている点である。ワガドゥグ及び第二の都市であるボボデュラッソ以外に営業所がある銀行には、ブルキナ農業・商業銀行(Banque agricole et commerciale du Burkina : BACB)が挙げられる。BACBは、NGOやマイクロ・ファイナン

<sup>102</sup> Burkina Faso, African Economic Outlook 2012

<http://www.africaneconomicoutlook.org/fileadmin/uploads/aeo/PDF/Burkina%20Faso%20Full%20PDF%20Country%20Note.pdf> (2014年1月6日アクセス)

ス機関と協力した銀行事業や集団での連帯貸付制度を推進しつつある<sup>103</sup>。

銀行以外で、ブルキナファソの地場金融機関として、まず欧州やカナダのモデルにならった共同体や相互金融機関が挙げられる。共同体によるネットワーク（Réseau des caisses populaires du Burkina）も組織されている。続いて、農業村落貯蓄・管理信用金庫（Caisses villageoises d'épargne et de crédit autogérées : CVECA）がある。

ブルキナファソ政府はマイクロ・ファイナンスにおいて重要な役割を果たしており、貧困層や女性向けのマイクロ・ファイナンス・サービスを直接提供している。このような国営のサービスは、ブルキナファソのマイクロ・ファイナンス市場の約8%を占めている。最大の国営サービスである女性所得創出活動支援基金（Fonds d'appui aux activités rémunératrices des femmes : FAAR）は45県すべてに事業所を設立している。また、その他、サヘル地帯における小規模灌漑を促進するための国営ファンドもある<sup>104</sup>。

商業銀行の中にも、独自のマイクロ・ファイナンス・サービス展開を進めているところもある。既存の銀行の事務所内にマイクロ・ファイナンス・サービスの窓口を設ける銀行もあれば、マイクロ・ファイナンス専用の事業所を設けている場合もある<sup>105</sup>。

また、ブルキナファソでは、トンチン（Tontines）と呼ばれる、貯蓄・貸付共同体を活用している人が多く、大半のブルキナファソの成人は少なくとも一つのトンチンに参加していると推定されている。通常、12人以下程度の人数で、友人、親戚、同僚や同郷の人々などで構成され、定期的に定額を支払い、同意された順番で、参加メンバーがこのファンドの中からお金を受け取れるという仕組みである<sup>106</sup>。

しかし、大半の地方においては、アクセスしやすく、時宜を得た金融サービスを利用することは、著しく困難である。大部分の村落において金融へのアクセスはない状態である<sup>107</sup>。

また、女性の金融へのアクセスは限定的であり、都市と地方にも大きな違いがないことが特徴的である。地方の女性で金融のアクセスがある女性は9%であるが、都市の女性では10.7%であった。また、支出五分位でも、貧困層と富裕層との格差はそれほど広がってはいない。したがって、女性の金融アクセスを妨げている主たる要因は、金融インフラや貧困の問題ではないことが推測できる<sup>108</sup>。

---

<sup>103</sup> Chet Aeschliman (2007) Financial Cooperatives in Rural Finance, Case Study : Burkina Faso's Caisse Populaire Network, p.4  
[http://www.ruralfinance.org/fileadmin/templates/rflc/documents/1178721168497\\_Burkina\\_Faso.pdf](http://www.ruralfinance.org/fileadmin/templates/rflc/documents/1178721168497_Burkina_Faso.pdf)  
(2014年1月6日アクセス)

<sup>104</sup> Chet Aeschliman (2007) Financial Cooperatives in Rural Finance, Case Study : Burkina Faso's Caisse Populaire Network, p.6

<sup>105</sup> Chet Aeschliman (2007) Financial Cooperatives in Rural Finance, Case Study : Burkina Faso's Caisse Populaire Network, p.6

<sup>106</sup> Chet Aeschliman (2007) Financial Cooperatives in Rural Finance, Case Study : Burkina Faso's Caisse Populaire Network, p.6

<sup>107</sup> Chet Aeschliman (2007) Financial Cooperatives in Rural Finance, Case Study : Burkina Faso's Caisse Populaire Network, p.7

<sup>108</sup> Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guené (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité

図表 55 女性の金融へのアクセス及び貯蓄（2010年）

Tableau 18: Accès aux crédits et épargne des femmes en 2010

	Proportions d'accès au crédit (%)	Proportions de femmes épargnantes (%)
<b>National</b>	9,5	40,6
<b>Région</b>		
Hauts Bassins	11,3	43,6
Boucle du Mouhoun	4,6	25,7
Sahel	10,8	26,9
Est	5,6	65,0
Sud-ouest	14,2	66,9
Centre Nord	8,1	32,7
Centre Ouest	9,4	33,5
Plateau Central	7,9	50,6
Nord	11,8	35,8
Centre Est	6,6	47,5
Centre	11,3	41,2
Cascades	9,8	34,6
Centre Sud	15,0	36,4
<b>Milieu de résidence</b>		
Rural	9,0	42,2
Urbain	10,7	36,1
<b>Quintile des dépenses</b>		
Quintile 1	8,1	38,6
Quintile 2	9,7	41,3
Quintile 3	9,3	38,5
Quintile 4	9,8	40,6
Quintile 5	10,3	43,9

（出所）Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.53

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf)（2014年1月6日アクセス）

女性の金融アクセスが困難な原因としては、正式の金融機関からの借り入れの場合、女性が担保等の借り入れ条件を満たすことが難しいことが指摘されている。これは女性に対する資源や所得の配分が適切に行われていないためである。また、女性の識字率や教育程度が低いこと、さらに移動手段が限定的であることが、女性の金融へのアクセスのみならず、農業投入資材や設備へのアクセスを妨げているといえる<sup>109</sup>。

et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010, p.53

[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf)（2014年1月6日アクセス）

<sup>109</sup> Ministère de l'économie et des finances (2008) Etude pour la formulation de la politique nationale genre du Burkina Faso, Tome I : Etude diagnostique, Draft 3, pp.77-78, <http://www.synerggenre.org>（2014年1月6日アクセス）

## 添付 1. 参考文献リスト

- Ministère de l'économie et du développement (2004) Cadre Stratégique de Lutte Contre la Pauvreté, <http://www.pnud.bf/docs/cslp.pdf> (2014年1月6日アクセス)
- Ministère de l'économie et des finances, Stratégie de Croissance Accélérée de Développement Durable, [http://www.pnud.bf/DOCS/scadd\\_vfinal.pdf](http://www.pnud.bf/DOCS/scadd_vfinal.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Burkina Faso(2004) Stratégie de Développement Rural  
[http://www.inter-reseaux.org/IMG/pdf\\_DSDR\\_definitif.pdf](http://www.inter-reseaux.org/IMG/pdf_DSDR_definitif.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Ministère de l'économie et des finances(2008) Etude pour la formulation de la politique nationale genre du Burkina Faso, Tome I : Etude diagnostique, Draft 3,  
<http://www.synergenre.org> (2014年1月6日アクセス)
- Ministère de l'économie et des finances(2009) Lettre de politique de développement rural décentralisé, 2<sup>ème</sup> édition  
[http://www.finances.gov.bf/files/LPDRD\\_2e\\_edition-2.pdf](http://www.finances.gov.bf/files/LPDRD_2e_edition-2.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Ministère de la promotion de la femme(2009) Document de la politique nationale genre du Burkina Faso  
<http://countryoffice.unfpa.org/burkinafaso/drive/PolitiqueNationaleGenre2009.pdf> (2014年1月6日アクセス)
- Ministère de l'environnement et du cadre de vie(2007) Programme d'action national d'adaptation à la variabilité et aux changements climatiques,  
<http://unfccc.int/resource/docs/napa/bfa01f.pdf> (2014年1月6日アクセス)
- Ministère de l'économie et des finances/Institut National de la statistique et de la démographie(2010) Analyse de quelques résultats des données de la phase principale de l'enquête intégrale sur les conditions de vie des ménages, EICVM 2009  
[http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes\\_recensements/enq\\_cond\\_vie\\_menages/resultats\\_provisoires\\_eicvm.pdf](http://www.insd.bf/n/contenu/enquetes_recensements/enq_cond_vie_menages/resultats_provisoires_eicvm.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Burkina Faso(2012) Programme nationale du secteur rural (PNSR) 2011-2015  
<http://www.spcpsa.gov.bf/agriculture-burkina-le-pnsr/publications-pnsr>
- Ministère de l'éducation et de l'alphabétisation(2012) Tableau de bord de l'éducation de base, Année scolaire 2011/2012  
[http://cns.bf/IMG/pdf/tbe\\_national\\_2011\\_2012\\_f.pdf](http://cns.bf/IMG/pdf/tbe_national_2011_2012_f.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Ministère de l'éducation et de l'alphabétisation(2013) Annuaire statistique de l'éducation nationale 2012/2013  
[http://www.cns.bf/IMG/pdf/annuaire\\_du\\_primaire\\_2012-2013.pdf](http://www.cns.bf/IMG/pdf/annuaire_du_primaire_2012-2013.pdf) (2014年1月6日アクセス)

- Rapport pays de suivi de la mise en oeuvre des objectifs du millénaire pour le développement Burkina Faso, OMD en 2010, Mai 2010,  
[http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso\\_MDGReport\\_2010\\_FR.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/MDG/english/MDG%20Country%20Reports/Burkina%20Faso/Burkina%20Faso_MDGReport_2010_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Inondations du 1<sup>er</sup> Septembre 2009 au Burkina Faso, Evaluation des dommages, pertes et besoin de construction, de reconstruction et de relèvement  
[http://www.gfdr.org/sites/gfdr.org/files/documents/PDNA\\_BurkinaFaso\\_Sept-09\\_Report\\_FR.pdf](http://www.gfdr.org/sites/gfdr.org/files/documents/PDNA_BurkinaFaso_Sept-09_Report_FR.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Burkina Faso, African Economic Outlook 2012  
<http://www.africaneconomicoutlook.org/fileadmin/uploads/aeo/PDF/Burkina%20Faso%20Full%20PDF%20Country%20Note.pdf> (2014年1月6日アクセス)
- Banque de France, Rapport annuels de la Zone francs 2010, p.46  
[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/zonefr/Impact-de-la-crise-en-RCI-sur-les-perspectives-economiques-d-e-l-UEMOA-en-2011.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/zonefr/Impact-de-la-crise-en-RCI-sur-les-perspectives-economiques-d-e-l-UEMOA-en-2011.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2011  
[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/zonefr/2011/2-Burkina-Faso.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/zonefr/2011/2-Burkina-Faso.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Banque de France, Rapport annuel de la Zone francs 2012  
[https://www.banque-france.fr/fileadmin/user\\_upload/banque\\_de\\_france/Eurosysteme\\_et\\_international/2.\\_Burkina\\_Faso.pdf](https://www.banque-france.fr/fileadmin/user_upload/banque_de_france/Eurosysteme_et_international/2._Burkina_Faso.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies (2012) Revised Emergency Appeal, Burkina Faso : Complex emergency (Formerly food insecurity)  
<http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/Revised%20Emergency%20Appeal%20Burkina%20Faso.pdf> (2014年1月6日アクセス)
- IOM, Migration au Niger : Document thématique 2009, Les migrations au Niger :état des lieux, enjeux et perspectives  
[http://www.iomdakar.org/profiles/sites/default/files/migrations\\_enjeux\\_perspectives\\_niger\\_2009.pdf](http://www.iomdakar.org/profiles/sites/default/files/migrations_enjeux_perspectives_niger_2009.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- UNDP (2013) Human Development Report 2013  
[http://hdr.undp.org/sites/default/files/reports/14/hdr2013\\_en\\_complete.pdf](http://hdr.undp.org/sites/default/files/reports/14/hdr2013_en_complete.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- UNDP Explanatory note on 2013 HDR composite indices  
<http://hdr.undp.org/sites/default/files/Country-Profiles/BFA.pdf> (2014年1月6日アクセス)

- UNESCO (2006) Les enseignants et la qualité de l'éducation : suivi des besoins mondiaux d'ici 2015,  
<http://unesdoc.unesco.org/images/0015/001511/151139f.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- UNHCR (2013) Fact Sheet, 30 September 2013,  
<http://www.unhcr.org/4d919f369.html> (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- UNHCR (2013) Mali Situation Update No. 21  
<http://www.unhcr.org/5269310d9.html> (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- UNICEF (2010) Analyse de la situation de la pauvreté et de la vulnérabilité de l'enfant et de la femme au Burkina Faso  
[http://www.unicef.org/bfa/english/bf\\_analyse-de-la-pauvrete-de-l-enfant-2010\\_UNICEF\\_final.pdf](http://www.unicef.org/bfa/english/bf_analyse-de-la-pauvrete-de-l-enfant-2010_UNICEF_final.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- WFP/PAM (2012) Résumé exécutif évaluation approfondie post-sécheresse de la sécurité alimentaire des ménages, Burkina Faso,  
<http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/wfp254718.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- WFP (2012) Rapport d'évaluation approfondie sur la sécurité alimentaire des ménages en situation d'urgence (EFSA) dans 170 communes déclarées à risque d'insécurité alimentaire au Burkina Faso  
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp249892.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- WFP/PAM (2013) Evaluation approfondie sur la sécurité alimentaire en situation d'urgence dans les camps de réfugiés maliens et villages hôtes au Burkina Faso,  
<http://documents.wfp.org/stellent/groups/public/documents/ena/wfp256916.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- World Bank (2013) Doing Business 2014, Burkina Faso  
<http://www.doingbusiness.org/~media/giawb/doing%20business/documents/profiles/country/BFA.pdf> (2014 年 1 月 6 日アクセス)
- World Bank (2013) Burkina Faso Poverty Trends and Profile-2003-2009, A Policy Note 1  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161\\_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000356161_20130801141900/Rendered/PDF/691160v10ESW0P000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014 年 1 月 6 日アクセス)

- World Bank (2013) Burkina Faso Non-Monetary Poverty and Gender Inequalities 1993-2010 Trends, Policy Note 5  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037\\_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000333037_20130801143926/Rendered/PDF/691160v600ESW0000PUBLIC00Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- World Bank (2013) Burkina Faso What is Driving Cotton Production Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3a  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729\\_20130801150801/Rendered/PDF/691160v30ESW0P0n00PUBLIC0Box379794B.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729_20130801150801/Rendered/PDF/691160v30ESW0P0n00PUBLIC0Box379794B.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- World Bank (2013) Burkina Faso, Determinants of Cereal Production, Stochastic Frontier Approach for Panel Data, A Policy Note 3b  
[http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729\\_20130801151139/Rendered/PDF/691160v400ESW0000PUBLIC00Box3797940.pdf](http://www-wds.worldbank.org/external/default/WDSContentServer/WDSP/IB/2013/08/01/000445729_20130801151139/Rendered/PDF/691160v400ESW0000PUBLIC00Box3797940.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- AH Consulting (2010) Baseline Survey AGRA Interventions in Burkina Faso  
<http://www.agra.org/silo/files/final-report-for-baseline-survey-in-burkina-faso.pdf> (2014年1月6日アクセス)
- Cecilia Briceño-Garmendia, Carolina Dominguez-Torres (2011) Burkina Faso's Infrastructure, A Continental Perspective, Policy Research Working Paper, 5818  
<http://elibrary.worldbank.org/doi/pdf/10.1596/1813-9450-5818> (2014年1月6日アクセス)
- Chet Aeschliman (2007) Financial Cooperatives in Rural Finance, Case Study : Burkina Faso's Caisse Populaire Network  
[http://www.ruralfinance.org/fileadmin/templates/rflc/documents/1178721168497\\_Burkina\\_Faso.pdf](http://www.ruralfinance.org/fileadmin/templates/rflc/documents/1178721168497_Burkina_Faso.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Omar Merabet (2006) Termes de Référence pour une étude sur le profil migratoire de la Côte d'Ivoire, Rapport Final  
[http://eeas.europa.eu/delegations/cote\\_ivoire/documents/more\\_info/7\\_doc\\_fr.pdf](http://eeas.europa.eu/delegations/cote_ivoire/documents/more_info/7_doc_fr.pdf) (2014年1月6日アクセス)
- Yiriyibin Bambio (2011) "Burkina Faso" Sanket Mohapatra and Dilip Ratha ed., *Remittance Markets in Africa*  
[http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA\\_FullReport.pdf](http://siteresources.worldbank.org/EXTDECPROSPECTS/Resources/476882-1157133580628/RMA_FullReport.pdf) (2014年1月6日アクセス)

- Yélé Batana, John Cockburn, Hervé Jean-Louis Guéné (2012) Analyse de la Situation : Profil de l'équité et de la pauvreté des enfants et des femmes au Burkina Faso en 2010  
[http://www.unicef.org/bfa/french/analyse\\_de\\_la\\_situation\\_profil\\_de\\_la\\_pauvrete.pdf](http://www.unicef.org/bfa/french/analyse_de_la_situation_profil_de_la_pauvrete.pdf)  
(2014年1月6日アクセス)

## 添付 2. 主要な情報源リスト

- ・ JICA 研究所  
<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/data/Index/Africa/BurkinaFaso.pdf>

### ブルキナファソ国官庁

- ・ ブルキナファソ政府 <http://www.gouvernement.gov.bf/>
- ・ 財務省 <http://www.finances.gov.bf/>
- ・ 農業省 <http://www.agriculture.gov.bf/>
- ・ 保健省 <http://www.sante.gov.bf/>
- ・ 女性の地位向上省 <http://www.mpf.gov.bf/>

### 国際機関

- ・ 国連開発グループ 国別チーム ブルキナファソ  
<http://www.undg.org/unct.cfm?module=CoordinationProfile&page=Country&CountryID=BKF&fuseaction=UN%20Country%20Coordination%20Profile%20for%20Burkina+Faso>
- ・ 世界銀行（WB） ブルキナファソ  
<http://www.worldbank.org/en/country/burkinafaso>
- ・ 国連開発計画（UNDP） ブルキナファソ <http://www.pnud.bf/>
- ・ アフリカ開発銀行（AFDB） ブルキナファソ  
<http://www.afdb.org/en/countries/west-africa/burkina-faso/>
- ・ 国際連合食糧農業機関（FAO）  
<http://www.fao.org/isfp/country-information/burkina-faso/en/>

### 貧困データ

- ・ 世界銀行データ <http://donnees.banquemondiale.org/pays/BF>
- ・ UNDP 人間開発指標 ブルキナファソ  
<http://hdr.undp.org/en/countries/profiles/BFA>